卒業生等による大学教育評価報告書

−教育内容の改善・向上を目指して−

（令和７年度実施）

令和８年11月

香 川 大 学

目　次

第１章　卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要. 1
＜卒業生によるアンケート調査＞. 1
1. 調査の目的. 1
2. 調査実施期間. 1
3. 調査対象. 1
4. 調査内容・方法. 1

＜修了生によるアンケート調査＞. 1
1. 調査の目的. 1
2. 調査実施期間. 1
3. 調査対象. 1
4. 調査内容・方法. 1

＜企業等アンケート調査＞. 2
1. 調査の目的. 2
2. 調査実施期間. 2
3. 調査対象. 2
4. 調査内容・方法. 2

＜調査資料＞. 3
令和７年度実施香川大学卒業生等及び企業等アンケート用紙. 3

第２章　調査結果について. 63
＜卒業生によるアンケート調査＞. 63
１．全学的な視点からの分析. 63

２．学部に関する分析. 67
教育学部. 67
法学部. 69
経済学部. 73
医学部医学科. 77
医学部看護学科. 80
医学部臨床心理学科. 83
創造工学部. 86
農学部. 91

＜修了生によるアンケート調査＞ 95
１．全学的な視点からの分析 95

２．研究科に関する分析 99
法学研究科 99
経済学研究科 104
工学研究科 106
医学系研究科 111
農学研究科 115
教育学研究科 117
地域マネジメント研究科 119

＜企業等アンケート調査＞ 122
１．全学的な視点からの分析 122

第１章　卒業生等による大学教育評価アンケート調査の概要

＜卒業生によるアンケート調査＞

1. 調査の目的	本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することにより、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間	令和 7 年 8 月 12 日（火）～令和 7 年 9 月 30 日（火）
3. 調査対象	本学卒業後 3 年目（R4）及び 4 年目（R3）の卒業生 2,542 人 回答数は 519 人、回答率 20.4%
4. 調査内容・方法	アンケート調査の質問項目は、令和 5 年度と同じ項目を用いている。 アンケート調査は、教育企画課が中心となり、卒業生の在学中の保証人住所へアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式は Microsoft Forms で作成し、その URL 及び QR コードを知らせて Web で回答してもらうこととした。

＜修了生によるアンケート調査＞

1. 調査の目的	本学が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することにより、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間	令和 7 年 8 月 12 日（火）～令和 7 年 9 月 30 日（火）
3. 調査対象	本学修了後 3 年目（R4）及び 4 年目（R3）の修了生 496 人 回答数は 113 人、回答率 22.8%
4. 調査内容・方法	アンケート調査の質問項目は、令和 5 年度と同じ項目に加え、DRI 能力にかかる修得等についての項目を新規で追加した。 アンケート調査は、修了生の在学中の保証人住所へアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式は Microsoft Forms で作成し、その URL 及び QR コードを知らせて Web で回答してもらうこととした。

＜企業等アンケート調査＞

1. 調査の目的	本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにし、本学に対する要望を把握することにより、教育の改善に資することを目的とする。
2. 調査実施期間	令和 7 年 8 月 12 日（火）～令和 7 年 9 月 30 日（火）
3. 調査対象	令和 3 年度～令和 4 年度に卒業・修了した学生の就職先（卒業・修了時に学生から申し出があった就職先）1,121 機関 回答数は 239 機関、回答率は 21.3%
4. 調査内容・方法	アンケート調査の質問項目は、令和 5 年度と同じ項目を用いている。 アンケート調査は、学生の就職先の住所へアンケートに回答してもらうように文書で依頼した。アンケート様式は Microsoft Forms で作成し、その URL 及び QR コードを知らせて Web で回答してもらうこととした。

＜調査資料＞
令和７年度実施香川大学卒業生等及び企業等アンケート用紙

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【教育学部（学校教育教員養成課程)】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ⅴ．専門教育についてお尋ねします。

問 10. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
学校教育基礎研究(課程共通) 教職の意義や児童生徒の発達理解等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育実践研究 教科研究，学生生活研究や教育実習等	4	3	2	1	4	3	2	1
学校教育発展研究 専門領域選択科目や卒業研究等	4	3	2	1	4	3	2	1

問 11. あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

学校教育基礎研究(課程共通)

1．教職概論　　2．教育原論　　3．学校教育心理学・児童心理学等

4．教育社会学・教育統計学　　5．学校教育課程論・教育の方法と技術

学校教育実践研究

1．教科研究（学校基礎・教科教育コースは初等教科科目と初等教科教育法、幼児教育コースは幼・初等教科科目と保育内容の指導法、特別支援教育コースは特別支援教育に関する科目）

2．学校生活研究（道徳教育論・特別活動論・生徒指導論・学校教育相談学）

3．教育実地研究（教育実習・教育実践演習・教職実践演習等）

学校教育発展研究

1．各専門領域選択科目　　2．卒業研究

問 12. 学部開設科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で３つまで挙げてください。

（　　）（　　）（　　）

問 13. 在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で３つまで挙げてください。

（　　）（　　）（　　）

問 14. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	ややや不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問 15. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

4．満足している　3．ある程度満足している　2．あまり満足していない　1．満足していない

理由：〔　　〕

問 16. 教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【教育学部（人間発達環境課程)】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ⅴ．専門教育についてお尋ねします。

問１０．あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。また現在の仕事の中でどの程度役立っていますか。それぞれお答えください。

	専門科目に				現在の仕事に			
	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
基礎研究 発達と環境(課程共通)や基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
実践研究 各ｺｰｽの実践研究Ⅰ・Ⅱ(ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ)	4	3	2	1	4	3	2	1
発展研究 各ｺｰｽの選択科目・特別演習・卒業研究	4	3	2	1	4	3	2	1

問１１．あなたが在学中もっと勉強しておけば良かったと思う専門科目はどれですか。以下の中から当てはまるもの全てに○をつけてください。

基礎研究

１．発達と環境（課程共通：生涯発達心理学、ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ論、人間環境学Ⅰ・Ⅱ、国際社会論、多文化共生論）

２．基礎科目（発達臨床の基礎、人間環境教育の基礎、国際理解教育の基礎）

実践研究

１．各コースの実践研究Ⅰ・Ⅱ(インターンシップ)

発展研究

１．各コースの選択科目　　２．特別演習(ゼミ)　　３．卒業研究

問１２．学部開設科目でもっと勉強すべきだったと思う科目を最大で３つまで挙げてください。

（　　）　（　　）（　　）

問１３．在学中に勉強した専門科目で、現在役立っていると実感している科目を最大で３つまで挙げてください。

（　　）　（　　）（　　）

問１４．教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
教員の教授方法	4	3	2	1
教育実習など現場実習の充実	4	3	2	1

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
少人数によるゼミ形式の授業	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で教員と接する機会	4	3	2	1
講義室の学習環境	4	3	2	1
自学自習のための施設	4	3	2	1

問１５．総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。また、その理由をお書きください。

４．満足している　３．ある程度満足している　２．あまり満足していない　１．満足していない

理由：〔　　〕

問１６．教育学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。

（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、教育学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【法学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ⅴ．専門教育についてお尋ねします。

問１０．法学部に在学中、以下の事柄について、どの程度満足していましたか。

	満足していた	ある程度満足していた	やや不満だった	不満だった
法学部教員の授業への取組み（熱意など）	4	3	2	1
法学部教員の教授方法	4	3	2	1
授業の内容	4	3	2	1
少人数によるゼミ形式の授業（演習など）	4	3	2	1
法学部のカリキュラム全体について	4	3	2	1
勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会	4	3	2	1
法学部講義室の学習環境	4	3	2	1
法学部資料室の施設（蔵書、情報機器等）	4	3	2	1

問１１．以下に示すような法学部の各開講科目群は、これまでの職業生活に役立っていますか。また、社会生活全般ではどうですか。それぞれお答えください。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立ってない	役立ってない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立ってない	役立ってない
基礎ゼミ（1 年次後期科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
プロゼミ（2 年次科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
演習（3 年～4 年次必修科目）	4	3	2	1	4	3	2	1
基礎法系科目（法制史、法哲学、法社会学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
公法系科目（憲法、行政法、租税法、刑法、刑事	4	3	2	1	4	3	2	1
訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
私法系科目（民法、商法、民事訴訟法等）	4	3	2	1	4	3	2	1
政治系科目（政治過程論、公共選択論、行政学等）	4	3	2	1	4	3	2	1
国際系科目（国際法、国際私法、国際関係論等）	4	3	2	1	4	3	2	1
実務家による科目（損害保険の実務と法等）	4	3	2	1	4	3	2	1

問１２．以下に示すさまざまな能力は、法学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。

	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない
法律・法律学に関する知識	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1
法的なものの考え方（リーガル・マインド）	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1
他者と意見を交わす技能	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1

問１３．問１２に列挙した能力は、仕事を進める上でどの程度必要とされますか。また、社会生活全般ではどうですか。それぞれお答えください。

	仕事進める上で				社会生活全般で			
	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
法律・法律学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
政治・政治学に関する知識	4	3	2	1	4	3	2	1
経済活動に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
社会一般に関する知識や関心	4	3	2	1	4	3	2	1
現代社会への自分なりの視点	4	3	2	1	4	3	2	1
歴史的視点	4	3	2	1	4	3	2	1
幅広い視野	4	3	2	1	4	3	2	1
国際的視野	4	3	2	1	4	3	2	1
情報を収集・処理する力	4	3	2	1	4	3	2	1
問題を発見し解決する力	4	3	2	1	4	3	2	1
論理的に考える力	4	3	2	1	4	3	2	1
法的なものの考え方（ﾘｰｶﾞﾙﾏｲﾝﾄﾞ）	4	3	2	1	4	3	2	1
人前で報告する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
他者と意見を交わす技能	4	3	2	1	4	3	2	1
論点を整理し、議論をまとめる技能	4	3	2	1	4	3	2	1
文書等を作成する技能	4	3	2	1	4	3	2	1
自主的に学び続ける力	4	3	2	1	4	3	2	1

問１４．受講して有益だったと考える法学部開講科目を最大３つまで挙げてください。

（　　）（　　）（　　）

問１５．在学中にもっと学んでおくべきであったと考える授業科目ないし学問分野を最大３つまで挙げてください（法学部の開講科目や法学・政治学等の学問分野に限定する必要は必ずしもありません)。

（　　）（　　）（　　）

問１６．総合的にみて、法学部で学んだことについての満足度はどうですか。

４．満足している　　３．ある程度満足している　　２．やや不満だった　　１．不満だった

問１７．法学部のカリキュラム等について、自由にご意見をお書きください。
（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【経済学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ⅴ．　専門教育についてお尋ねします。

問１０．以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学部の専門教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
経済についての知識	4	3	2	1	2	1
統計についての知識	4	3	2	1	2	1
金融についての知識	4	3	2	1	2	1
会計についての知識	4	3	2	1	2	1
経営についての知識	4	3	2	1	2	1
商学・マーケティングについての知識	4	3	2	1	2	1
観光についての知識	4	3	2	1	2	1
地域の活性化についての知識	4	3	2	1	2	1
世界各地域の経済についての知識	4	3	2	1	2	1
人類の文化および社会についての幅広い知識	4	3	2	1	2	1
定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
複眼的な思考力	4	3	2	1	2	1
チャレンジ精神や行動力	4	3	2	1	2	1
コミュニケーション力	4	3	2	1	2	1
課題探求・解決力	4	3	2	1	2	1

問１１．以下に示す活動を通して身につけた知識や能力、経験は、これまでの職業経験の中で、どの程度、役立っていますか。

	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	役立っていない	参加していない
演習・個別演習	4	3	2	1	
卒業論文の執筆	4	3	2	1	
学生チャレンジプロジェクト	5	4	3	2	1
専門履修プログラム	5	4	3	2	1
実践型／地域インターンシップ	5	4	3	2	1
海外研修・留学	5	4	3	2	1

問１２．数年間の社会人生活を経た現在の立場から、大学時代にもっと勉強しておけばよかったと思う分野や科目があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【医学部（医学科）】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ⅴ．あなた自身についてお尋ねします。

問１０．あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：（　　）都・道・府・県　　現在：（　　）都・道・府・県

問１１．現在のあなたの職種・就業状況は次のどれですか。（複数該当する場合は、主要なもの一つに○をつけて下さい。）

１．臨床医（勤務医）　２．臨床医（開業医）　３．研修医（前期・後期）　４．教育・研究職（大学等の助教以上）
５．非常勤医　６．大学院生　７．無職　８．その他（　　）

問１２.と問１３.は、問１１.で、１～６と回答した方にお聞きします。

問１２．現在所属している講座または診療科は次のどれですか。

研修医の方は、将来志望する科をお答え下さい。
１．基礎医学系　２．内科系　３．外科系　４．社会医学系　５．その他（　　）

問１３．現在の勤務場所は次のどれですか。

１.大学を含む教育機関（大学附属病院を含む）　２.病院　３.診療所　４.福祉施設　５.その他（　　）

Ⅵ．在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問１４．あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

医学部の教育について	4.満足だった	3.ある程度満足だった	2.やや不満だった	1.不満だった

	シラバスの充実度（教育内容や評価法などが適切に記載されていたか）	教育法（講義・実習の内容が適切に行われたか）	学習法（授業ガイダンスなど科目ごとに学習法についての説明が当該科目の教員からあったか）	カリキュラム（講義や実習の進度、スケジュールやボリュームが適切であったか）	評価法（出席・レポート・試験等）が適切で、シラバスに記載された通りに行われたか）
教養科目（全学共通科目）	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
外国語科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
基礎医学系科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
社会医学系科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1
臨床医学系科目	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1	4 3 2 1

医学部での学習・生活支援				
	満足だった	ある程度満足だった	ややや不満だった	不満だった
授業以外で教員と接する機会	4	3	2	1
指導教員制度	4	3	2	1
図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
学生の交流スペース	4	3	2	1
クラブ・サークル関係施設・設備等	4	3	2	1
自習室	4	3	2	1

問１５．以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。それぞれお答えください。

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
医学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探求能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医学の視点から、問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀、社会的責任	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問１６．

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1

問１７．国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

問１８．

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【医学部（看護学科)】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ⅴ．あなた自身についてお尋ねします。

問１０．あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：（　　）都・道・府・県　　現在：（　　）都・道・府・県

問１１．現在のあなたの職種は次のどれですか。

１．看護師　２．保健師　３．助産師　４．養護教諭　５．看護教員
６．大学院生　７．無職　８．その他（　　）

問１２．現在の勤務場所は次のどれですか。

１．大学を含む看護師教育機関　２．大学附属病院　３．病院
４．診療所　５．福祉施設　６．地方公共団体（保健所を含む）
７．小・中・高校　８．訪問看護　９．その他（　　）

問１３．現在の就業状況についてお答えください。（無職の方を除く）

１．　正規雇用で働いている
２．　非正規雇用で働いている（非常勤職員、パート等を含む）

Ⅵ．在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問１４．あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった
大学教育				
専門基礎科目全般（解剖学・生理学・微生物学・薬剤療養学・栄養学・基礎保健学・疫学など）	4	3	2	1
専門科目全般（臨地実習を除く）	4	3	2	1
臨地実習科目全般	4	3	2	1
学習・生活支援				
授業以外で教員と接する機会	4	3	2	1
指導教員制度	4	3	2	1
図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
学生の交流スペース	4	3	2	1
クラブ・サークル関係施設・設備等	4	3	2	1
自習室	4	3	2	1

問１５．以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。

（専門教育全般）

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
看護学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
看護学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探求能力	4	3	2	1	4	3	2	1
看護の視点から問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
医療職者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
医療人に求められるモラルや礼儀	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問１６．

国家資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1

問１７．国家資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

問１８．

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【医学部（臨床心理学科)】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ⅴ．あなた自身についてお尋ねします。

問１０．あなたの大学入学時の自宅所在地（都道府県名）と、現在の自宅所在地（都道府県名）をお答えください。

入学時：（　　）都・道・府・県　　現在：（　　）都・道・府・県

問１１．現在のあなたの職種・身分は次のどれですか。（複数回答可）

１．心理援助職　２．教員　３．大学院生（修士課程）　４．大学院生（博士課程）　５．無職
６．その他（　　）

問１２．勤務されている場合、現在の勤務場所は次のどれですか。（複数回答可）

１．大学を含む教育機関　２．大学附属病院　３．病院・診療所
４．児童相談所　５．裁判所　６．少年鑑別所
７．小・中・高校　８．地方公共団体（保健所を含む）　９．その他（　　）

問１３．学生の場合、在籍している学校名・専攻等をお答えください。

（学校名：　　）
（専攻等：　　）

Ⅵ．在学当時の学習や活動についてお尋ねします。

問１４．あなたは以下の項目についてどの程度満足していましたか。

	満足だった	ある程度満足だった	やや不満だった	不満だった
大学教育				
全学共通科目	4	3	2	1
心理系専門科目	4	3	2	1
社会学系専門科目	4	3	2	1
医学系専門科目	4	3	2	1
ゼミ・卒業研究	4	3	2	1
学習・生活支援				
授業以外で教員と接する機会	4	3	2	1
指導教員制度	4	3	2	1
図書館の施設や蔵書	4	3	2	1
情報処理関係施設や機器	4	3	2	1
学生の交流スペース	4	3	2	1
クラブ・サークル関係施設・設備等	4	3	2	1
自習室	4	3	2	1

問１５．以下に示すさまざまな能力は大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、現在の仕事の中でどの程度必要とされていますか。

（専門教育全般）

	大学教育で				現在の仕事で			
	身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない	必要	ある程度必要	あまり必要ない	必要ない
臨床心理学の基礎知識	4	3	2	1	4	3	2	1
臨床心理学の基本的技術	4	3	2	1	4	3	2	1
科学的分析力と探求能力	4	3	2	1	4	3	2	1
心理援助者の視点から問題を総合的に分析・判断・解決する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力	4	3	2	1	4	3	2	1
患者・家族と人間関係を形成する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
心理援助者間で協働・連携する能力	4	3	2	1	4	3	2	1
人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成	4	3	2	1	4	3	2	1
心理援助者に求められるモラルや礼儀	4	3	2	1	4	3	2	1
専門職業人として生涯自己研鑽する能力	4	3	2	1	4	3	2	1

問１６．

資格の取得に必要な教育が行われていましたか。	行われていた 4	ある程度行われていた 3	あまり行われていなかった 2	行われていない 1

問１７．資格の取得に必要な教育・指導体制として、大学が今後取り入れたら良いと思う事柄について、ご記入下さい。

問１８．

総合的にみて、本学医学部で学んだことについての満足度はどうですか。	満足している 4	ある程度満足している 3	やや不満だった 2	不満だった 1

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【工学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ｖ．専門教育についてお尋ねします。

問１０．以下に示すさまざまな能力や知識等については、香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかと言えば身についた	どちらかと言えば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
言語運用能力						
論理的かつ客観的な文書を作成することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な情報を適切に利用し，効果的なプレゼンテーションを行うことができる力	4	3	2	1	2	1
工学的な課題について，基礎的な数理法則を用いて分析することができる力	4	3	2	1	2	1
英語による情報収集能力，コミュニケーション能力	4	3	2	1	2	1
国際的視野を持ち，世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
自然科学の基礎知識およびその基本原理の理解	4	3	2	1	2	1
工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識	4	3	2	1	2	1
人間，社会，環境についての多角的な視点	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探求能力						
自主的，継続的に学習し，新たな課題を探求することができる力	4	3	2	1	2	1
専門分野において課題を認識し，その解決に向けて企画，立案し，遂行することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な制約の下で，専門知識，技術を用いて，必要に応じ他者と協力して問題を解決することができる力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力	4	3	2	1	2	1
工学倫理に則って，技術者としての社会的役割を担うことができる力	4	3	2	1	2	1
地域理解						
地域の現状と課題に関心を持ち，自己と関連づけて問題を発見し，探求することができる力	4	3	2	1	2	1

問１１．　工学部のカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。
（学部教育においてもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組みなど）

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【創造工学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ｖ．専門教育についてお尋ねします。

問１０．以下に示すさまざまな能力や知識等は、香川大学工学部の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
言語運用能力						
論理的かつ客観的な文書を作成することができる力	4	3	2	1	2	1
多様な情報を適切に利用し，効果的なプレゼンテーションを行うことができる力	4	3	2	1	2	1
工学的な課題について，基礎的な数理法則を用いて分析することができる力	4	3	2	1	2	1
英語による情報収集能力，コミュニケーション能力	4	3	2	1	2	1
国際的視野を持ち，世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力	4	3	2	1	2	1
知識・理解						
自然科学の基礎知識およびその基本原理の理解	4	3	2	1	2	1
工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識	4	3	2	1	2	1
人間，社会，環境についての多角的な視点	4	3	2	1	2	1
問題解決・課題探求能力						
自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力	4	3	2	1	2	1
様々なリスクを把握・抽出し事前に対応策を講じ、想定外の事態にも対応することができる力	4	3	2	1	2	1
専門分野において課題を認識し、多様な制約の下で、専門知識、技術を用いてチームとして問題を検討し、製品と利用者・社会との相互作用的な関わり及びリスク対応を含めた総合的な価値の創造につながる設計（デザイン）を企画、立案し、それを試作評価することができる力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力	4	3	2	1	2	1
高い倫理観を持ち、技術者としての社会的役割を担うことができる。	4	3	2	1	2	1
地域理解						
地域の現状と課題に関心を持ち，自己と関連づけて問題を発見し，探求することができる力	4	3	2	1	2	1

問１１．　創造工学部のカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。
（創造工学部がもっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組みなど）

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学卒業生調査【農学部】

この調査は、本学が提供する大学教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身学部・学科および入学年を記入してください。
（　　）学部（　　）学科（　　）課程（講座）等　西暦（　　）年入学

問２．あなたの学籍番号を記入してください。
※「卒業生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。
【　　】

問３．あなたの性別をお答えください。
１．男　　２．女　　３．その他

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問４．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。
１．正規雇用で働いている →問５へお進みください。
２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）→問５へお進みください。
３．働いていない →問７へお進みください。

問５．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。
１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係　４．情報・通信関係
５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係　７．マスコミ・出版関係
８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）　１０．教育関係　１１．その他

問６．あなたは現在の職業に満足していますか。
１．満足している　２．ある程度満足している　３．あまり満足していない　４．満足していない

問７．転職、あるいは離職の経験はありますか。
１．ある（転職・離職の時期：　　）
（理由：　　）
２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい
（理由：　　）
３．ない

Ⅲ．大学教育とこれまでの職業経験との関係についてお尋ねします。

問８．あなたは大学在学中に以下のことがらにどの程度取り組んでいましたか。

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
授業（授業時間中）	4	3	2	1
授業と関係ある学習（予習・復習、宿題・レポート、試験勉強など）	4	3	2	1
将来を見据えた学習（資格取得（国家試験を含む）に向けた学習など）	4	3	2	1
学生が行う主体的な活動（夢ﾁｬﾚﾝｼﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ、国際交流活動など）	4	3	2	1
インターンシップ（体験型、実践型、自主開拓などすべての形態を含む）	4	3	2	1
サークル・クラブ活動	4	3	2	1

	熱心に取り組んだ	どちらかといえば熱心に取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった
アルバイト等の仕事経験	4	3	2	1

問９．以下に示すさまざまな能力は、大学教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
1. 物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	2	1
2. 自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	2	1
3. 日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
4. 日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
5. 特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	2	1
6. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	2	1
7. 特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	2	1
8. 特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	2	1
9. 情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
10. 様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
11. 幅広い知識や教養	4	3	2	1	2	1
12. 専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	2	1
13. 専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	2	1
14. 職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	2	1
15. 現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
16. 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	2	1
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	2	1
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	2	1
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	2	1
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	2	1

Ⅳ. これまでの職業経験（社会生活含む）において、香川大学、あるいはあなたの出身学部が良かったと思う点、もっと重視したり改善したりした方が良いと思う点がございましたら、ご自由にお書きください。

Ｖ．農学部での専門教育についてお尋ねします。

問１０．あなたは在学中に以下の項目にどの程度充実（満足）していましたか。

	充実していた	ある程度充実していた	やや充実していなかった	充実していなかった
専門教育				
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1
学習・生活支援				
農学部教員との交流	4	3	2	1
農学部における友人との交流	4	3	2	1
農学部における学生相談窓口	4	3	2	1

問１１．以下に示す農学部での学習や経験は、これまでの職業生活に役立っていますか。
また、社会生活全般に役立っていますか。それぞれお答え下さい。

	これまでの職業生活に				社会生活全般に			
	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない	役立っている	ある程度役立っている	あまり役立っていない	役立っていない
専門教育								
導入ならびに共通基礎科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース専門科目	4	3	2	1	4	3	2	1
共通展開科目	4	3	2	1	4	3	2	1
コース実験またはフィールド実習	4	3	2	1	4	3	2	1
課題研究	4	3	2	1	4	3	2	1
インターンシップ（該当者のみ）	4	3	2	1	4	3	2	1
学生生活								
研究室での活動	4	3	2	1	4	3	2	1
就職活動	4	3	2	1	4	3	2	1
友人との交流	4	3	2	1	4	3	2	1

問１２．受講して有益だったと考える農学部開講科目を最大三つまで挙げてください。

（　　）
（　　）
（　　）

問１３．総合的にみて、農学部で学んだことについての満足度はどうですか。

４．満足している
３．ある程度満足している
２．やや不満だった
１．不満だった

問１４．農学部の授業やカリキュラムについて自由にご意見をお書き下さい。

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学大学院修了生調査【法学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

（　　）研究科（　　）課程（　　）専攻（　　）年修了

問２．あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。

【　　】

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問３．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

１．正規雇用で働いている →問４へお進みください。

２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問４へお進みください。

３．働いていない →問６へお進みください。

問４．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

１．農林・水産関係　　２．建設・機械関係　　３．食品・化学関係　　４．情報・通信関係

５．商社・金融関係　　６．販売・サービス関係　　７．マスコミ・出版関係

８．保健・衛生・医療関係　　９．公務員（国・地方自治体）　　１０．教育関係　　１１．その他

問５．あなたは現在の職業に満足していますか。

１．満足している　　２．ある程度満足している　　３．あまり満足していない　　４．満足していない

問６．転職、あるいは離職の経験はありますか。

１．ある　　２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい　　３．ない

Ⅲ．大学院教育についてお尋ねします。

問７．以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1

問８．大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いにそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ．法学研究科についてお尋ねします。

問９－１．法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。

1. 大いにそう思う　2. ややそう思う　3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない　5. 全くそう思わない

問９－２．具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問１０－１．法学研究科での教育・研究は、（職業に関することは別に）社会生活において有益でしたか。

1. 大いにそう思う　2. ややそう思う　3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない　5. 全くそう思わない

問１０－２．具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問１１．法学研究科で受講した授業で、職業生活や社会生活において有益だったと思う科目を挙げてください。（幾つ挙げても構いません。また、理由もお書き添えください。）

問１２．開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。

1. 研究方法に関する授業　2. 実務に関する授業
3. 資格試験対策のための授業　4. 専門以外の教養を高める授業
5. その他（　　）　6. 特にない

問１３．総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。

４．満足している　　３．ある程度満足している　　２．やや不満だった　　１．不満だった

問１４．法学研究科での研究・学習全般について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学大学院修了生調査【経済学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

（　　）研究科（　　）課程（　　）専攻（　　）年修了

問２．あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。

【　　】

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問３．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

１．正規雇用で働いている →問４へお進みください。

２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問４へお進みください。

３．働いていない →問６へお進みください。

問４．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

１．農林・水産関係　　２．建設・機械関係　　３．食品・化学関係　　４．情報・通信関係

５．商社・金融関係　　６．販売・サービス関係　　７．マスコミ・出版関係

８．保健・衛生・医療関係　　９．公務員（国・地方自治体）　　１０．教育関係　　１１．その他

問５．あなたは現在の職業に満足していますか。

１．満足している　　２．ある程度満足している　　３．あまり満足していない　　４．満足していない

問６．転職、あるいは離職の経験はありますか。

１．ある　　２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい　　３．ない

Ⅲ．大学院教育についてお尋ねします。

問７．以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1

問８．大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いにそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ. 経済学研究科についてお尋ねします。

問９．　以下に示すさまざまな知識や能力は、経済学研究科の教育課程を通じて、どの程度、身につきましたか。
また、それらは、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
経済についての知識	4	3	2	1	2	1
統計についての知識	4	3	2	1	2	1
金融についての知識	4	3	2	1	2	1
会計についての知識	4	3	2	1	2	1
経営についての知識	4	3	2	1	2	1
商学・マーケティングについての知識	4	3	2	1	2	1
観光についての知識	4	3	2	1	2	1
地域の活性化についての知識	4	3	2	1	2	1
世界各地域の経済についての知識	4	3	2	1	2	1
人類の文化および社会についての幅広い知識	4	3	2	1	2	1
定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力	4	3	2	1	2	1
複眼的な思考力	4	3	2	1	2	1
チャレンジ精神や行動力	4	3	2	1	2	1

コミュニケーション力	4	3	2	1	2	1
課題探求・解決力	4	3	2	1	2	1

問 10. 以下に示す活動を通して身につけた知識や能力、経験は、これまでの職業経験の中で、どの程度役立っていますか。

	役立っている	どちらかといえば役立っている	どちらかといえば役立っていない	役立っていない	参加していない
個別演習・副演習	4	3	2	1	
修士論文の執筆	4	3	2	1	
プロジェクト活動	5	4	3	2	1
実践型／地域インターンシップ	5	4	3	2	1
海外研修・留学	5	4	3	2	1

問 11. 数年間の社会人生活を経た現在の立場から、大学院時代にもっと勉強しておけばよかったと思う分野や科目があれば、ご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学大学院修了生調査【工学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

（　　）研究科（　　）課程（　　）専攻（　　）年修了

問２．あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。

【　　】

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問３．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

１．正規雇用で働いている →問４へお進みください。

２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問４へお進みください。

３．働いていない →問６へお進みください。

問４．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

１．農林・水産関係　　２．建設・機械関係　　３．食品・化学関係　　４．情報・通信関係

５．商社・金融関係　　６．販売・サービス関係　　７．マスコミ・出版関係

８．保健・衛生・医療関係　　９．公務員（国・地方自治体）　　１０．教育関係　　１１．その他

問５．あなたは現在の職業に満足していますか。

１．満足している　　２．ある程度満足している　　３．あまり満足していない　　４．満足していない

問６．転職、あるいは離職の経験はありますか。

１．ある　　２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい　　３．ない

Ⅲ．大学院教育についてお尋ねします。

問７．以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1

問８．大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いにそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ．工学研究科についてお尋ねします。

問９．以下に示すさまざまな能力や知識等については、工学研究科の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかと言えば身についた	どちらかと言えば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
専門知識・理解						
自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術	4	3	2	1	2	1
研究能力・応用力						
課題探求能力と高度な問題解決能力	4	3	2	1	2	1
持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力	4	3	2	1	2	1
倫理観・社会的責任						
社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観	4	3	2	1	2	1
グローバルマインド						
論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力	4	3	2	1	2	1

問 10．授業や教育に関する要望、あるいは改善へのご意見などがありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学大学院修了生調査【医学系研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

（　　）研究科（　　）課程（　　）専攻（　　）年修了

問２．あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。

【　　】

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問３．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

１．正規雇用で働いている →問４へお進みください。

２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問４へお進みください。

３．働いていない →問６へお進みください。

問４．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

１．農林・水産関係　　２．建設・機械関係　　３．食品・化学関係　　４．情報・通信関係

５．商社・金融関係　　６．販売・サービス関係　　７．マスコミ・出版関係

８．保健・衛生・医療関係　　９．公務員（国・地方自治体）　　１０．教育関係　　１１．その他

問５．あなたは現在の職業に満足していますか。

１．満足している　　２．ある程度満足している　　３．あまり満足していない　　４．満足していない

問６．転職、あるいは離職の経験はありますか。

１．ある　　２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい　　３．ない

Ⅲ．大学院教育についてお尋ねします。

問７．以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1

問８．大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いにそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ．医学系研究科についてお尋ねします。

問９．全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。
5. 大いにそう思う　4. ややそう思う　3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない　1. 全くそう思わない

問 10. 大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。(在学時、社会人だった方のみ回答ください)
5. 大いにそう思う　4. ややそう思う　3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない　1. 全くそう思わない

問 11. 大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。
5. 大いにそう思う　4. ややそう思う　3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない　1. 全くそう思わない

(医学専攻：問 12)
問 12. 大学院研究で身につけた考え方、知識、手技が今後の診療で有用ですか。(診療に携わっている方または、今後診療を行う予定の方のみ回答ください)
5. 大いにそう思う　4. ややそう思う　3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない　1. 全くそう思わない

(看護学専攻：問 13)
問 13. 大学院（修士課程）で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。
5. 大いにそう思う　4. ややそう思う　3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない　1. 全くそう思わない

(臨床心理学専攻：問 14)
問 14. 大学院（修士課程）で身につけた考え方、知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。
5. 大いにそう思う　4. ややそう思う　3. どちらともいえない
2. あまりそう思わない　1. 全くそう思わない

問 15. 医学系研究科独自の自由記述欄

（１）大学院での教育・研究の実績を今後どのように生かそうと考えていますか。

（２）大学院での教育・研究において、改善すべき点、良かった点を記載ください。
[改善すべき点]

[良かった点]

（３）自由記述欄

令和７年度実施 香川大学大学院修了生調査【農学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

（　　）研究科（　　）課程（　　）専攻（　　）年修了

問２．あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。

【　　】

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問３．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

１．正規雇用で働いている →問４へお進みください。

２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問４へお進みください。

３．働いていない →問６へお進みください。

問４．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

１．農林・水産関係　　２．建設・機械関係　　３．食品・化学関係　　４．情報・通信関係

５．商社・金融関係　　６．販売・サービス関係　　７．マスコミ・出版関係

８．保健・衛生・医療関係　　９．公務員（国・地方自治体）　　１０．教育関係　　１１．その他

問５．あなたは現在の職業に満足していますか。

１．満足している　　２．ある程度満足している　　３．あまり満足していない　　４．満足していない

問６．転職、あるいは離職の経験はありますか。

１．ある　　２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい　　３．ない

Ⅲ．大学院教育についてお尋ねします。

問７．以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1

問８．大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いにそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ．農学研究科についてお尋ねします。

問９．農学研究科の教育・研究は、以下に示す項目の習得および能力の向上に有用でしたか。

	大いにそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない
研究開発マインドの習得	5	4	3	2	1
高度専門職業人となるための幅広い知識の習得	5	4	3	2	1
自ら立案する課題設定能力	5	4	3	2	1
課題を解決するために必要な情報の収集能力	5	4	3	2	1
課題を解決するための手法の探索と遂行能力	5	4	3	2	1
得られた結果に基づいた解析能力	5	4	3	2	1
課題の全容を論理的に取りまとめる能力	5	4	3	2	1
日本語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
英語によるコミュニケーション能力	5	4	3	2	1
日本語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
英語によるプレゼンテーション能力	5	4	3	2	1
グローバルマインドの習得	5	4	3	2	1

問 10．農学研究科の専門教育について、どの程度充実していましたか？

	充実していた	ある程度充実していた	どちらともいえない	やや充実していなかった	充実していなかった
基礎科目 （科学研究リテラシー，ベーシック国際研究コミュニケーション，応用生物科学クロストークセミナー）	5	4	3	2	1
希少糖共通科目 （希少糖イノベーション，希少糖植物科学特論， 希少糖応用生命科学特論，希少糖食品科学特論）	5	4	3	2	1
展開科目 （応用生物科学先進科学セミナー，修士インターンシップ，国際修士インターンシップ，アドバンスド国際研究コミュニケーション，国際研究実践コミュニケーション）	5	4	3	2	1
専門科目 （○○特論など）	5	4	3	2	1
専門科目 （専攻セミナーI～III）	5	4	3	2	1
研究科目 （修士研究 I～IV，修士論文）	5	4	3	2	1
研究科目 （国際研究 A・B）　*研究留学	5	4	3	2	1
研究科目 （実践研究）　*社会人学生	5	4	3	2	1

令和７年度実施 香川大学大学院修了生調査【教育学研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

（　　）研究科（　　）課程（　　）専攻（　　）年修了

問２．あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。

【　　】

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問３．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

１．正規雇用で働いている →問４へお進みください。

２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問４へお進みください。

３．働いていない →問６へお進みください。

問４．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

１．農林・水産関係　　２．建設・機械関係　　３．食品・化学関係　　４．情報・通信関係

５．商社・金融関係　　６．販売・サービス関係　　７．マスコミ・出版関係

８．保健・衛生・医療関係　　９．公務員（国・地方自治体）　　１０．教育関係　　１１．その他

問５．あなたは現在の職業に満足していますか。

１．満足している　　２．ある程度満足している　　３．あまり満足していない　　４．満足していない

問６．転職、あるいは離職の経験はありますか。

１．ある　　２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい　　３．ない

Ⅲ．大学院教育についてお尋ねします。

問７．以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1

問８．大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いにそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ．教育学研究科についてお尋ねします。

問９－１．教育学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。

1. 大いにそう思う　2. ややそう思う　3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない　5. 全くそう思わない

問９－２．具体的にどのような点で、そのように思われますか。可能な範囲でお書きください。

問１０－１．教育学研究科での教育・研究は、（職業に関することは別に）社会生活において有益でしたか。

1. 大いにそう思う　2. ややそう思う　3. どちらともいえない
4. あまりそう思わない　5. 全くそう思わない

問１０－２．具体的にどのような点で、そのように思われますか。

問１１．総合的にみて、教育学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。

４．満足している　３．ある程度満足している　２．やや不満だった　１．不満だった

問１２．教育学研究科の研究・学習全般について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

ご協力大変ありがとうございました。

令和７年度実施 香川大学大学院修了生調査【地域マネジメント研究科】

この調査は、本学大学院が提供する大学院教育の成果・効果を明らかにするとともに、本学大学院に対する要望を把握することを目的として実施するものです。なお、調査の結果は統計的に処理を行い、目的以外に使用することは一切ありません。よろしくご協力いただきますようお願いいたします。

Ⅰ．あなた自身についてお尋ねします。

問１．あなたの出身研究科・課程・専攻および修了年を記入してください。

（　　）研究科（　　）課程（　　）専攻（　　）年修了

問２．あなたの学籍番号を記入してください。

※「修了生に対するアンケート調査へのご協力について（お願い)」に記載しております。

【　　】

Ⅱ．現在の勤務先についてお尋ねします。

問３．現在の勤務先の就業形態についてお答えください。

１．正規雇用で働いている →問４へお進みください。

２．非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む） →問４へお進みください。

３．働いていない →問６へお進みください。

問４．現在の勤務先の業種は以下のどれにあたりますか。

１．農林・水産関係　　２．建設・機械関係　　３．食品・化学関係　　４．情報・通信関係

５．商社・金融関係　　６．販売・サービス関係　　７．マスコミ・出版関係

８．保健・衛生・医療関係　　９．公務員（国・地方自治体）　　１０．教育関係　　１１．その他

問５．あなたは現在の職業に満足していますか。

１．満足している　　２．ある程度満足している　　３．あまり満足していない　　４．満足していない

問６．転職、あるいは離職の経験はありますか。

１．ある　　２．ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい　　３．ない

Ⅲ．大学院教育についてお尋ねします。

問７．以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
学んだ分野における高度な専門知識	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において研究を計画・遂行する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任	4	3	2	1	2	1
学んだ分野において求められる国際的視野	4	3	2	1	2	1
情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	2	1
様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	2	1
現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	2	1
課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	2	1

	身についた	どちらかといえば身についた	どちらかといえば身につかなかった	身につかなかった	役立っている	役立っていない
リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	2	1
リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	2	1

問８．大学院のカリキュラム、主（副）指導教員についてどのように思いますか。

	大いにそう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	全くそう思わない	該当しない
大学院の人材育成の目標に照らして、大学院のカリキュラムは十分整っていた。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、主指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	
大学院の教育・研究において、副指導教員の指導は十分だった。	4	3	2	1	0

Ⅳ．地域マネジメント研究科についてお尋ねします。

問９．プロジェクト研究や関連する内容について、継続して取り組んでいる場合、内容を教えてください。

問１０．修了後、所属する企業・法人内で、異動や職位変更された方は、時期と内容を教えてください。

問１１．修了後、転職・転籍等された方は、時期と、元の所属先・移籍先と、その理由を教えてください。

問１２－１．修了後、新規に起業されたり、事業を承継されたりした場合、時期と内容を教えてください。

問１２－２．修了後、所属組織内で、新規事業立ち上げに直接関わった場合、時期と内容を教えてください。

問１３．修了後、研究科の同期や先輩・後輩と、会う機会や、仕事や仕事外で何か一緒に取り組んだことはありますか。ある場合、その内容について教えてください。

問１４．博士課程について、進学や修了した、進学を検討している等あれば、教えてください。

問１５．修了後、特に力を入れて取り組んでいる内容について、教えてください。

問１６．研究科について、要望や意見を、自由に記述してください。

ご協力大変ありがとうございました。

香川大学卒業生についてのアンケート調査（企業・官庁等用）

問１．貴組織の事業（主たるもの）についてお答えください。

１．農林・水産関係　２．建設・機械関係　３．食品・化学関係
４．情報・通信関係　５．商社・金融関係　６．販売・サービス関係
７．マスコミ・出版関係　８．保健・衛生・医療関係　９．公務員（国・地方自治体）
10．教育関係　11．その他（　　）

問２．貴組織の従業員数についてお答えください。

１．10 人未満　２．10～100 人未満　３．100～500 人未満
４．500～1,000 人未満　５．1,000 人以上

問３．貴組織における直近４ヵ年の香川大学卒業生の採用数について､概数をお答えください。

１．３人未満　２．３～５人未満　３．５～10 人未満　４．10 人以上

問４．貴組織における直近４ヵ年の香川大学卒業生に対する満足度をお答えください。

１．満足　２．ある程度満足　３．やや不満　４．不満

問５．香川大学卒業生は、現在担当している職務を遂行する上で必要とされる以下のような能力をどの程度身につけていますか（必要とされない能力は「必要とされない」をお選びください)。

	身につけている	どちらかといえば身につけている	どちらかといえば身につけていない	身につけていない	必要とされない
1.物事に進んで取り組む力	4	3	2	1	0
2.自ら考え、学ぶことの意義を理解し、主体的に学ぶ力	4	3	2	1	0
3.日本語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
4.日本語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
5.特定の外国語を用いた相手の意見を聞き取る力	4	3	2	1	0
6.特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく伝える力	4	3	2	1	0
7.特定の外国語で書かれた文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
8.特定の外国語を用いて、自分の意見をわかりやすく文章にまとめる力	4	3	2	1	0
9.情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力	4	3	2	1	0
10.様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力	4	3	2	1	0
11.幅広い知識や教養	4	3	2	1	0
12.専門分野に関する基礎的な知識・理解	4	3	2	1	0
13.専門分野に関する知識・理解を応用する力	4	3	2	1	0
14.職業に関連する知識や技能	4	3	2	1	0
15.現状を分析し目的や課題を明らかにする力	4	3	2	1	0
16.課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力	4	3	2	1	0

	身につけている	どちらかといえば身につけている	どちらかといえば身につけていない	身につけていない	必要とされない
17. 課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力	4	3	2	1	0
18. リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力	4	3	2	1	0
19. リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力	4	3	2	1	0
20. 社会のルールを守る力	4	3	2	1	0
21. 社会の一員として、社会発展のために積極的に関与する力	4	3	2	1	0
22. 地域に貢献したいという意識	4	3	2	1	0
23. 地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力	4	3	2	1	0
24. 多様な価値観を考慮し、異なる文化を理解する力	4	3	2	1	0

問６．香川大学に対するご意見やご要望等がございましたら、自由にお書きください。

第２章　調査結果について

＜卒業生によるアンケート調査＞

１．全学的な視点からの分析

（１）分析結果

①卒業生の労働状況（問 4、問 6）・・・図 1、図 2 参照

令和 3、5 年度調査に引き続き、令和 7 年度調査でも正規雇用の割合が約 9 割である。現在の職業の満足度について、肯定的回答（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）は、87.5%と高い値を示している。

②大学教育を通じて身についた能力等（問 9）・・・図 3 参照

肯定的評価（「身についた」と「どちらかといえば身についた」の合計、以下同様）が 80%以上の項目：「1. 論述作文能力・コミュニケーション能力（日本語）」、「4.知識・理解」、「5.問題解決・課題探求究能力」、「6.倫理観・社会的責任」、「8.自己教育の態度」

肯定的評価が 30%以下の項目：「2.論述作文能力･コミュニケーション能力(外国語)」

③これまでの職業経験の中で役立った能力等（問 9）・・・図 4 参照

肯定的評価（「役立っている」の合計、以下同様）が 80%以上の項目：「1. 論述作文能力・コミュニケーション能力（日本語）」、「4.知識・理解」、「5.問題解決・課題探求能力」、「6.倫理観･社会的責任」、「8.自己教育の態度」、「9.リスクマネジメント能力」

肯定的評価が 40%以下の項目：「2.論述作文能力･コミュニケーション能力(外国語)」

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

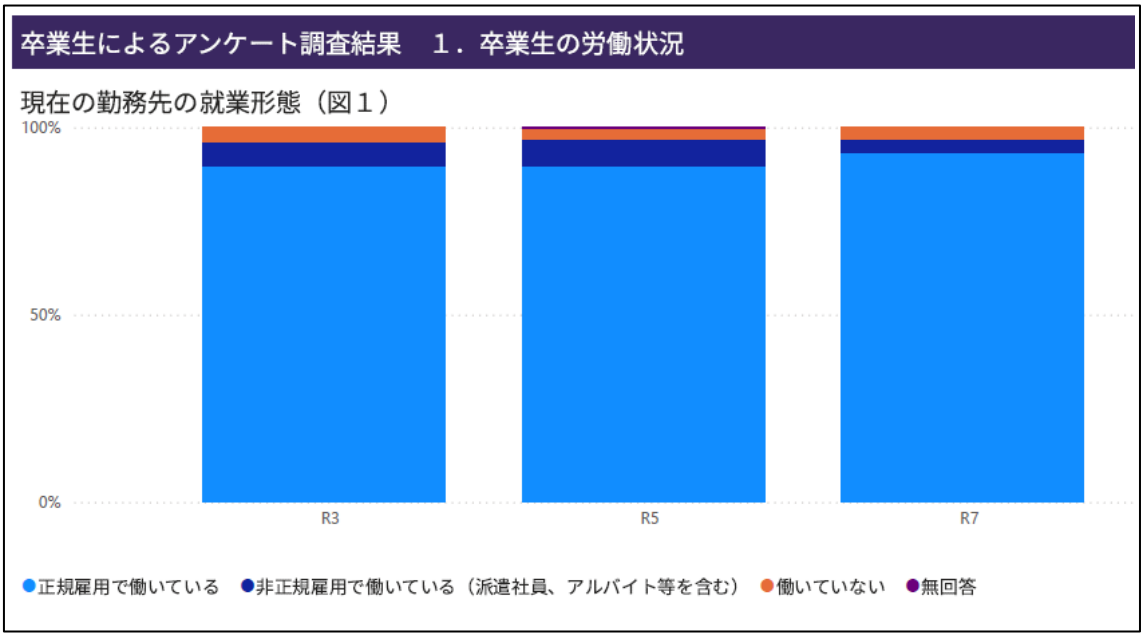
・正規雇用で働いている割合、現在の職業に対する満足度は、過去 3 回の調査を通して、継続して高い値を示している。本学の卒業生が比較的安定した労働状況にあることがうかがえる。

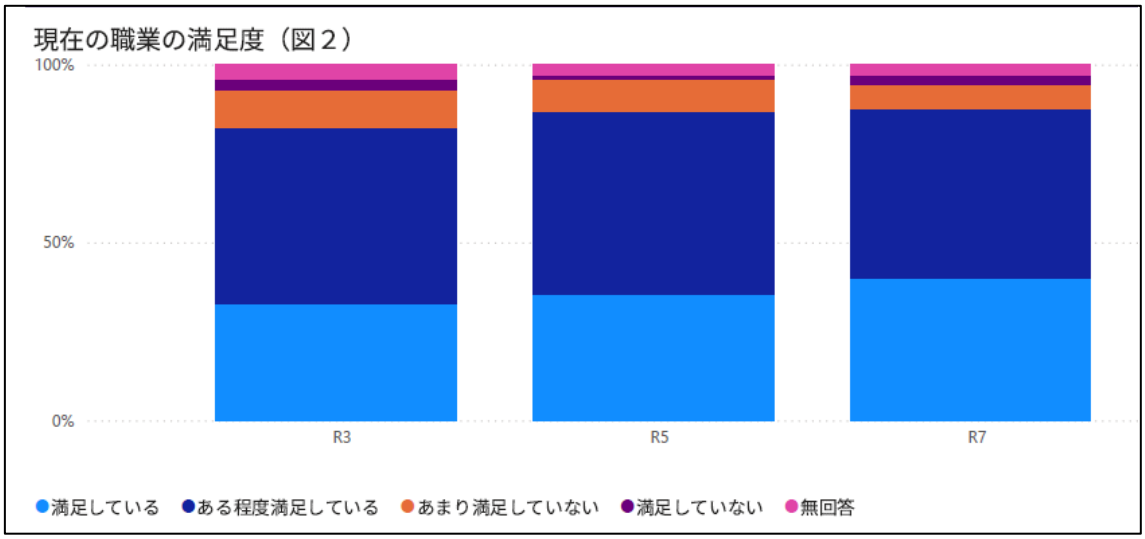
・大学教育を通じて身についた能力等、及び、これまでの職業経験の中で役立った能力等、として、卒業生の大多数は、論述作文能力･コミュニケーション能力(日本語)、知識・理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任、を挙げていた。これらは、学士課程のディプロマ・ポリシーに該当しており、本学の教育成果を示しているといえる。

【改善を要する点】

・大学教育を通じて身についた能力等のうち、論述作文能力・コミュニケーション能力（外国語）の値は相対的に低くなっていた。この傾向は、過去 3 回の調査を継続して表れており、本学の学士課程教育の弱点を表すものともいえる。正課内外の教育プログラムを通しての能力の底上げが期待される。

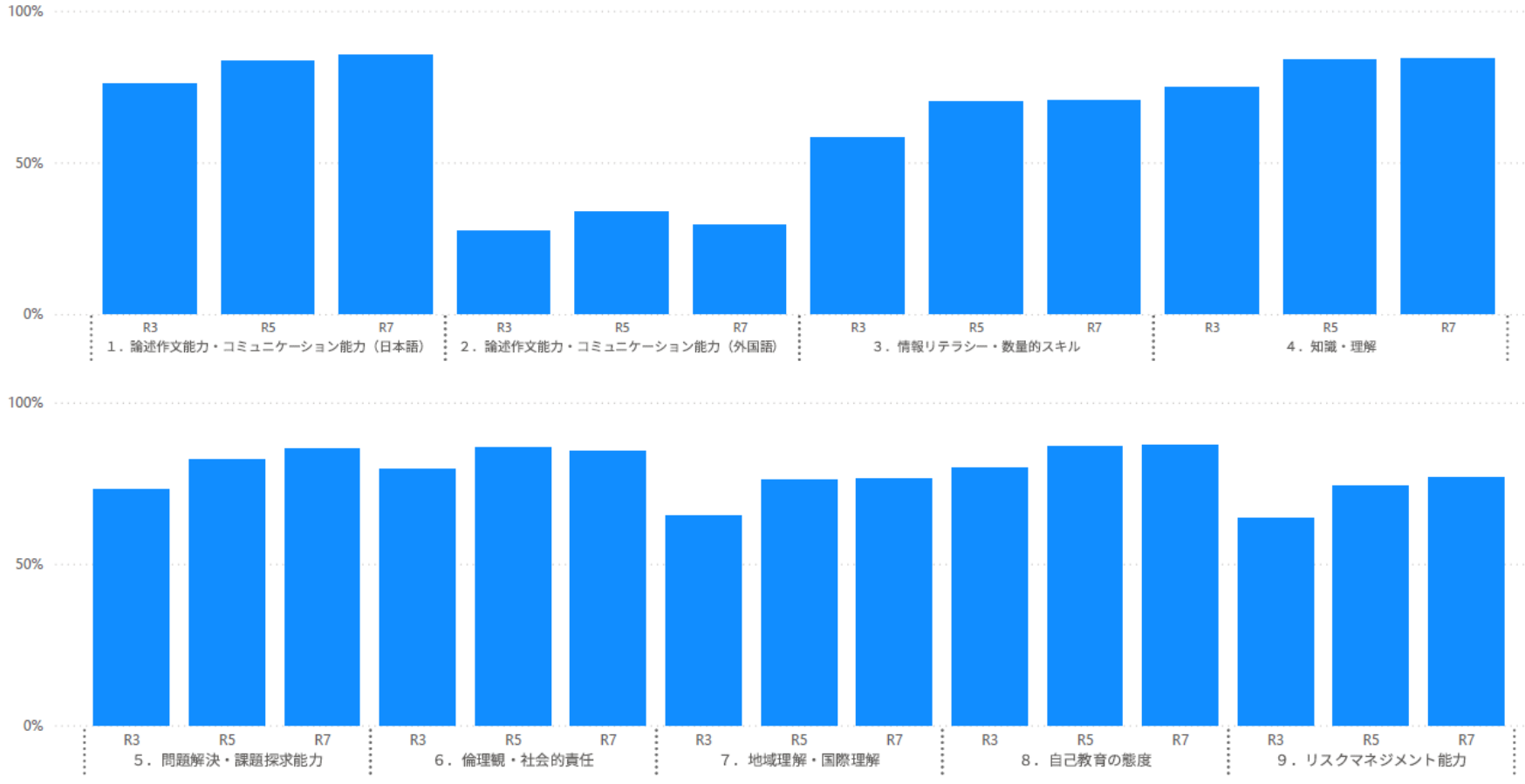
【参考資料】


卒業生によるアンケート調査結果　１．卒業生の労働状況
現在の勤務先の就業形態（図１）
100%
50%
0%
R3
R5
R7
●正規雇用で働いている
●非正規雇用で働いている（派遣社員、アルバイト等を含む）
●働いていない
●無回答


現在の職業の満足度（図２）
100%
50%
0%
R3
R5
R7
●満足している
●ある程度満足している
●あまり満足していない
●満足していない
●無回答

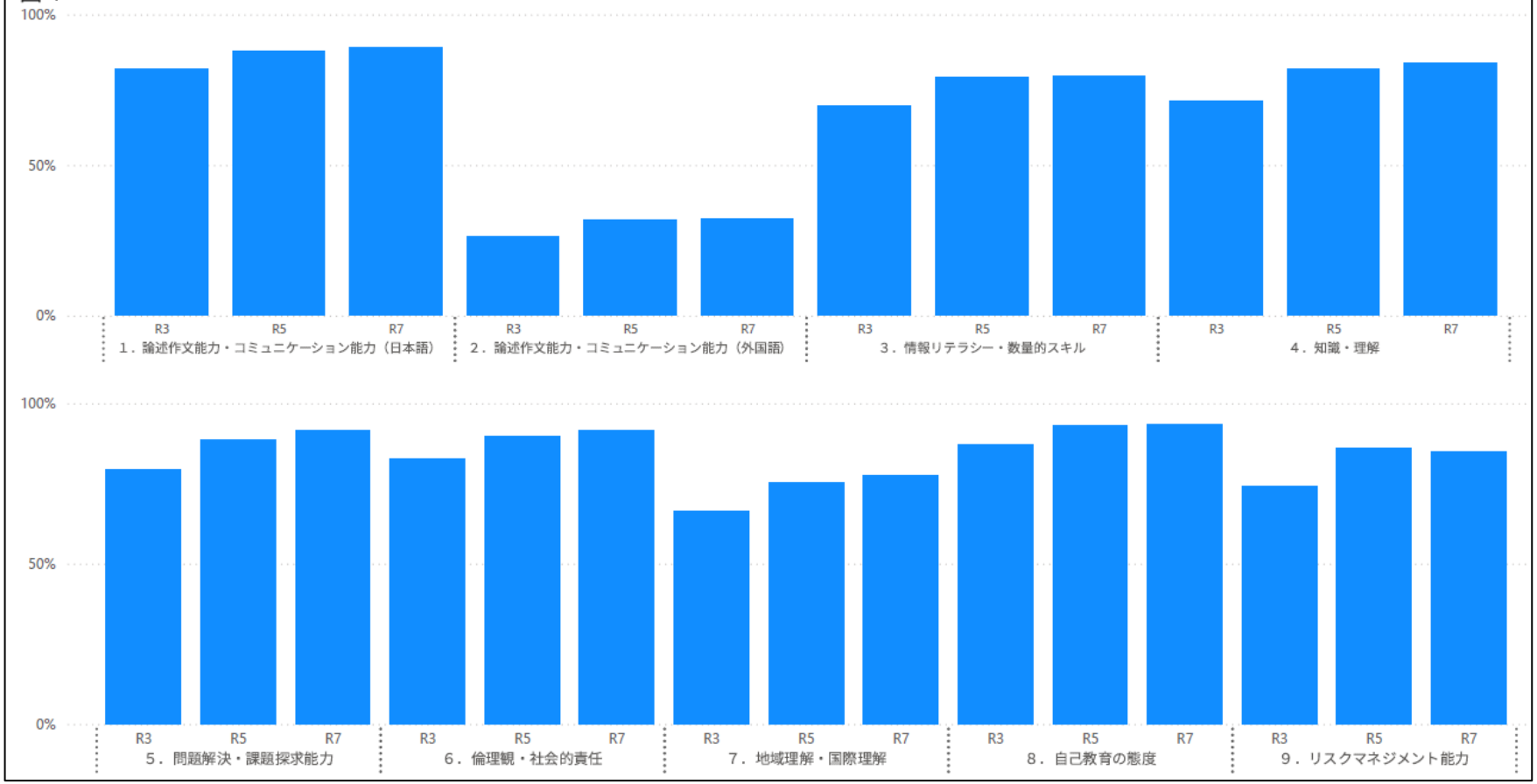
2．大学教育を通じて身についた能力等　＊肯定的回答（「身についた」＋「どちらかといえば身についた」の割合）

図3



３．これまでの職業経験の中で役立った能力等　＊肯定的回答（「役立っている」の割合）

図４



２．学部に関する分析

教育学部

（１）分析結果

今回の令和 3 年度卒業者、令和 4 年度卒業者のアンケート回答数は学校教育教員養成課程 92 名、回答率は 26.7%、人間発達環境課程 1 名、回答率は 14.3%であった。人間発達環境課程の 1 名というのは、課程再編後人間発達環境課程に所属した学生はほぼ卒業したためである。

専門教育についての満足度を問う項目（問 10）では、学校教育教員養成課程は学校教育基礎研究、学校教育実践研究、学校教育発展研究の科目、人間発達環境課程においても、基礎研究、実践研究、発展研究の科目に分けてそれぞれ回答を求めているが、「満足だった」「ある程度満足だった」が 96%に達していた。

「教員の教授方法」や「教育実習」についての満足度を問う項目（問 14）では、「少人数によるゼミ形式の授業」「学習環境」については「満足していた」「ある程度満足していた」の回答を合わせると 90%を超え、その他「教育実習などの現場実習の充実」「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」の満足度も「満足していた」「ある程度満足していた」を合わせると 80%を超えていた。

問 15 の「総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。」という問いに対しては、「満足している」「ある程度満足している」を合わせると 98%と高い満足度を示している。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

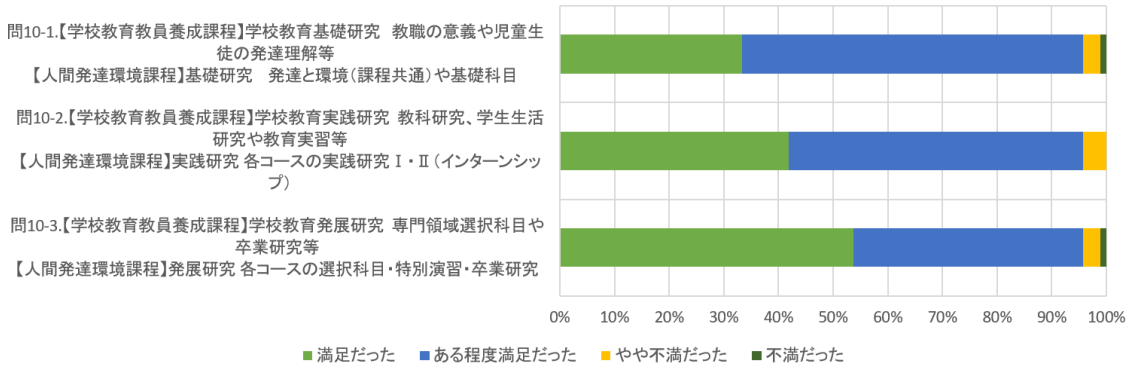
自由記述をみると、きめ細やかな指導への感謝や、教職に就く就かないにかかわらず幅広い学びができたこと、コミュニケーション力の向上、様々な人との関わりがあったこと、つながりができたことなどが特筆されている。ちょうどこの時期の卒業生はコロナ禍の中であったので、諸々の制約の中で限られた条件での学生生活であったが、それだけに忘れ得ぬ経験だったとの声があった。

【改善を要する点】

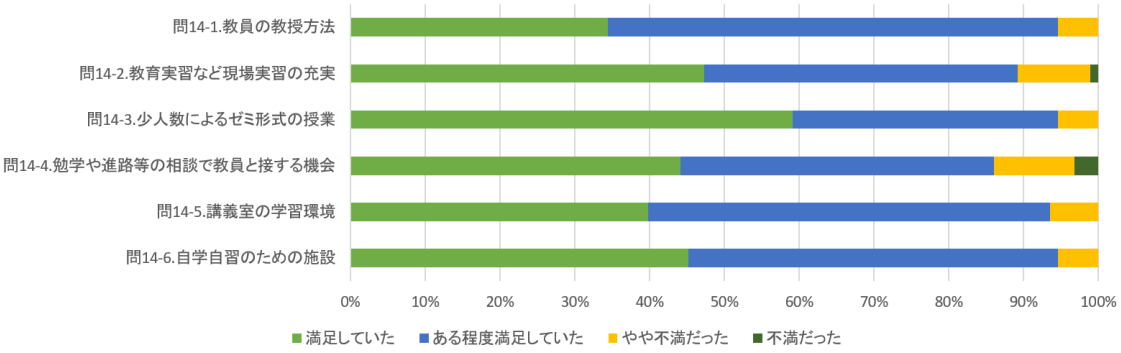
様々な幅の広い学びを経験できたとの声と同時に、それらがほぼ必修科目として課されていたことには自分で選んで学ぶということができなかった、そういう経験が無かったとの感想が出されていた。大学全体では、学びの自己選択力を強調しているものの、学部開設の専門科目については過密なカリキュラムのため窮屈になっていることは否めない。今後教員免許の要件が変更されるのを機に、ゆとりのあるカリキュラムに改善する必要があろう。教育現場の詳しい話、現場の教員との交流などの経験や、教材研究、授業以外での実務的なスキルについて実践的な学びがもっと欲しいという希望があった。「勉学や進路等の相談で教員と接する機会」については満足度がやや低くなっているので、年度始めのガイダンスの時などを利用して、相談先などについて周知すべきだと思われる。

【参考資料】

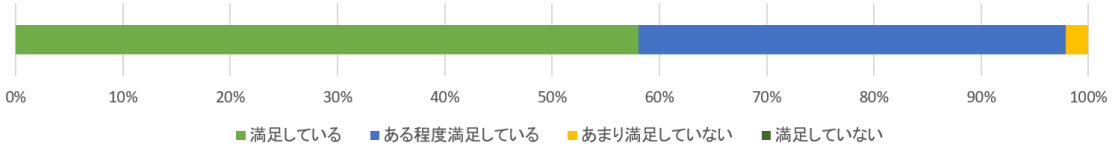
問 10. あなたは以下の専門科目について、どの程度満足していましたか。



問 14. 教育学部に在学中、以下の事柄についてどの程度満足していましたか。



問 15. 総合的にみて、教育学部で学んだことについて満足していますか。



法学部

（１）分析結果 （回答者：62 名）

①職業生活及び社会生活において法学部開講科目がどの程度役立っているかについては、6～8 割が肯定的回答（「ある程度役立っている」＋「役立っている」）を示した（図 1 と図 2)。そのうち、最も高い割合を示しているのは「公法系科目（憲法、行政法、租税法、刑法、刑事訴訟法)」であり、83.8%（職業生活）と 88.7%（社会生活）である。一方、「国際系科目」に関しては肯定的回答が両方で 5 割を下回っている。

②法学部教育を通して身についた能力については、「経済活動に関する知識や関心」や、「歴史的観点」、「国際的視野」を除いてすべての項目が 7～9 割の肯定的回答（「ある程度身についた」＋（身についた））を示した（図 3)。

③仕事及び社会生活において上記の能力がどの程度必要とされるかについては、7～9 割が必要（「ある程度必要とされる」＋「必要とされる」）と回答した（図 4 と図 5)。

④法学部教育に関しては、ほとんどの項目が 9 割以上満足（「ある程度満足だった」＋「満足だった」）とした。ただし、「勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会」「法学部講義室の学習環境」と「法学部資料室の施設」に対しては 2 割程度の卒業生が不満だったと回答した。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・法学部教育を通して身についた能力の場合、8～9 割の卒業生がほとんどの能力を身についたと回答し、法学部の教育が求めている素養に関して 4 年間の教育を通して取得することができていると思われる。とりわけ、「自主的に学び続ける力」、「社会一般に関する知識や関心」、「現代社会への自分なりの視点」、「論理的に考える力」、「法律・法律学に関する知識」などにおいては 9 割以上が身についたと回答しており、卒業生の多くが法学部のディプロマ・ポリシーに準じる能力を得ることができた。

・法学部教育に対する満足度では、9 割以上の卒業生が少人数教育を含めて授業内容及び教授方法・取り組みなどに満足している。また、総合的にみても 9 割以上が満足している。

【改善を要する点】

・法学部教育を通して身についた能力においては最も否定的回答となったのが「国際的視野」(43.6%）である。また、国際関連の他の調査項目においても肯定的でない。国際交流の拡大を含めて学部の対応が求めあれる。

・法学部教育に対する満足では、講義室や法学部資料室に対する不満が多少あり、学習環境の改善が求められる。また、「勉学や進路等の相談で法学部教員と接する機会」に対しても不満だったと回答した卒業生が約 2 割存在する（自由記述では夜間主の卒業生からも指摘)。演習教員だけでなく、別の窓口を通して対応していく必要がある。

【参考資料】

図１　法学部の各開講科目群は、これまでの職業生活に役立っているか

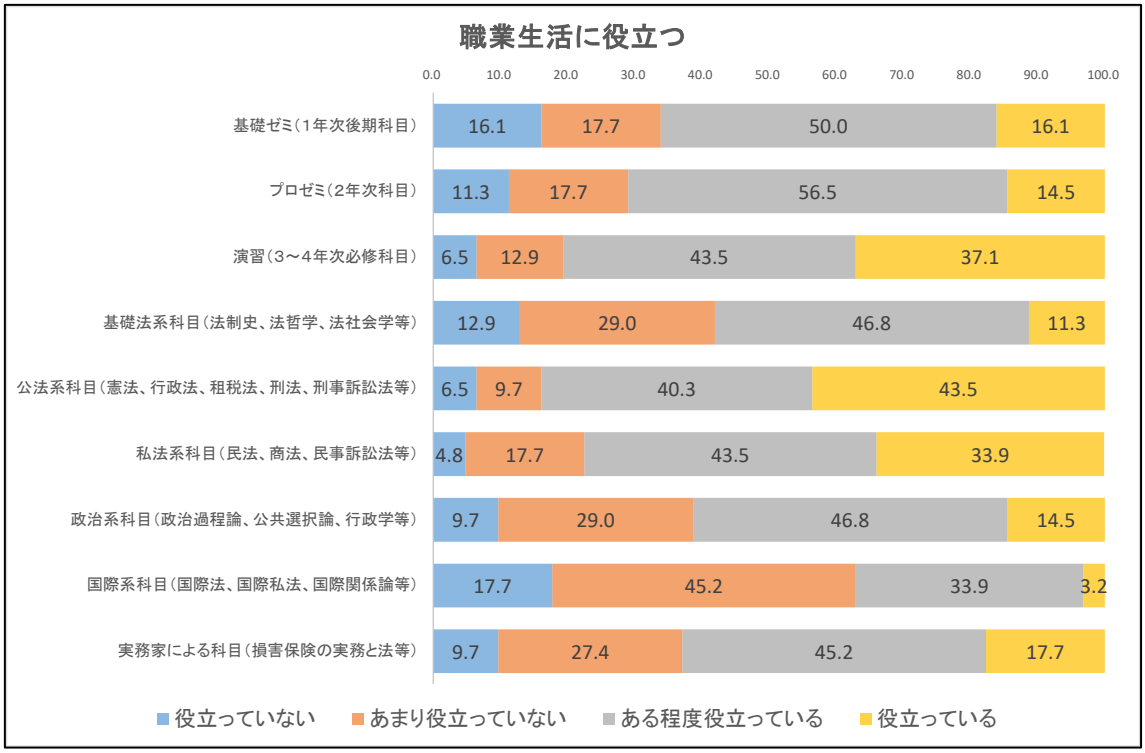


図２　法学部の各開講科目群は、社会生活全般に役立っているか

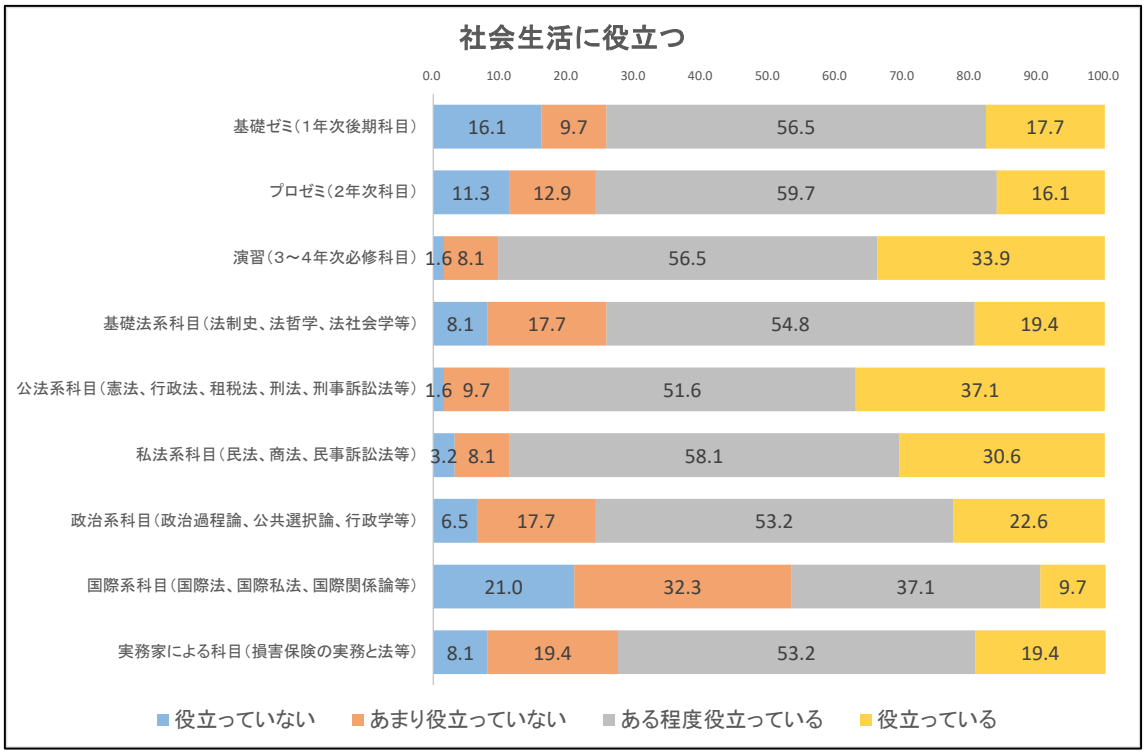


図３　法学部の専門教育を通してどの程度身についたか

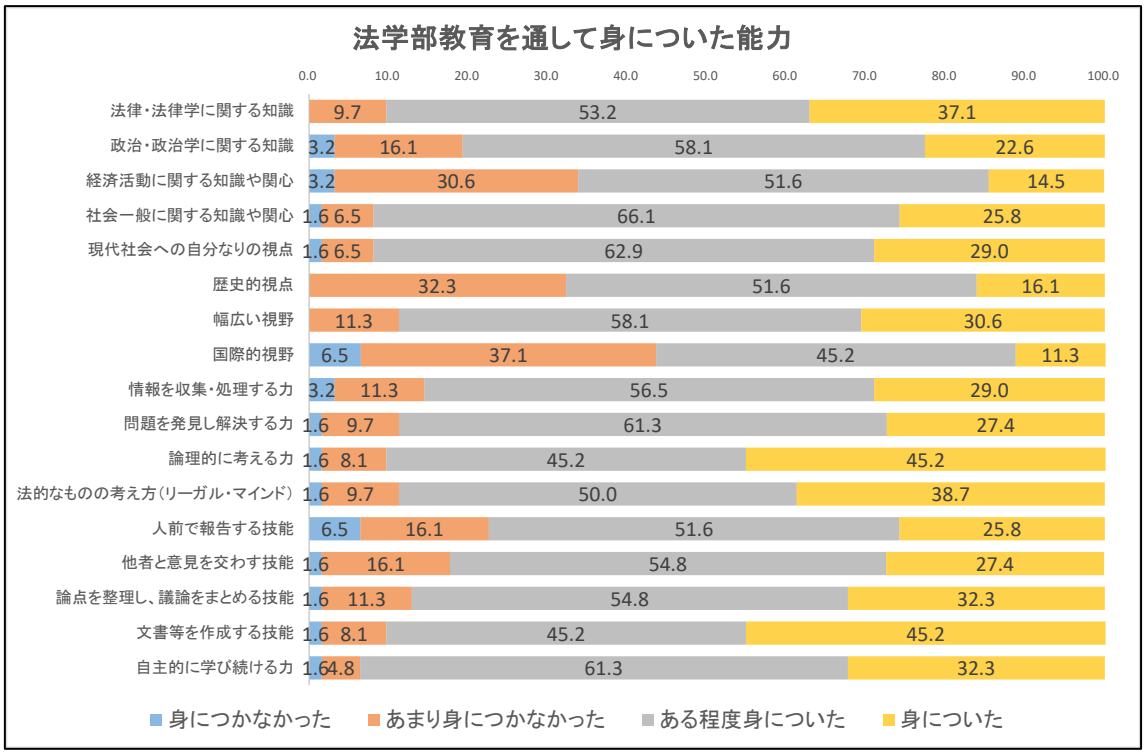


図４　仕事を進める上でどの程度必要とされるか

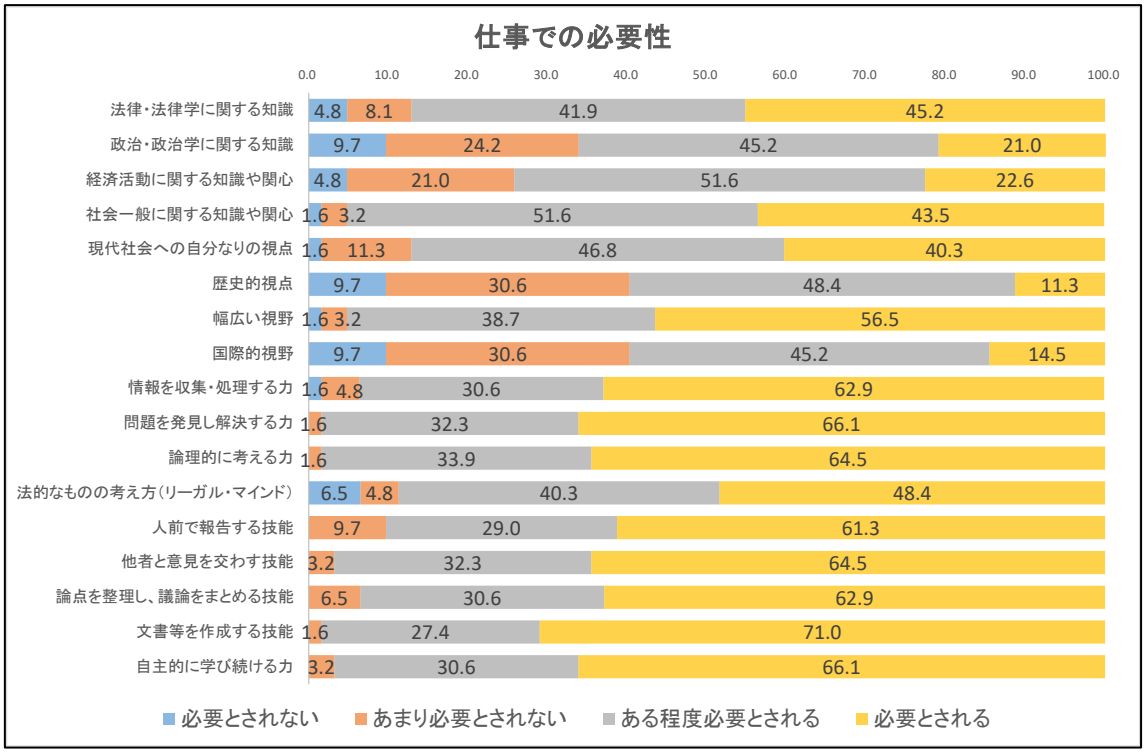


図５　社会生活全般でどの程度必要とされるか

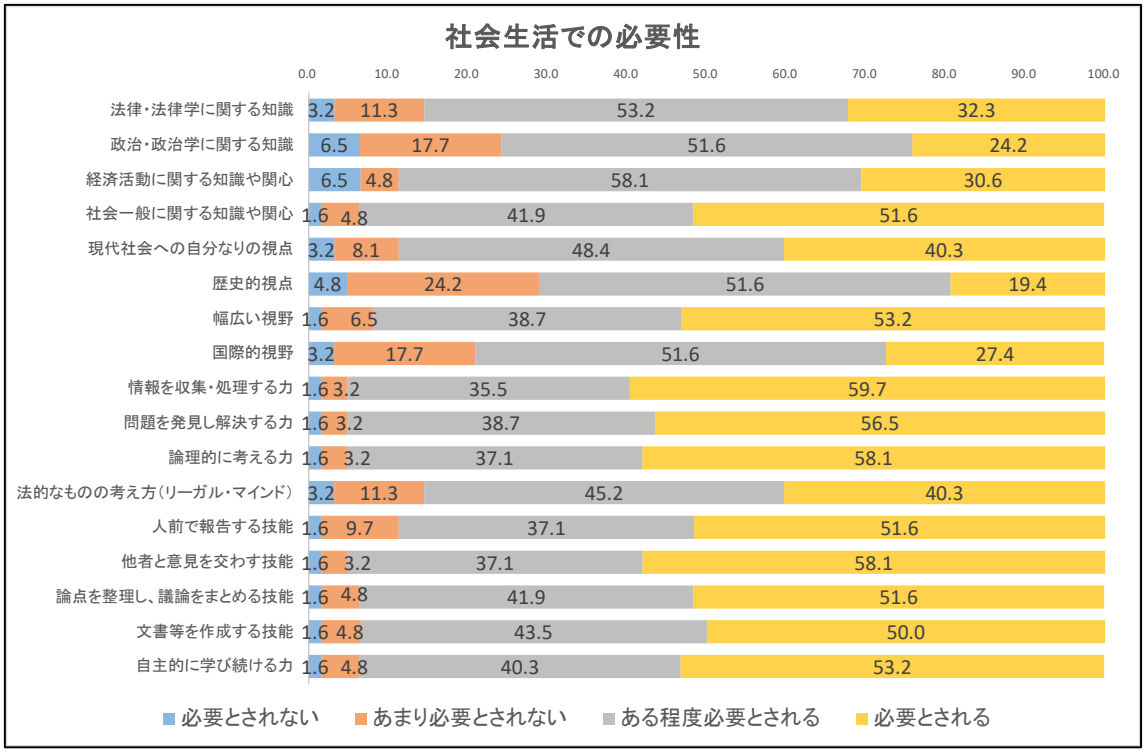
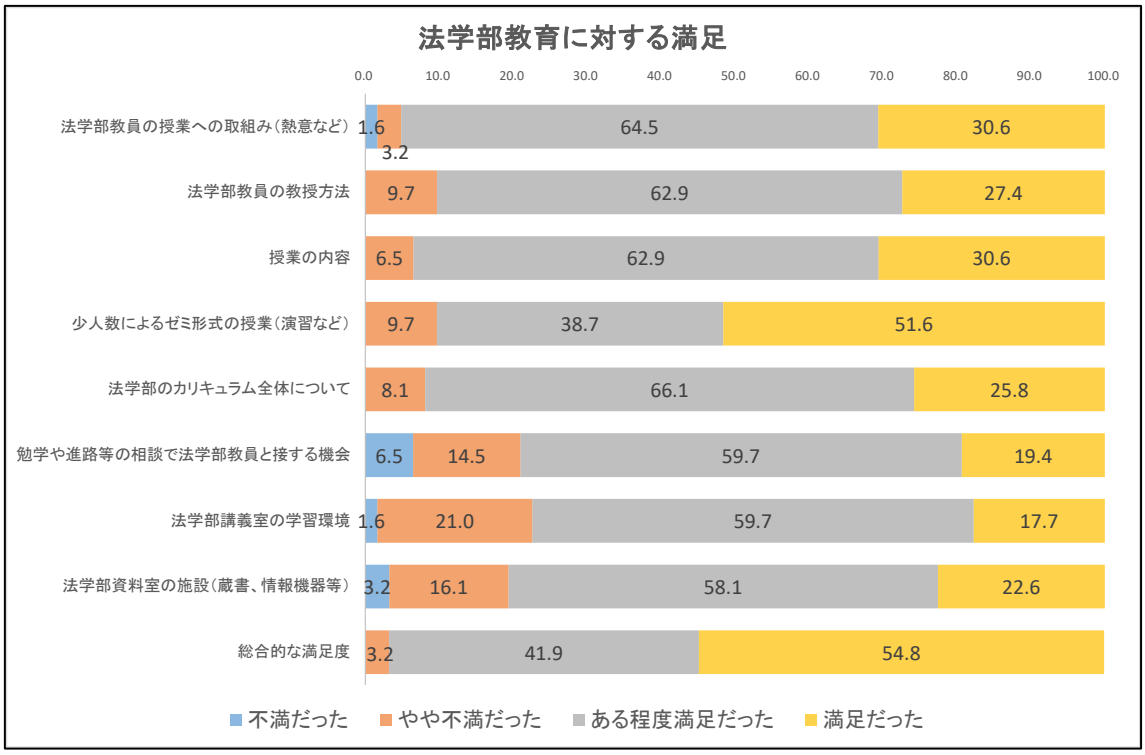


図６　法学部教育に対する満足度



経済学部

（1）分析結果

今回のアンケート調査では 79 人の卒業生から回答があった。以下では、調査項目のうち学部の専門教育に関する回答結果について記述する。

①知識（問 10-1 から問 10-10 まで）

・専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「地域の活性化についての知識」が 79.7%と最も高く、「経済についての知識」が 78.5%と次に高いのに対し、「世界各地域の経済についての知識」が 51.9%と最も低い（図 1 参照）。

・仕事で「役立っている」と回答した割合は、「経済についての知識」が 70.9%と最も高く、「経営についての知識」が 68.4%と次に高いのに対し、「世界各地域の経済についての知識」が 38.0%と最も低い（図 2 参照）。

②データ分析能力（問 10-11 と問 10-12）

・専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「定量的なデータ分析能力」が 59.5%、「定性的なデータ分析能力」が 62.0 %であり、いずれも全体回答者の半数以上は満たしているものの、充分な水準とは言えない（図 1 参照）。

・仕事で「役立っている」と回答した割合は、「定量的なデータ分析能力」が 67.1%、「定性的なデータ分析能力」が 64.6%であり、いずれも 6 割以上の回答者から評価されているものの、著しく高いとは言えない（図 2 参照）。

③複眼的思考力等（問 10-13 から問 10-16 まで）

・専門教育で「身についた」又は「どちらかといえば身についた」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が 74.7%、「チャレンジ精神や行動力」が 79.7%、「コミュニケーション力」が 84.8%、「課題探求・解決力」が 87.3%であり、いずれも充分な水準である（図 1 参照）。

・仕事で「役立っている」と回答した割合は、「複眼的な思考力」が 75.9%、「チャレンジ精神や行動力」が 83.5%、「コミュニケーション力」が 88.6%、「課題探求・解決力」が 86.1%であり、いずれも充分な水準である（図 2 参照）。

④特色ある授業・課外活動（問 11）

・演習等の学部の特色ある授業・課外活動のなかで仕事で「役立っている」又は「どちらかといえば役立っている」と回答した割合は、79.7%の「演習・個別演習」は充分な水準であったが、67.1%の「卒業論文」と 55.7%の「専門履修プログラム」は 50%を上回る水準にとどまり、39.2%の「学生チャレンジ・プロジェクト」と 31.6%の「実践型／地域インターンシップ」さらには 17.7%の「海外研修・留学」は低い水準にとどまった（図 3 参照）。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

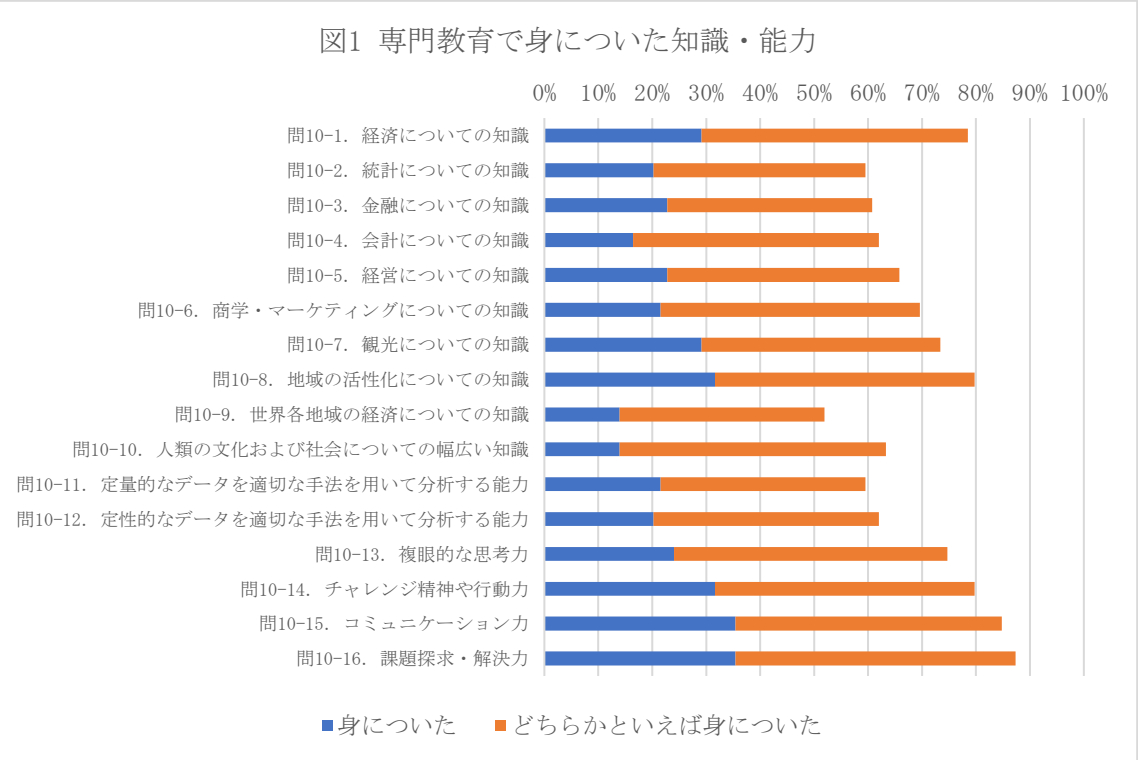
「地域の活性化についての知識」、「経済についての知識」、「課題探求・解決力」、「コミュニケーション力」、「チャレンジ精神や行動力」及び「複眼的思考力」においては、専門教育で充分に身につけ、それらを仕事で役立てている。また、「経営についての知識」も仕事で役立てていると言える。学部の特色ある授業・課外活動のうち「演習・個別演習」、「卒業論文」、「専門履修プログラム」についてはおおむね仕事で役立っている。

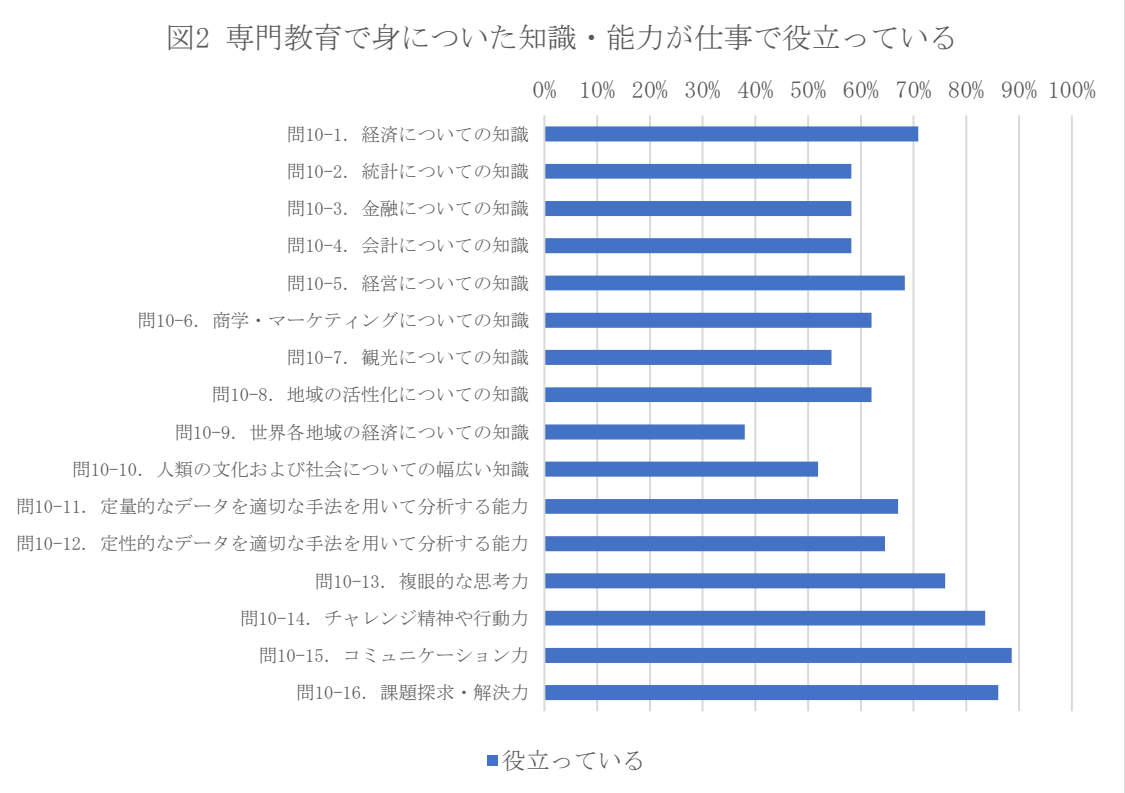
【改善を要する点】

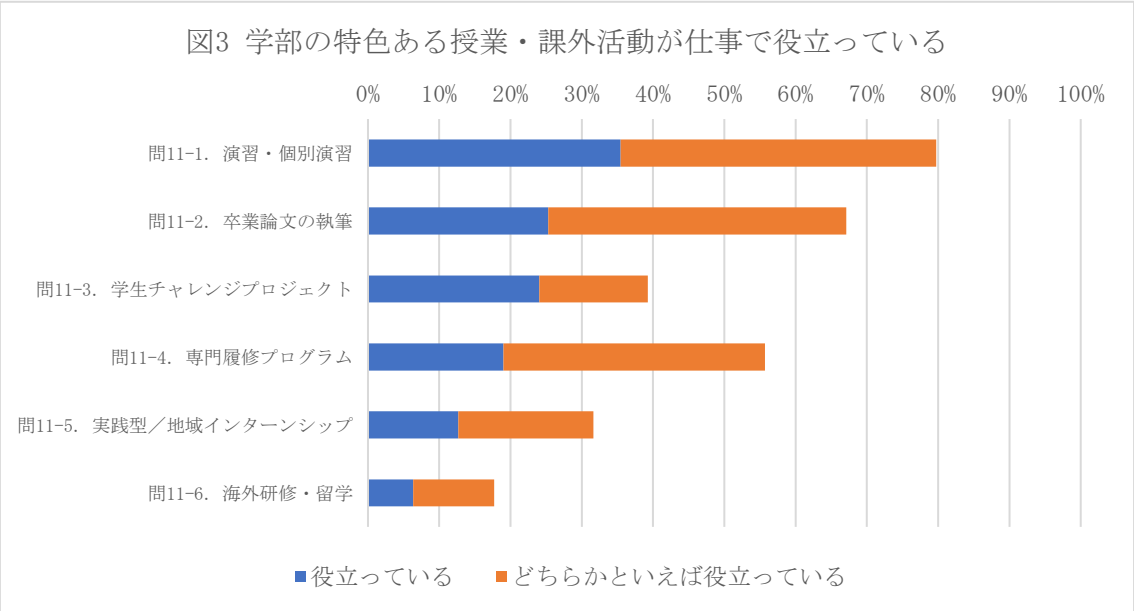
学部の専門教育課程を通じて身についた知識・能力に偏りが見られる。相対的に見て低水準となっているのは、「世界各地域の経済についての知識」、「統計についての知識」、「定量的なデータ分析能力」等である。より多くの学生が、世界経済や統計、データ分析に関する授業科目を履修するべく、カリキュラムの調整を実施する等、履修科目の偏りを小さくする工夫が求められる。

また学部の特色ある授業・課外活動のうち「学生チャレンジ・プロジェクト」、「実践型／地域インターンシップ」、「海外研修・留学」が仕事に役立てられている割合が相対的に低くなっているように見えるが、それはこれらの授業・課外活動に「参加していない」と回答した割合が高いためである。それを除外したものを母数とすれば、仕事で「役立っている」又は「どちらかといえば役立っている」と回答した割合は、それぞれ 80.0%、70.3%、71.4%となっている。よってこれらの授業・課外活動を在学中にいかに受けてもらうようにするかが今後の課題となる。

【参考資料】


図1 専門教育で身についた知識・能力
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
問10-1. 経済についての知識
問10-2. 統計についての知識
問10-3. 金融についての知識
問10-4. 会計についての知識
問10-5. 経営についての知識
問10-6. 商学・マーケティングについての知識
問10-7. 観光についての知識
問10-8. 地域の活性化についての知識
問10-9. 世界各地域の経済についての知識
問10-10. 人類の文化および社会についての幅広い知識
問10-11. 定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
問10-12. 定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
問10-13. 複眼的な思考力
問10-14. チャレンジ精神や行動力
問10-15. コミュニケーション力
問10-16. 課題探求・解決力
身についた
どちらかといえば身についた


図2 専門教育で身についた知識・能力が仕事で役立っている
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
問10-1. 経済についての知識
問10-2. 統計についての知識
問10-3. 金融についての知識
問10-4. 会計についての知識
問10-5. 経営についての知識
問10-6. 商学・マーケティングについての知識
問10-7. 観光についての知識
問10-8. 地域の活性化についての知識
問10-9. 世界各地域の経済についての知識
問10-10. 人類の文化および社会についての幅広い知識
問10-11. 定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
問10-12. 定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力
問10-13. 複眼的な思考力
問10-14. チャレンジ精神や行動力
問10-15. コミュニケーション力
問10-16. 課題探求・解決力
役立っている


図3 学部の特色ある授業・課外活動が仕事で役立っている
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
問11-1. 演習・個別演習
問11-2. 卒業論文の執筆
問11-3. 学生チャレンジプロジェクト
問11-4. 専門履修プログラム
問11-5. 実践型／地域インターンシップ
問11-6. 海外研修・留学
役立っている
どちらかといえば役立っている

医学部医学科

（１）分析結果

卒業生アンケートとして医学部医学科では計34名から回答を得られた。

県内在住者の割合は、入学時64.7%から現在44.1%に減少（22人→15人、7人減）したのに対し、県外在住者の割合は、入学時35.3%から現在55.9%に増加（12人→19人、7人増）している。

また、アンケート結果の分析では、問11～13によると、ほぼ全員が医療職に従事し、特に研究職ではなく臨床医（内科系41.2%、外科系23.5%、その他35.5%）として勤務（大学病院35.3%、一般病院61.8%、その他2.9%）であった。

問14の在学中の教育に関しては、シラバス、教育法、学習法、カリキュラム、評価法に関して全ての項目で7 割以上が「満足」か「ある程度満足」との回答であり、問15の大学教育を通じて身についた能力では、「医学の基礎知識（DP:知識理解）」「医学の基本的技術（DP:知識理解）」「自己の実践を批判的に分析し、創造的に発展させる能力（DP:問題解決・課題探求能力）」「人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成（DP:倫理観・社会的責任）」「医療人に求められるモラルや礼儀、社会的責任（DP:倫理観・社会的責任）」「専門職業人として生涯自己研鑽する能力（DP:倫理観・社会的責任）」は9割以上が「身についた」か「ある程度身についた」とする回答であった。「地域に貢献したいという意識」「地域の風土・文化の特徴や強みを理解する力」に関する項目（DP:地域理解）はやや肯定的割合が低かった。さらに国家試験に関する教育に関しては、8割以上が肯定的な評価であった。

一方で、問14の学習・生活支援に関しては、学習の交流スペースに対する満足度が「不満」と「やや不満」の合計が約3割と他のアンケート結果と比較すると不満が強かった。

総合的に医学科での学習に関しては、9割近い学生が「満足」か「ある程度満足」との評価であった。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学に関する教育内容については、肯定的な回答が 7 割以上を占めており、教育を通じて身についた能力、現在の仕事で必要とされる能力の回答結果をみると十分な学習効果が得られていると言える。

【改善を要する点】

アンケート結果は、半数以上が肯定的な意見で占められているが、教養科目と外国語科目の満足度において、「不満だった」と回答があったことから、教育体制の改善について検討が必要である。地域理解の低下については、現在、地域医療教育に重点的に取り組んでおり、今後の変化を注視する。

【参考資料】

図 1（問 14）シラバスの充実度

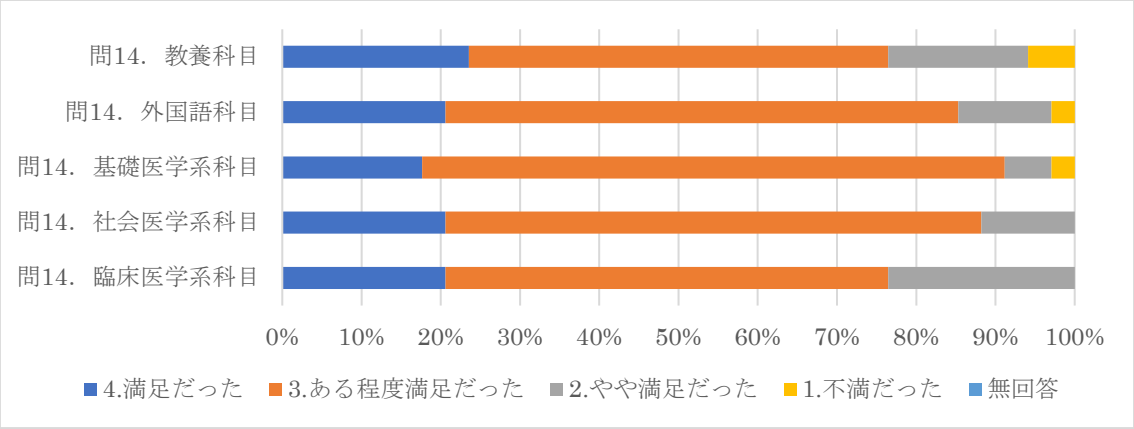


図 2（問 14）教育法

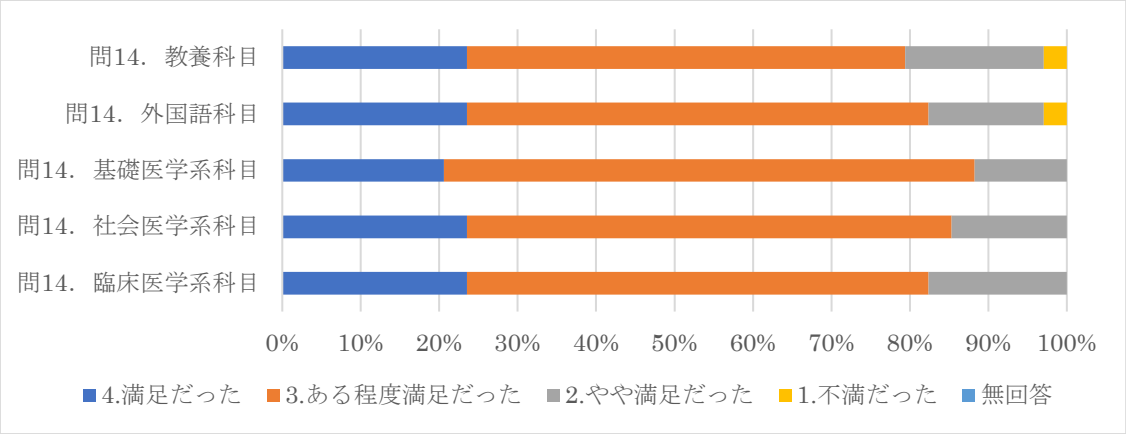


図 3（問 14）学習法

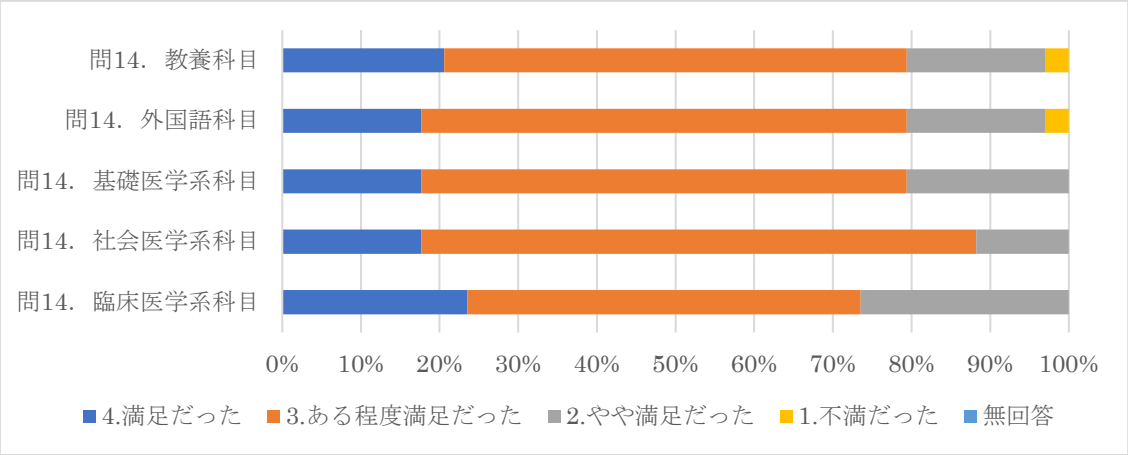


図 4（問 14）カリキュラム

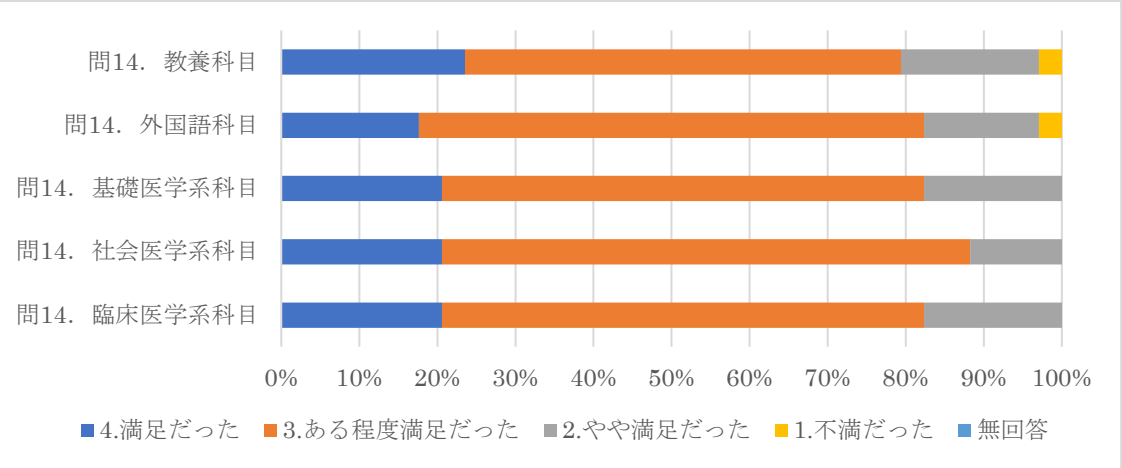


図 5（問 14）評価法

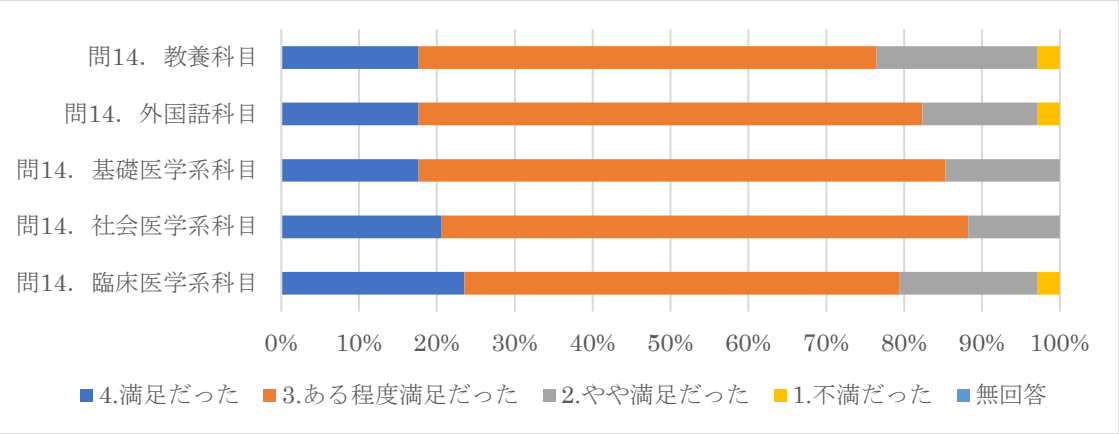
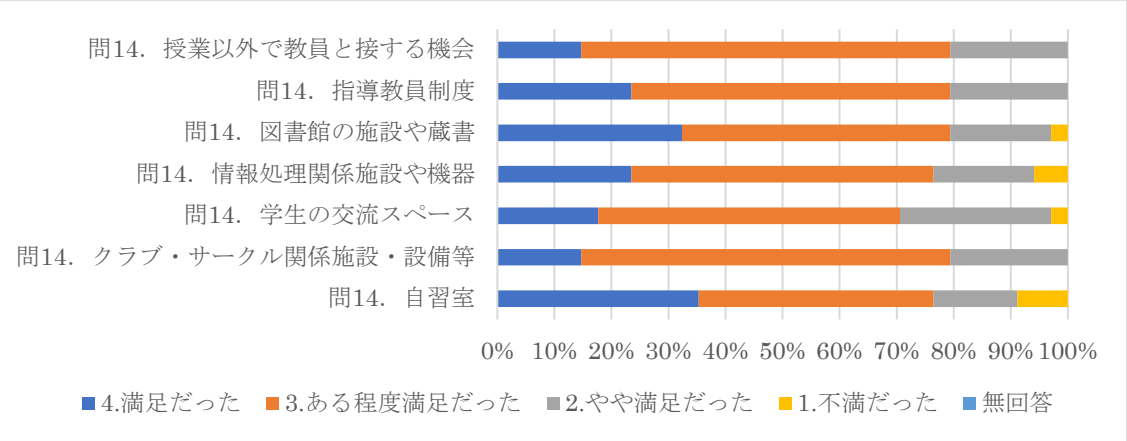


図 6（問 14）医学部での学習・生活支援



医学部看護学科

（１）分析結果

卒業生アンケートとして、医学部看護学科では計21名から回答を得られた。

県内在住者の割合は、入学時90.5%から現在71.4%に減少（19人→15人、4人減）しており、県内定着率が低くなっている。

問11の現在の職種では、看護師（57.1%）、保健師（23.8%）、養護教諭（4.8%）、助産師（9.5%）、その他（4.8%）であり、85.7%が本学での取得資格（看護師、保健師、養護教諭）で就業している。勤務場所（問12）は、大学附属病院または病院が中心（66.7%）となっている。

在学中の学習や活動の満足度について、大学教育に対しては、専門基礎科目は「満足」または「ある程度満足」が100%となっており、専門科目と臨地実習においても「満足」と「ある程度満足」が100%近い数値となっている。また、学習・生活支援では（問14）、授業以外で教員と接する機会、指導教員制度、クラブ・サークル関係施設・設備等、自習室においては9割以上の学生が「満足」か「ある程度満足」と回答しているが、図書館の施設や蔵書、情報処理関係施設や機器、学生の交流スペースではやや肯定的な意見が低かった。

問15の在学中に「身についた」または「ある程度身についた」能力としては、看護学の基礎知識（DP：知識・理解）、患者・家族と人間関係を形成する能力（DP：言語運用能力）、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成（DP：倫理観・社会的責任）、医療人に求められるモラルや礼儀（DP：倫理観・社会的責任）、専門職業人として生涯自己研鑽する能力（DP：問題解決・課題探求能力）が、それぞれ100%と極めて高く評価されているほか、それら以外の項目も、9割以上が身についたと評価している。在学中に身につけた能力が現在の仕事の中で必要とされているかについては、全ての項目で9割以上が「必要」または「ある程度必要」と考えているが、基本的技術、患者・家族と人間関係を形成する能力、医療職者間で協働・連携する能力は否定的な回答が4.8%と他の項目と比較するとやや高くなっている。また、国家資格取得に必要な教育が行われたか（問16）では、「行われていた」または「ある程度行われていた」が85.8%であり、総合的に看護学科での学習に対する満足度は非常に高くなっている（問 18）。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学部看護学科で学んだことに対する総合的な満足度は全体として非常に高い。特に看護の基礎知識と、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成、医療人に求められるモラルや礼儀、専門職業人として生涯自己研鑽する能力が確実に身についていると評価でき、現在の仕事の中でも必要とされていることから、本学科で学習する意義は極めて高いと評価できる。

【改善を要する点】

全般的に肯定的な回答が多いが、学習・生活支援については、情報処理関係施設や機器については肯定的な意見が低かったため、改善が求められる。

【参考資料】

図 1（問 15）大学教育を通じて身についた能力

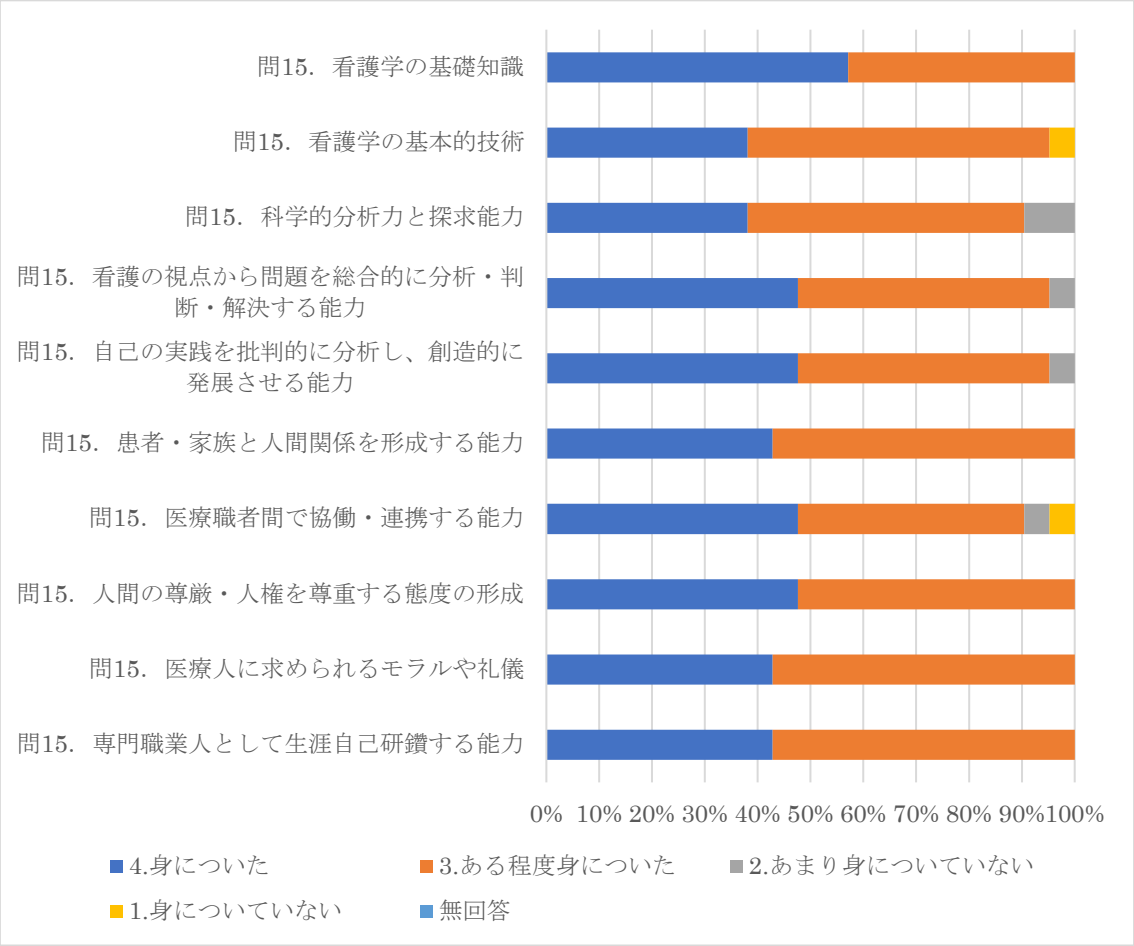


図 2（問 15）現在の仕事で必要とされている能力

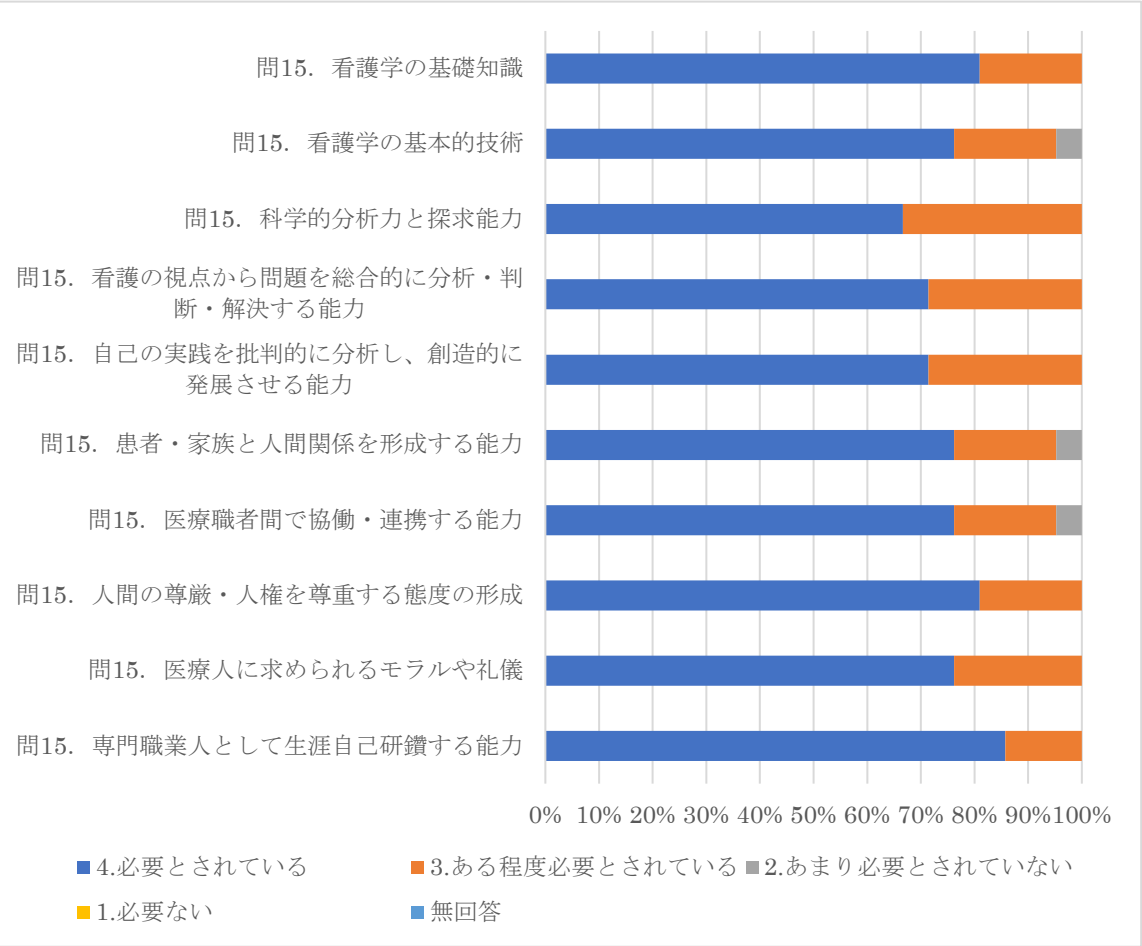
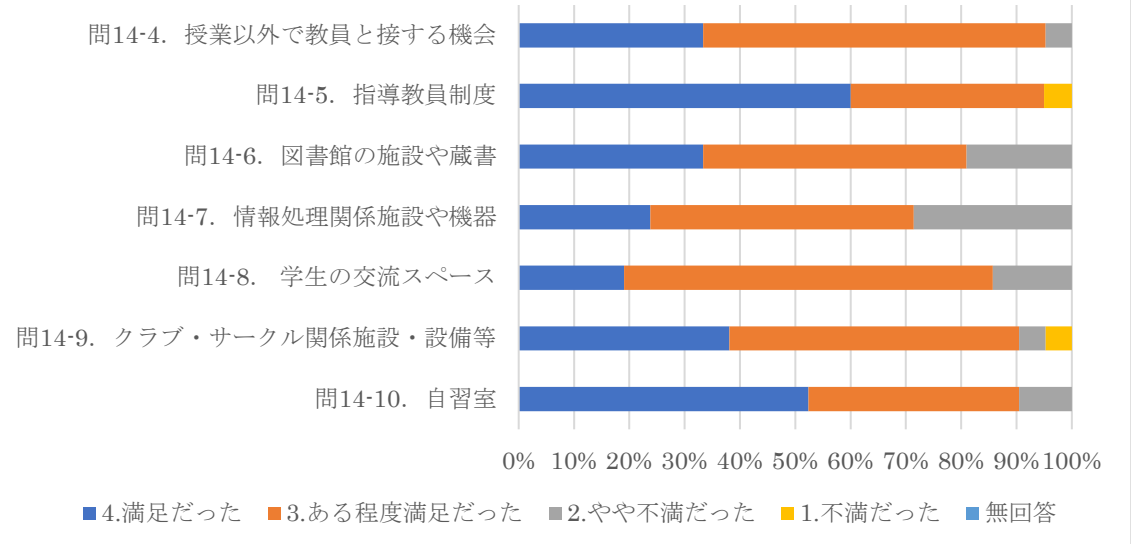


図 3（問 14）学習・生活支援



医学部臨床心理学科

（１）分析結果

卒業生アンケートとして、医学部臨床心理学科では計8名から回答を得られた。

県内在住者の割合は、入学時87.5%から現在37.5%に減少（7人→3人、4人減）しており、県内定着率が低くなっている。

問11の現在の職種では、心理援助職（62.5%）、児童指導員（12.5%）、公務員（12.5%）、大学院生（12.5%）であり、心理援助職として、大学附属病院、病院・診療所、母子生活支援施設、保健所を含む地方公共団体に勤務している。

在学中の学習や活動の満足度について、大学教育に対しては、全学共通科目、社会学系専門科目、ゼミ・卒業研究は「満足」または「ある程度満足」が100%となっている。また、学習・生活支援では（問14）、図書館の施設や蔵書、情報処理関係施設や機器、クラブ・サークル関係施設・設備等、自習室においては87.5%の学生が「満足」か「ある程度満足」と回答しているが、授業以外で教員と接する機会、指導教員制度、学生の交流スペース、自習室ではやや肯定的な意見が低かった。

問15の在学中に「身についた」または「ある程度身についた」能力としては、臨床心理学の基礎知識（DP：知識・理解）、患者・家族と人間関係を形成する能力（DP：言語運用能力）、人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成（DP：倫理観・社会的責任）、心理援助者に求められるモラルや礼儀（DP：倫理観・社会的責任）が、それぞれ100%と極めて高く評価されているほか、それら以外の心理援助者の視点から問題を総合的に分析・判断・解決する能力（DP：問題解決・課題探求能力）などの項目も87.5%身についたと評価している。在学中に身につけた能力が現在の仕事の中で必要とされているかについては、全ての項目で87.5%以上が「必要」または「ある程度必要」と考えているが、臨床心理学の基礎知識、臨床心理学の基本的技術、心理援助者間で協働・連携する能力は否定的な回答が12.5%と他の項目と比較するとやや高くなっている。また、資格取得に必要な教育が行われたか（問16）では、「行われていた」または「ある程度行われていた」が87.5%であり、総合的に臨床心理学科での学習に対する満足度は非常に高くなっている（問 18）。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

医学部臨床心理学科で学んだことに対する総合的な満足度は全体として非常に高い。特に人間の尊厳・人権を尊重する態度の形成、心理援助者に求められるモラルや礼儀が確実に身についていると評価でき、現在の仕事の中でも必要とされていることから、本学科で学習する意義は極めて高いと評価できる。

【改善を要する点】

全般的に肯定的な回答が多いが、学習・生活支援については、授業以外で教員と接する機会については肯定的な意見が低かったため、改善が求められる。

【参考資料】

図 1（問 15）大学教育を通じて身についた能力

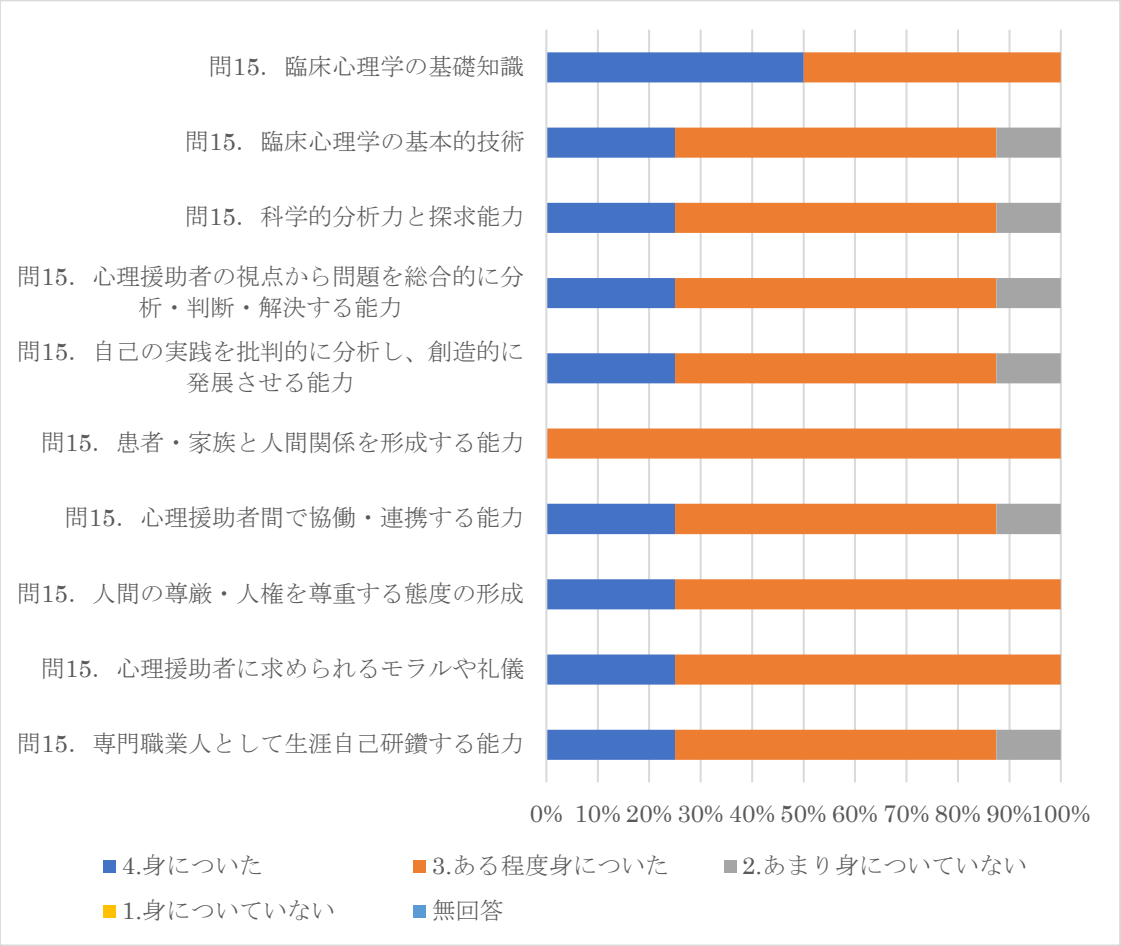


図 2（問 15）現在の仕事で必要とされている能力

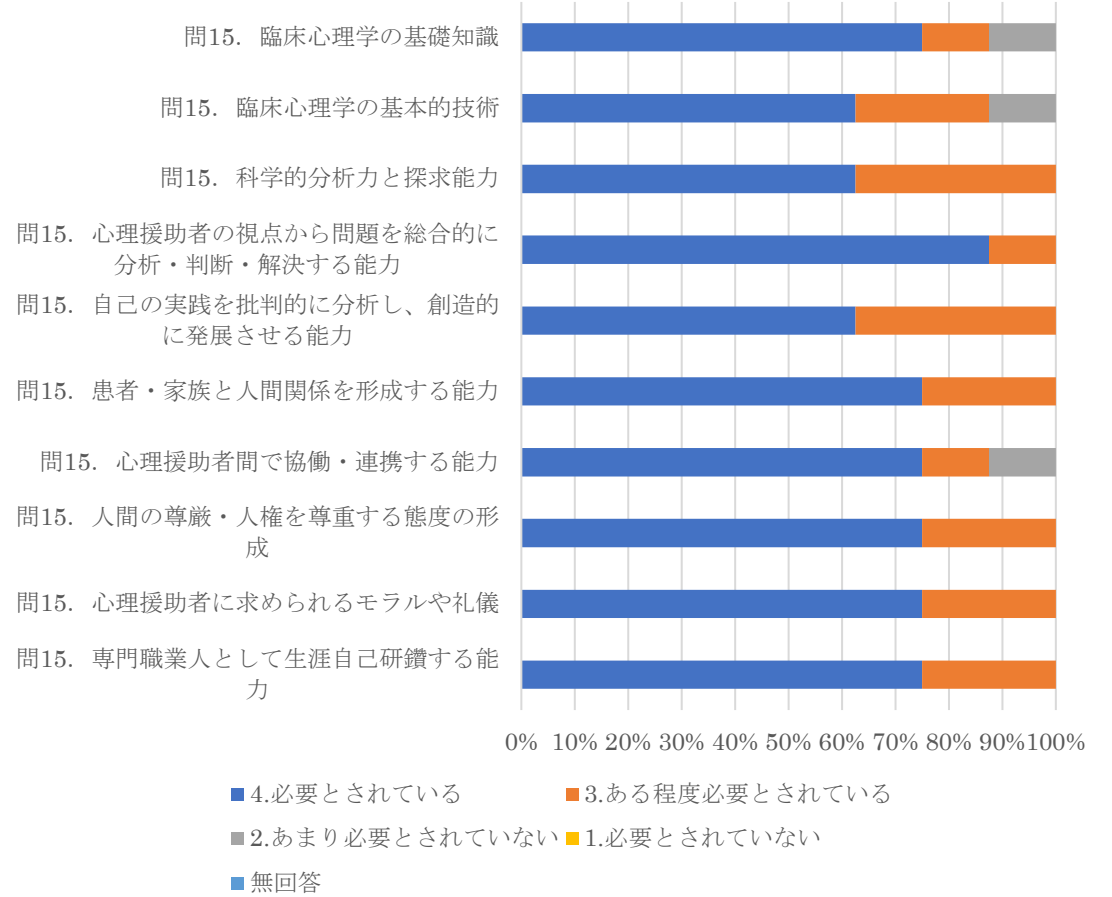
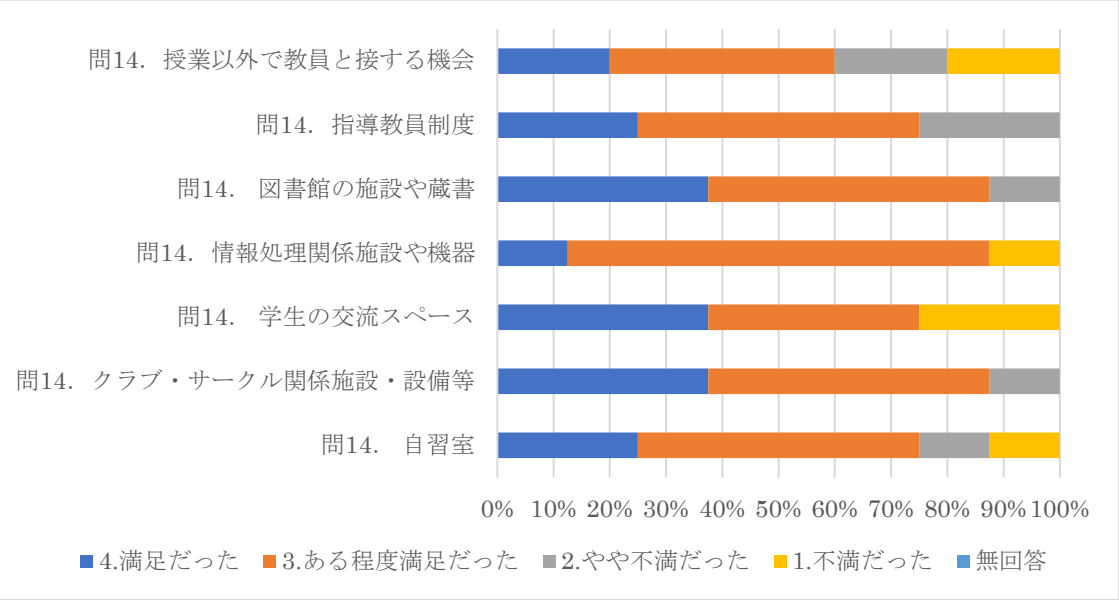


図 3（問 14）学習・生活支援



創造工学部

（1）分析結果

工学部と創造工学部卒業生(令和3～令和4年度卒業生)のアンケート回答人数は166名だった。

言語運用能力の「論理的かつ客観的な文章を作成することができる力」「多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力」が身についたと回答した割合は88%以上と過去3回で最高の値となった。さらに、「論理的かつ客観的な文章を作成することができる力」「多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力」は95%以上が実際の職業において役立っていると感じている。一方で、「英語による情報収集能力、コミュニケーション能力」「国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力」が身についたと回答した割合は 50%を下回り、過去の結果から大きな改善は見られない。

知識・理解については、「人間、社会、環境についての多角的な視点」について過去の結果と比較して多少の増加傾向が見られるが、「自然科学の基礎知識およびその基本原理の理解」はこれまでで最も低い値となった。

問題解決・課題探求能力について、「自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求する‥」がこれまでで最も高く、「職業経験の中で役立っている」と回答する割合も 95%と非常に高い。一方、「多様な制約の下で、専門知識、技術を用いて、必要に応じ他者と協力して問題を解決する‥」は、令和3年度と同水準となった。

倫理観・社会的責任は、「市民としての社会的責任を自覚して行動することができる力」、「工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力」は前回より改善し、「職業経験の中で役立っている」と回答する割合が、2 項目とも 90%以上と過去 2 回より大きく増加した。

地域理解については、「地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探求することができる力」がこれまでで最も高い数値となった。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

「多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる力」「自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる力」「工学倫理に則って、技術者としての社会的役割を担うことができる力」の3項目については、肯定的回答（「身についた」と「どちらかと言えば身についた」）が過去3回のアンケートのうち最も高い数値となっている。

【改善を要する点】

「英語による情報収集能力、コミュニケーション能力」「国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる力」は他の項目と比べて低く、「職業経験の中で役立っているか」に対して 50%程度が役立っていると回答している。語学やグローバルな視点を持ち情報収集やコミュニケーションを行う力については、引き続き教育内容の重点化の必要性が示唆されている。

【参考資料】

図１：専門教育を通じて能力や知識等についてどの程度身についたか（令和７年度）

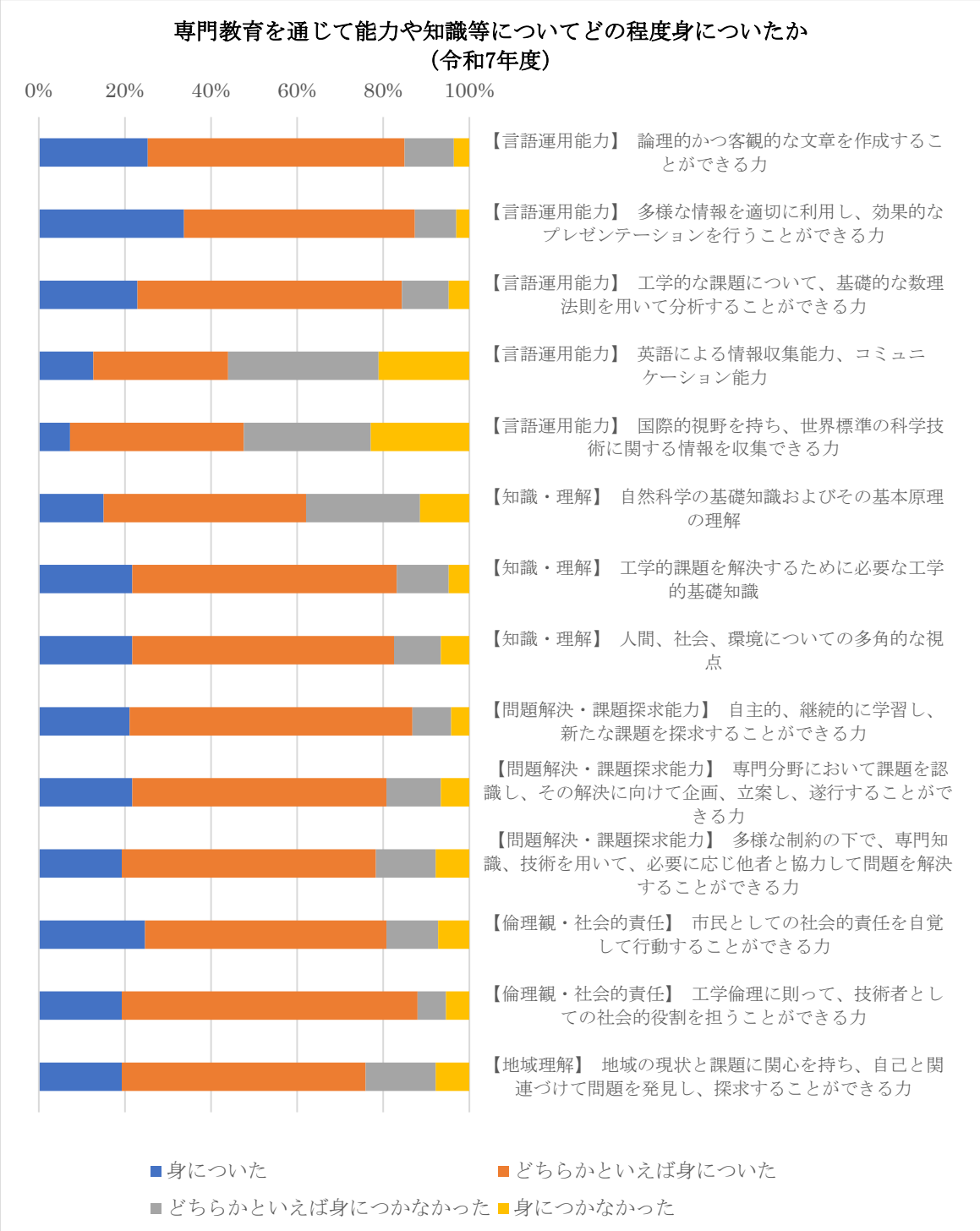


図2:専門教育を通じて能力や知識等について職業経験の中で役立っているか(令和7年度)

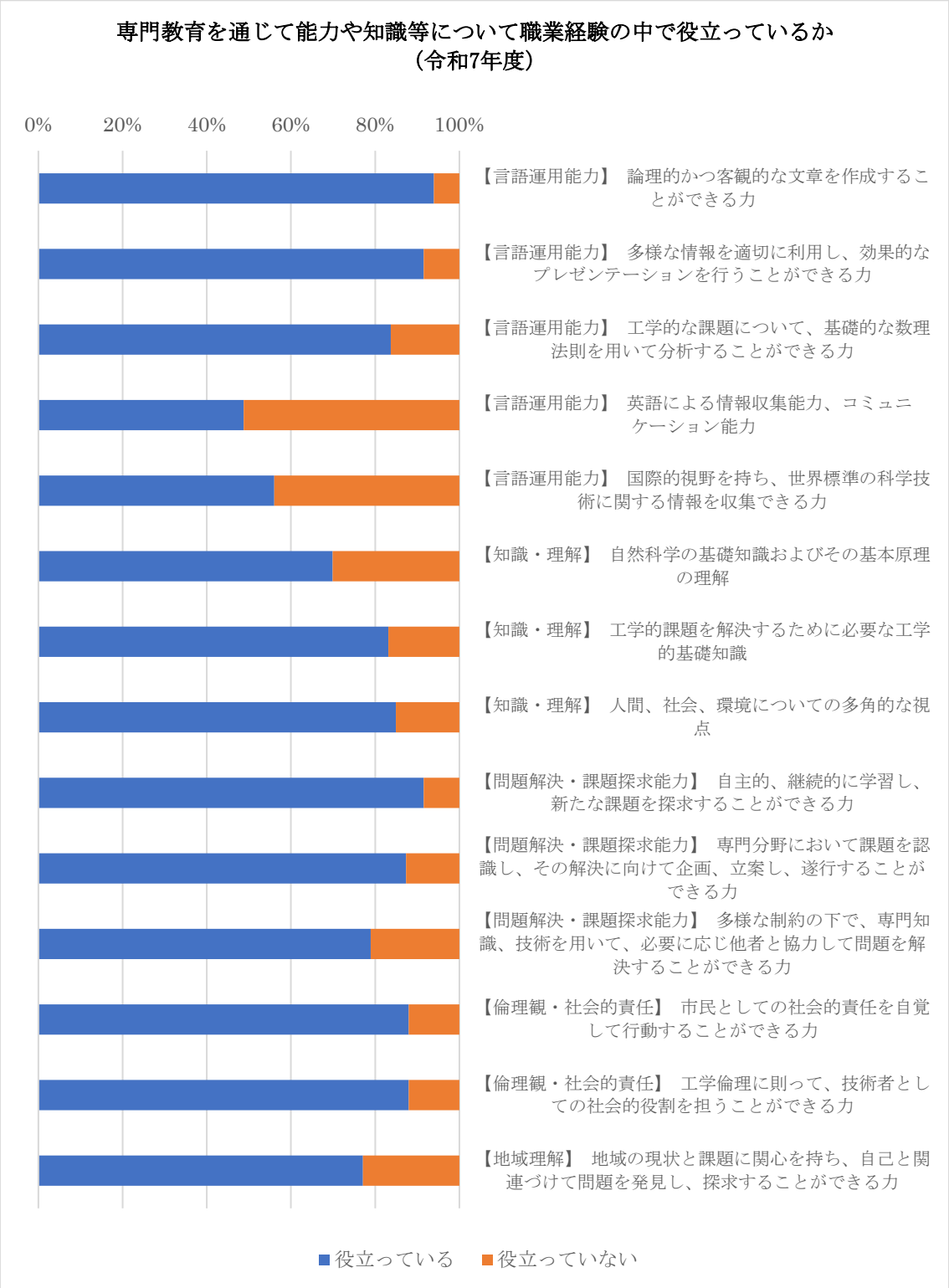


図3:専門教育を通じて能力や知識等について職業経験の中で役立っているか(令和5年度)

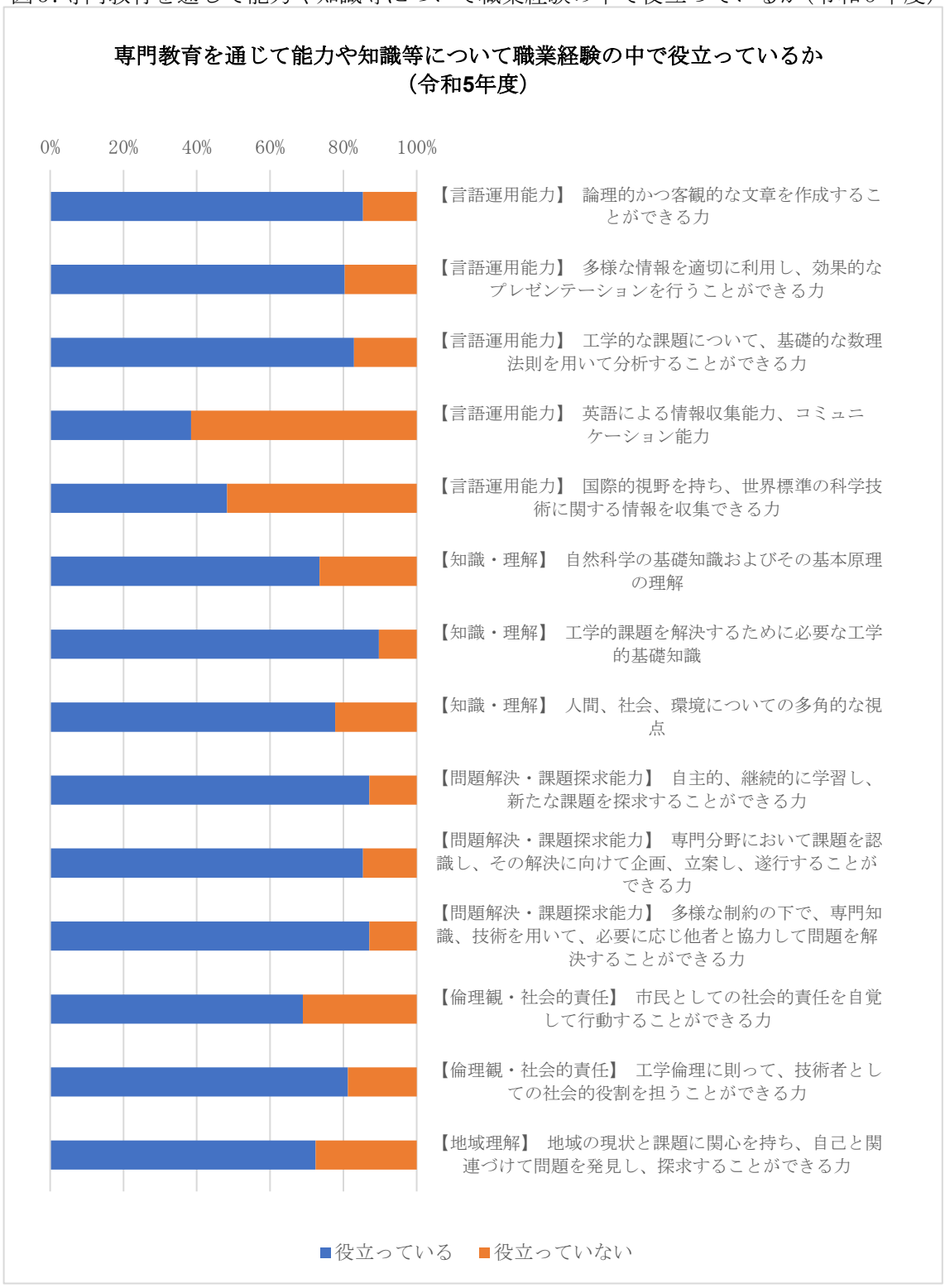
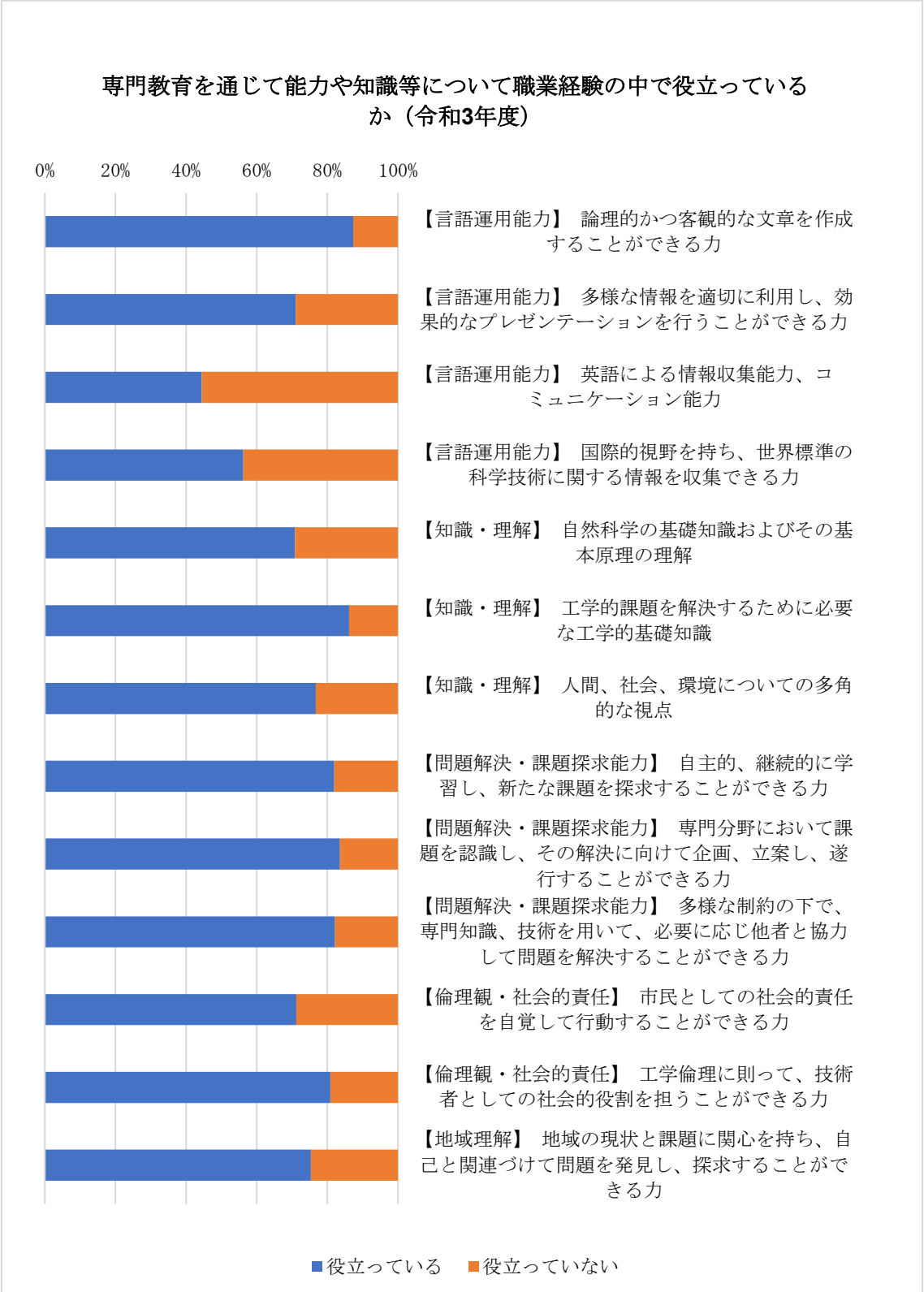


図4:専門教育を通じて能力や知識等について職業経験の中で役立っているか(令和3年度)



農学部

（１）分析結果

①専門教育各科目における充実度（満足度）（問 10-1～6）：図 1 参照

「充実していた」および「ある程度充実していた」と肯定的な回答をした卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」約 91%、「コース専門科目」約 93%、「共通展開科目」約 86%、「コース実験またはフィールド実習」約 91%、そして「課題研究」では約 96%だった。

②学習・生活支援における充実度（満足度）（問 10-7～9）：図 2 参照

肯定的な回答をした卒業生の割合は、「農学部教員との交流」約 66%、「農学部における友人との交流」約 88%、そして「農学部における学生相談窓口」では約 66%だった。

③専門教育および学生生活がこれまでの職業生活への役立ち度（問 11-1～9 左）：図 3 参照

肯定的な回答をした卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」約 86%、「コース専門科目」約 71%、「共通展開科目」約 77%、「コース実験またはフィールド実習」約 71%、そして「課題研究」では約 82%だった。学生生活における「研究室での活動」は約 86%、「就職活動」約 79%、そして「友人との交流」では約 84%だった。

④専門教育および学生生活の社会生活全般への役立ち度（問 11-1～9 右側）：図 4 参照

肯定的な回答をした卒業生の割合は、「導入ならびに共通基礎科目」約 75%、「コース専門科目」約 77%、「共通展開科目」約 79%、「コース実験またはフィールド実習」約 77%、そして「課題研究」では約 82%だった。また、「研究室での活動」約 86%、「就職活動」約 80%、そして「友人との交流」では約 88%だった。

⑤総合的にみた農学部で学んだことの満足度（問 13）：図 5 参照

肯定的な回答をした割合は 100%だった。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

今回の調査対象となった卒業生はコロナ対応下で修学した学生（平成 30、令和元年度入学）が対象となっていることを踏まえて考察する必要がある。教員・学生双方が**通常とは異なる制約の多い教育・学修**環境下に置かれていたことを考慮すると多くの項目で前回結果を維持もしくは向上したことは特筆に値するといえるだろう。職業生活への役立ち度については多くの調査項目で数ポイントではあるが向上しているが、「課題研究」、「研究室での活動」が 5 ポイント向上した点は特筆すべきである。さらに総合的にみた農学部で学んだことの満足度は 100％であり、コロナ禍における修学でも満足したものであったことがうかがえる。

【改善を要する点】

専門教育各科目における充実度はさほど変化はないように見えるが、どの項目も数ポイントずつ減少していた。職業生活への役立ち度は高評価であったが、社会生活全般への役立ち度は多くの項目でポイントが減少していたことから改善を要する点である。なお、「就

職活動」、「友人との交流」が大幅に減少しているが、これはコロナ禍であったためと推察される。次回の調査の結果を待ちたい。

【参考資料】

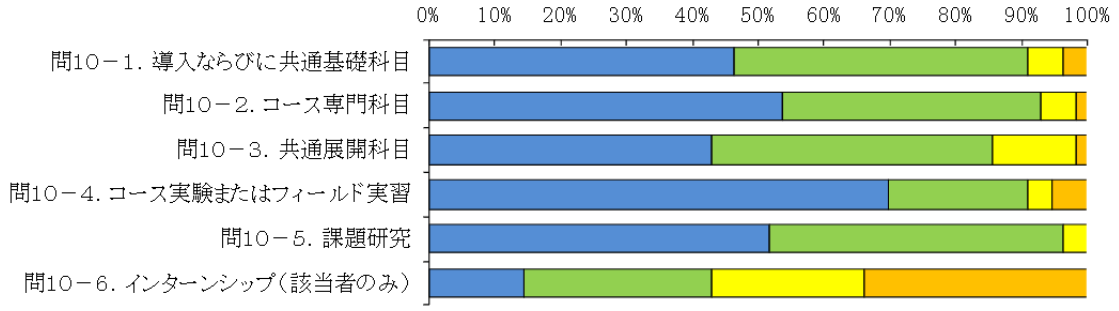


図 1：専門教育各科目における充実度（満足度）

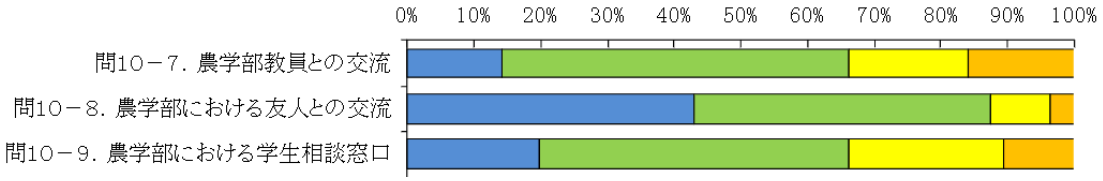


図 2：学習・生活支援における充実度（満足度）

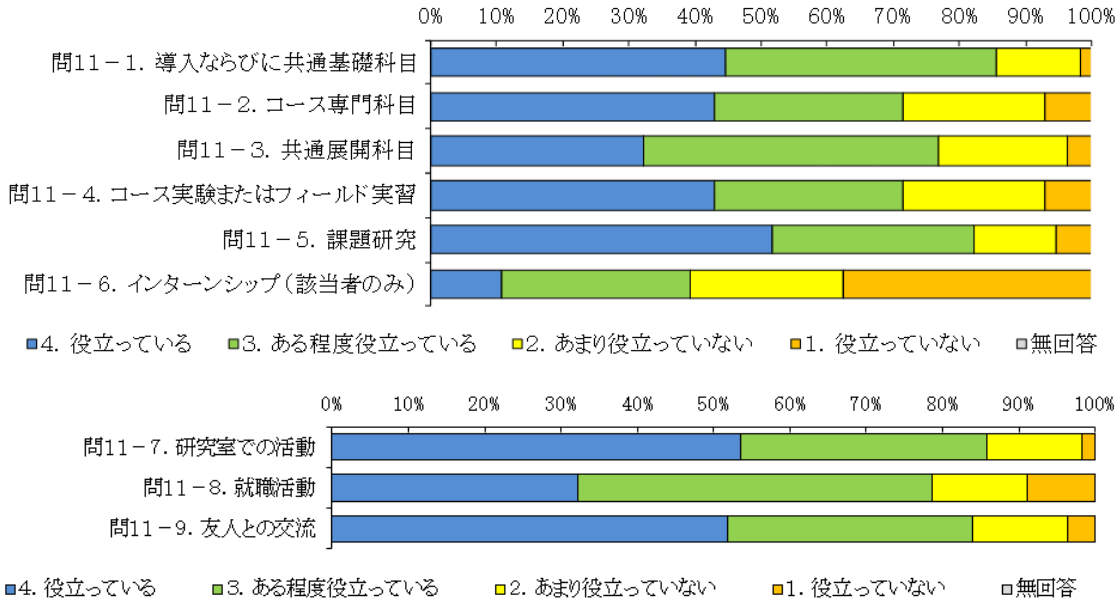


図 3：専門教育および学生生活がこれまでの職業生活への役立ち度（問 11 左）

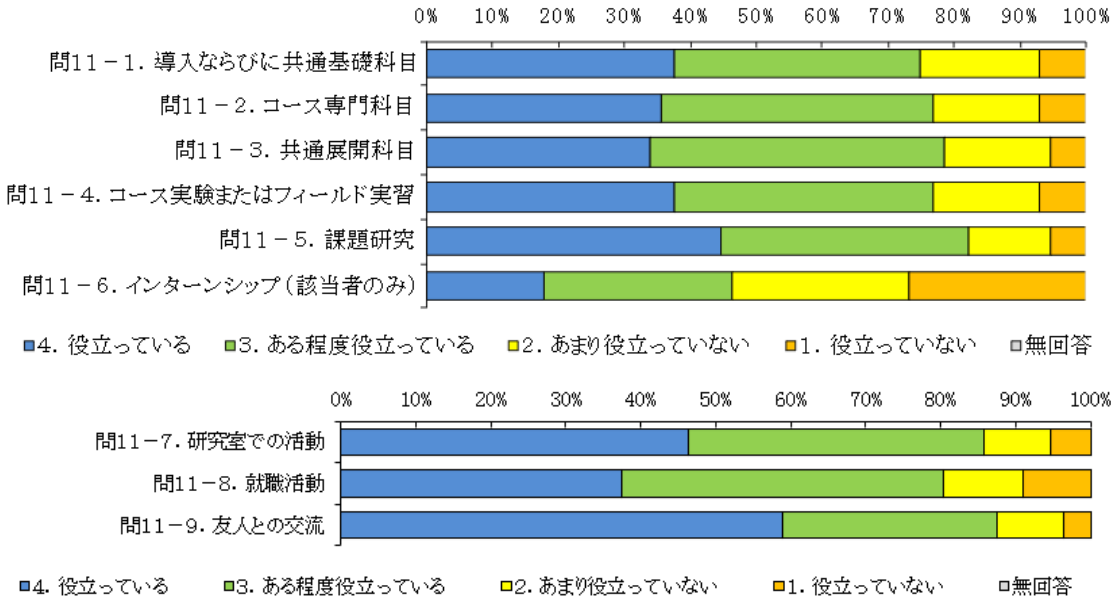


図 4：専門教育および学生生活の社会生活全般への役立ち度（問 11 右）

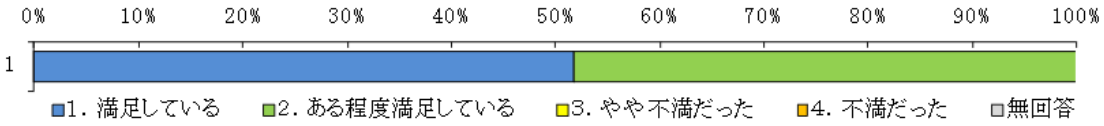


図 5：総合的にみた農学部で学んだことの満足度（問 13）

＜修了生によるアンケート調査＞
１．全学的な視点からの分析

（１）分析結果

①現在の勤務先の就業形態（問 3、問 4）・・・図 1 参照

勤務先の就業形態について、「正規雇用」が 92.0%となっており、高い値である。

勤務先の業種について、多い順から「教育関係」「食品・化学関係」が 18.2%、「建設・機械関係」が 14.5%となっている。これは、全回答者のうち 63.6%が、教育学研究科、工学研究科､農学研究科のいずれかの出身者であることが関係していると推測される。

②現在の職業満足度（問 5）・・・図 2 参照

現在の職業満足度について、満足している者（「満足している」と「ある程度満足している」の合計）が 85.7%となっている。一方、満足していない者（「満足していない」と「あまり満足していない」の合計）が 14.3%と少なからず存在している。

③大学院教育を通じて身についた知識・能力（問 7-1）・・・図 3 参照

「1.専門知識・理解」「2.研究能力・応用力」「3.倫理観・社会的責任」、そして、「5.D 能力」については、身についた者（「身についた」と「どちらかといえば身についた」の合計）がすべて 90%を超えている。

「4.グローバルマインド」の知識・能力について、身につかなかった者（「身につかなかった」と「どちらかといえば身につかなかった」の合計）が 38.1%となっている。

④これまでの職業経験の中で役立った知識・能力（問 7-2）・・・図 4 参照

「3.倫理観・社会的責任」の能力等が役立っている者が 93.8%、「5.D 能力」が役立っている者が 94.7%である。「3.倫理観・社会的責任」「5.D 能力」のいずれの能力等も大学院教育でより深く修得できる能力等と考えられ、職業経験の中で有用であることが確認できる。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

・勤務先の就業形態について、92.0%の回答者が「正規雇用」である。

これは、令和 5 年度の回答結果（89.3%）と比較して 2.7%増加しており、高い値で推移いる。ここから大学院修了者の就職状況が良好であると評価できる。

・専門知識、倫理観に加え、「D 能力」等の多様な知識・能力等が身についている。

特に、「D 能力」については、99.1%（「身についた」と「どちらかといえば身についた」の合計）が身についたと認識していることが確認できる。

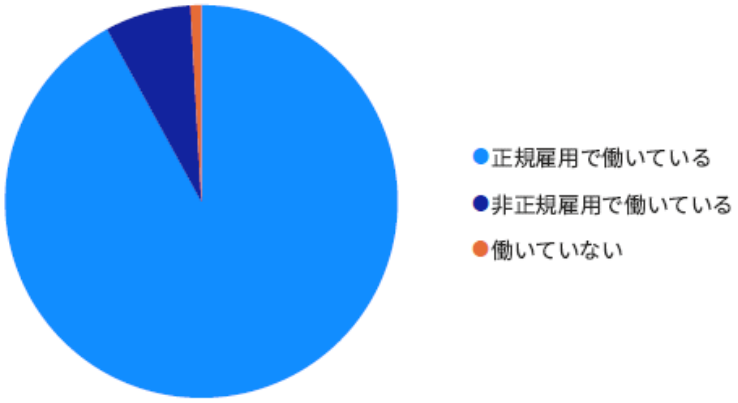
【改善を要する点】

「グローバルマインド」の知識・能力について、身につかなかった者（「身につかなかった」と「どちらかといえば身につかなかった」の合計）が 38%存在する。大学院共通教育の充実等のカリキュラム整備や、学生に学修を促す仕組みの強化を通して、グローバルマインドをさらに伸長させることが期待される。

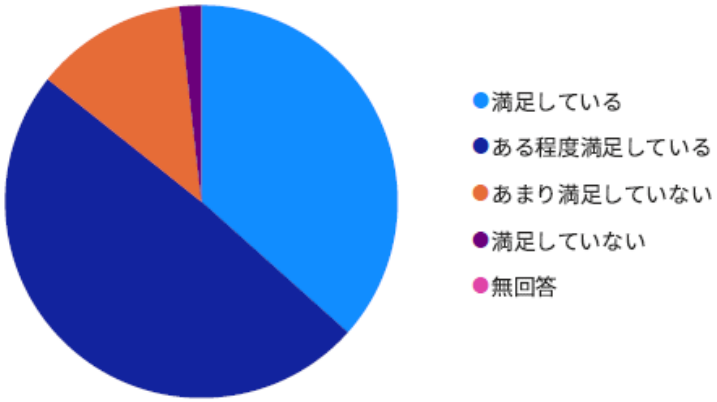
【参考資料】

修了生によるアンケート調査結果　１．修了生の状況

①現在の勤務先の就業形態（図１）

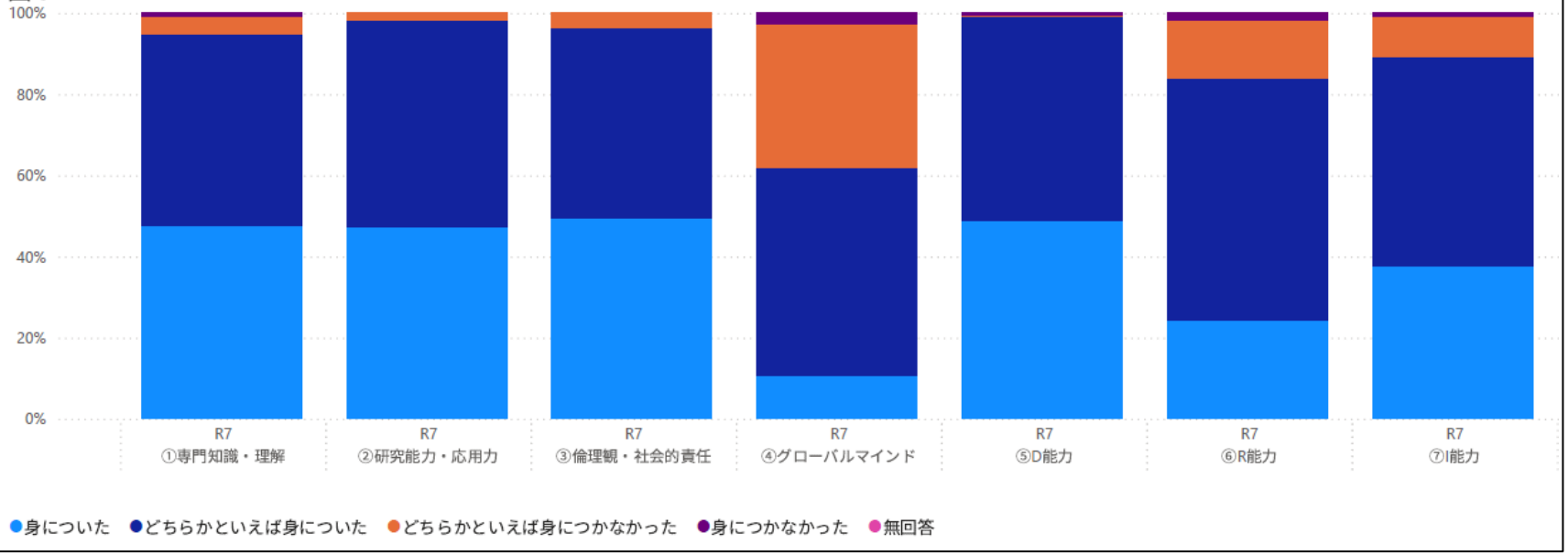


③現在の職業満足度（図２）



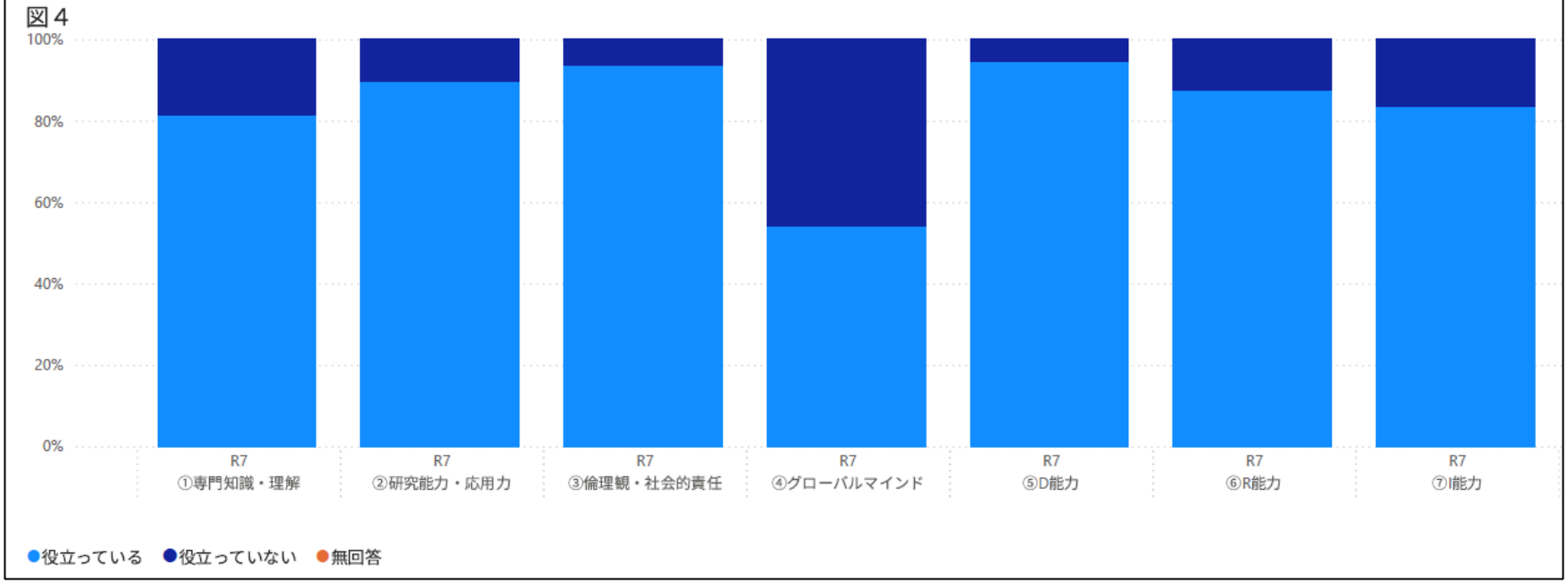
2．大学院教育を通じて身についた知識・能力

図３



３．これまでの職業経験の中で役立った知識・能力

図４



２．研究科に関する分析

法学研究科

（１）分析結果

法学研究科は、2 名からの回答があった。「法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。」（問 9-1）および「法学研究科での教育・研究は、（職業に関することは別に）社会生活において有益でしたか。」（問 10-1）については、全員が「ややそう思う」と回答した。

「開講されていたら受講したかったという授業」（問 12）については、「研究方法に関する授業」と「実務に関する授業」の回答があった（参考資料参照）。

「総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。」（問 13）については、1 名が「満足している」・もう 1 名が「ある程度満足している」と回答があった。

以上により、回答者は法学研究科の教育に対してある程度満足していたと考えられる。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

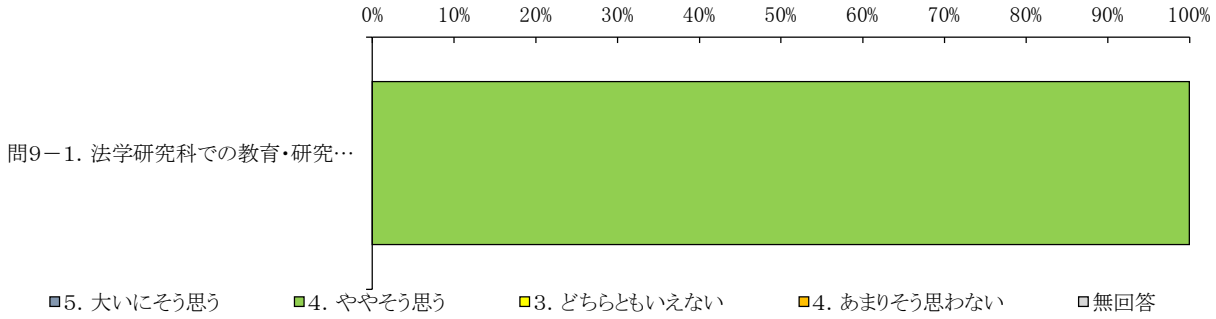
「法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。」（問 9-1）、「法学研究科での教育・研究は、（職業に関することは別に）社会生活において有益でしたか。」（問 10-1）および「総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。」（問 13）について、一定の評価が得られた。このことから、大学院の教育・研究、大学院法学研究科のディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーについて有用であったと考えられる。

【改善を要する点】

「開講されていたら受講したかったという授業」（問 12）について、①「研究方法に関する授業」(33.3%)、②「実務に関する授業」(66.7%)、③「資格試験対策のための授業」(0%)、④「専門以外の教養を高める授業」（0%）の回答があった。このうち、現在の創発科学研究科では、①②④に関する授業は開講されている。しかし、③に関する事業は開講されていないため、検討の余地がある。

問９－１．法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。

	5. 大いにそう思う		4. ややそう思う		3. どちらともいえない		4. あまりそう思わない		5. 全くそう思わない		無回答		総計	
問9－1. 法学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%

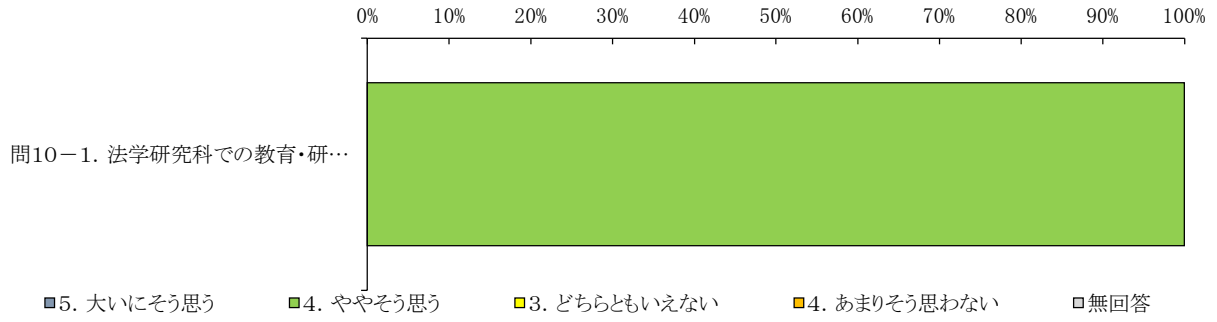


問9－2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

No.	記述内容
2	資格を取得できたから

問10－1. 法学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に)社会生活において有益でしたか。

	5. 大いにそう思う		4. ややそう思う		3. どちらともいえない		4. あまりそう思わない		5. 全くそう思わない		無回答		総計	
問10－1. 法学研究科での教育・研究は、(職業に関することは別に)社会生活において有益でしたか。	0	0.0%	2	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%



問10－2. 具体的にどのような点で、そのように思われますか。

No.	記述内容
2	資格を取得できたから

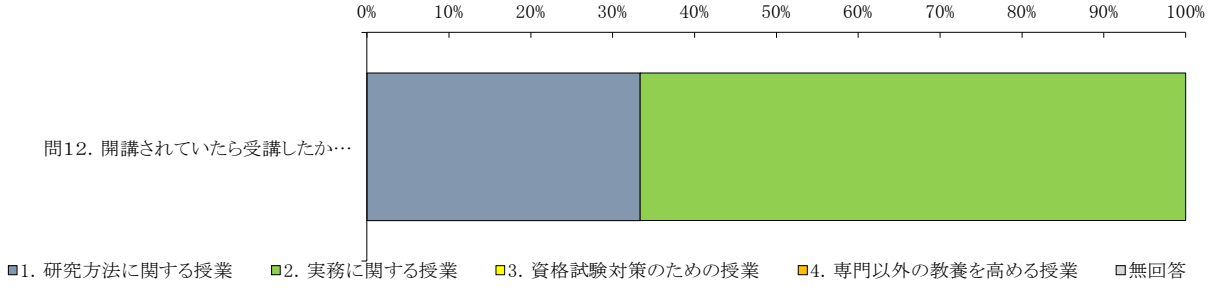
問11. 法学研究科で受講した授業で、職業生活や社会生活において有益だったと思う科目を挙げてください。(幾つ挙げても構いません。また、理由もお書き添えください。)

No.	記述内容
2	資格を取得できた 人脈ができた気がする

Ⅳ　. 法学研究科についてお尋ねします。

問12. 開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。

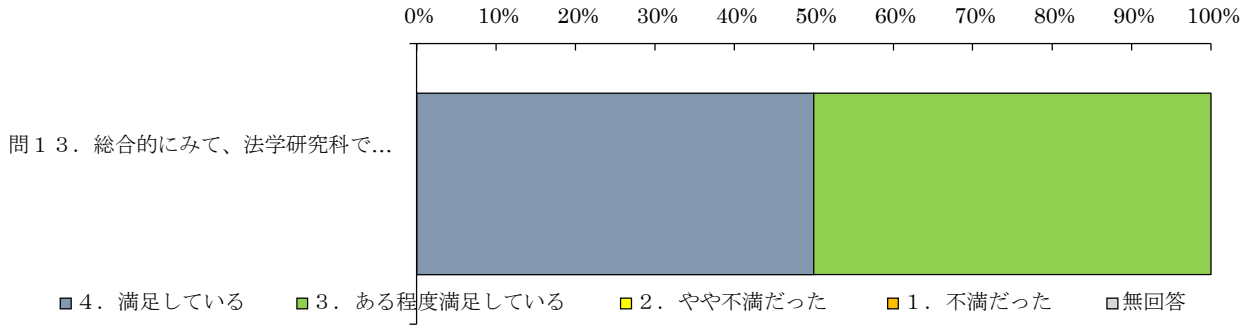
	1. 研究方法に関する授業		2. 実務に関する授業		3. 資格試験対策のための授業		4. 専門以外の教養を高める授業		5. その他		6. 特にない		無回答		総計	
問12. 開講されていたら受講したかったという授業はありますか。以下の中から、当てはまるものをすべて選んでください。	1	33.3%	2	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	100.0%



Ⅳ　．法学研究科についてお尋ねします。

問１３．総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。

	4. 満足している		3. ある程度満足している		2. やや不満だった		1. 不満だった		無回答		総計	
問13. 総合的にみて、法学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。	1	50.0%	1	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	100.0%



問１４．法学研究科での研究・学習全般について、ご意見がありましたら、ご自由にお書きください。
（良かった点、不満だった点、引き続き維持すべき点、改善すべき点や、もっと重視したほうが良いと思う教育内容や取り組み、新たに設けるべき授業科目、要望など）

No.	記述内容
	※回答なし

経済学研究科

（1）分析結果

令和 3 年修了者 2 名から回答があった。その回答は以下のとおりである。

回答者 2 名の個人特定を避けるため、現在の就業形態（問 3）と業種（問 4）は省略する。現在の職業の満足度（問 5）は「満足している」と「ある程度満足している」である。転職・離職の経験（問 6）は「ある」と「ない」である。

「学んだ分野における高度な専門知識」、「学んだ分野において研究を計画・遂行する能力」「学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力」、「学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任」、「学んだ分野において求められる国際的視野」はいずれも「身についた」か「どちらかといえば身についた」のどちらかが選択された。

また「情報通信技術を用いて情報を収集・分析し、モラルに則って効果的に活用する力」と「様々な現象を、数量的なデータを用いて分析し、説明・表現する力」についても、いずれも「身についた」か「どちらかといえば身についた」のどちらかが選択された。

さらに「現状を分析し目的や課題を明らかにする力」、「課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力」、「課題の解決に向けた目標を設定し確実に行動する力」についても、いずれも「身についた」か「どちらかといえば身についた」のどちらかが選択された。

最後に「リスクを予見し、被害を防ぐあるいは最小限に抑える力」と「リスクを評価し、将来の被害に備え、対応する力」についても、いずれも「身についた」か「どちらかといえば身についた」のどちらかが選択された。

次に、それらがこれまでの職業経験の中で役立っているかどうかについては、すべて「役立っている」が選択された。

大学院のカリキュラムは十分整っているか、また主指導教員・副指導教員の指導は十分であったか、については、すべて「大いにそう思う」が選択された。

「経済についての知識」「統計についての知識」「金融についての知識」「会計についての知識」「経営についての知識」「世界各地域の経済についての知識」「人類の文化および社会についての幅広い知識」「定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」「定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」「複眼的な思考力」「チャレンジ精神や行動力」「コミュニケーション力」「課題探究・解決力」は、いずれも「身についた」か「どちらかといえば身についた」のどちらかが選択された。一方、「商学・マーケティングについての知識」「観光についての知識」「地域の活性化についての知識」については 1 名が「身につかなかった」を選択した。

それらがこれまでの職業経験の中で役立っているかどうかについては、「経済についての知識」「統計についての知識」「会計についての知識」「経営についての知識」「定量的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」「定性的なデータを適切な手法を用いて分析する能力」「複眼的な思考力」「課題探究・解決力」は、2 名とも「役立っている」を選択し、「金融についての知識」「世界各地域の経済についての知識」については 2 名とも「役立っていない」を選択した。そして「商学・マーケティングについての知識」「観光についての知識」「地域の活性化についての知識」「人類の文化および社会についての幅広い知識」「チャレンジ精神や行動力」「コミュニケーション力」については「役立っている」と「役立ってい

ない」の二つの選択が混在していた。

「個別演習・副演習」「修士論文の執筆」は、これまでの職業経験の中で、どの程度役立っているかについては、2 名とも「役立っている」を選択し、「プロジェクト活動」については参加した 1 名が「役立っている」を選択した。「実践型／地域インターンシップ」と「海外研修・留学」は 2 名とも参加していなかった。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

2 名のみの回答ではあるが、おおむね教育内容が習得され、それが経験体験のなかでも活かされていることが示された。

【改善を要する点】

金融やグローバルな知識が職業経験の中で役立っていない可能性が示唆された。業種特性に依存する面もあるかもしれないが、これらの分野をより学ばせるような大学院のカリキュラム設計が求められる。

工学研究科

（1）分析結果

工学研究科修了生に対するアンケートの回答者数は、博士前期課程 32 名、博士後期課程 2 名であった。

専門知識・理解（図 1、2）では、「学んだ分野における高度な専門知識」が身についたとする肯定回答（「身についた」「どちらかといえば身についた」）は、91%、それらが職業経験の中で役立っているとする肯定回答（「役立っている」）は、70%であった。また、「自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術」が専門教育を通じて身についたとする肯定回答は 79%、それらが職業経験の中で役立っているとする肯定回答は 76%であった。

研究能力・応用力（図 3、4）では「学んだ分野において研究を計画・遂行する能力」「学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力」「課題探求能力と高度な問題解決能力」が身についたとする肯定回答はいずれも 94%以上、役立っているとの肯定回答は、いずれも 85%以上であった。「持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力」が身についたとする肯定回答は 74%、それらが役立っているとする肯定回答は 79%であった。

倫理観・社会的責任（図 5、6）では「学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任」「社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観」が身についたとする肯定回答はいずれも 91%程度、それらが役立っているとする肯定回答はいずれも 88%以上であった。

グローバルマインド（図 7、8）では「学んだ分野において求められる国際的視野」が身についたとする肯定回答は 48%、役立っているとする肯定回答は 58%であった。また、「論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力」が身についたとする肯定回答は 56%、役立っているとする肯定回答は 41%であった。

（2）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

前回調査（令和 5 年度）と比較して、専門知識・理解は肯定回答に微減が見られたが、研究能力・応用力（「課題探求能力と高度な問題解決能力」、「社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観」等）、倫理観・社会的責任（「持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力」）では肯定回答に微増が見られる。これらの知識・施術は大学院教育により十分獲得でき、職業経験の中で役立っていると認識されている。

【改善を要する点】

グローバルマインド（「論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力」）は数値に減少が見られる。コロナ禍により、アンケート対象者は、学部、博士前期課程、博士後期課程を通じて、海外との交流が狭まったことが背景にあると考えられるが、大学院教育の改善が必要であると思われる。

【参考資料】

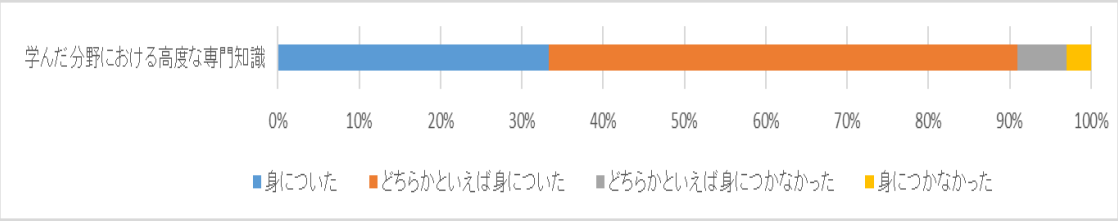
問 7-大学院教育（共通項目）の質問

「以下に示す知識・能力は、大学院教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。」

問 9-工学研究科教育独自の質問

「以下に示すさまざまな能力や知識等については、工学研究科の専門教育を通じてどの程度身につきましたか。また、これまでの職業経験の中で役立っていますか。それぞれお答えください。」

図 1：専門知識・理解（大学院教育）：「学んだ分野における高度な専門知識」



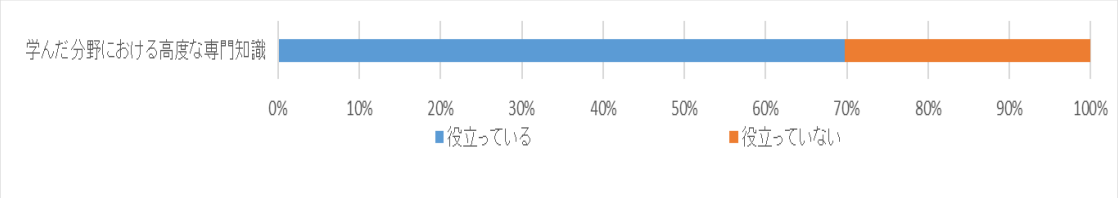
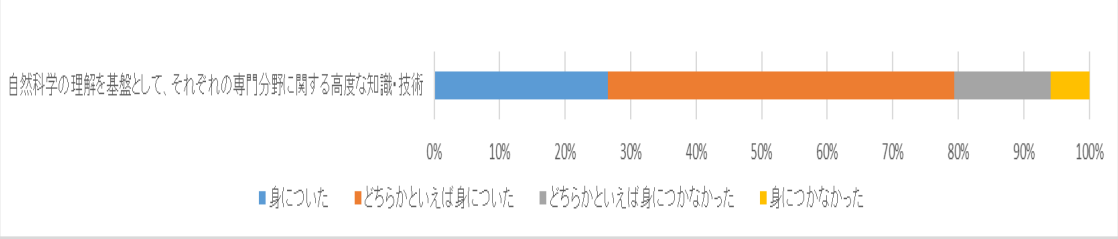


図 2：専門知識・理解（工学研究科の専門教育）：「自然科学の理解を基盤として、それぞれの専門分野に関する高度な知識・技術」



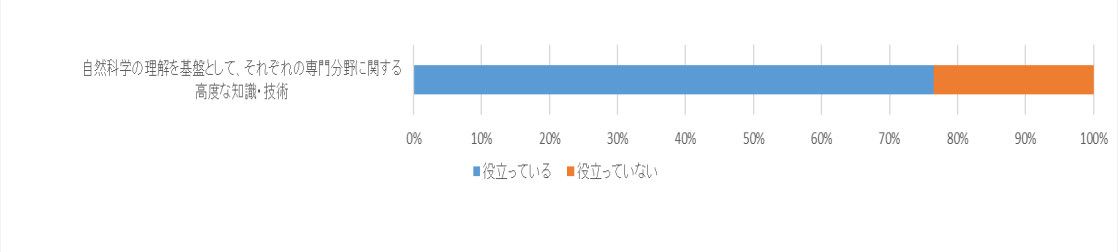
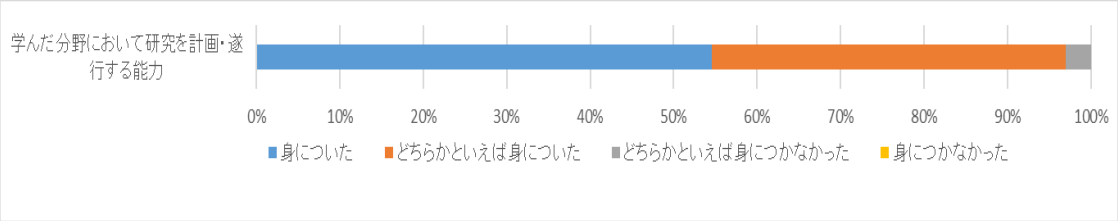
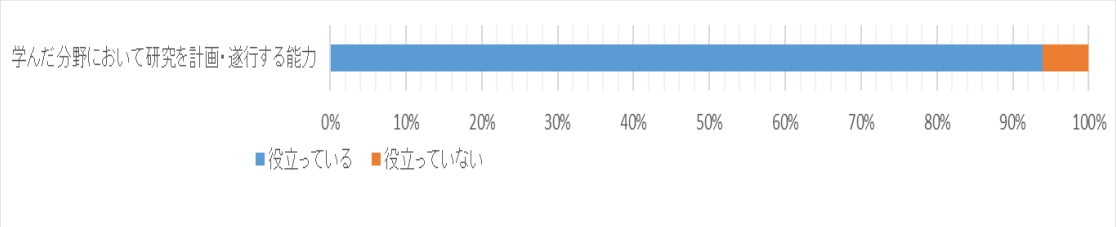
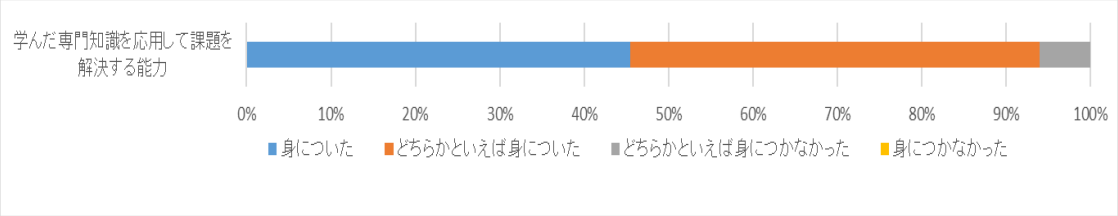


図３　研究能力・応用力（大学院教育）:「学んだ分野において研究を計画・遂行する能力」、「学んだ専門知識を応用して課題を解決する能力」







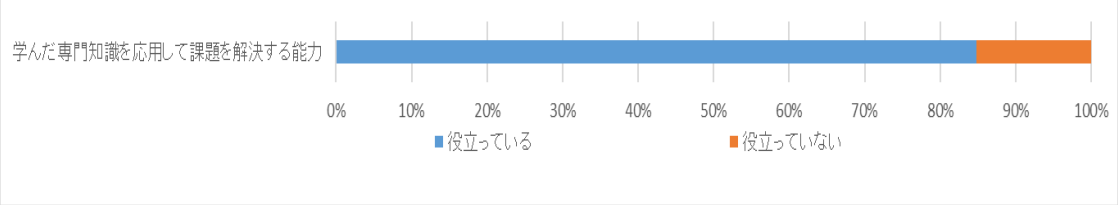


図 4　研究能力・応用力（工学研究科の専門教育）:「課題探求能力と高度な問題解決能力」、「持続可能な社会の実現を推進するための実践的能力、学際的な発想力を有し、必要に応じてチームの一員として能力を発揮する力」

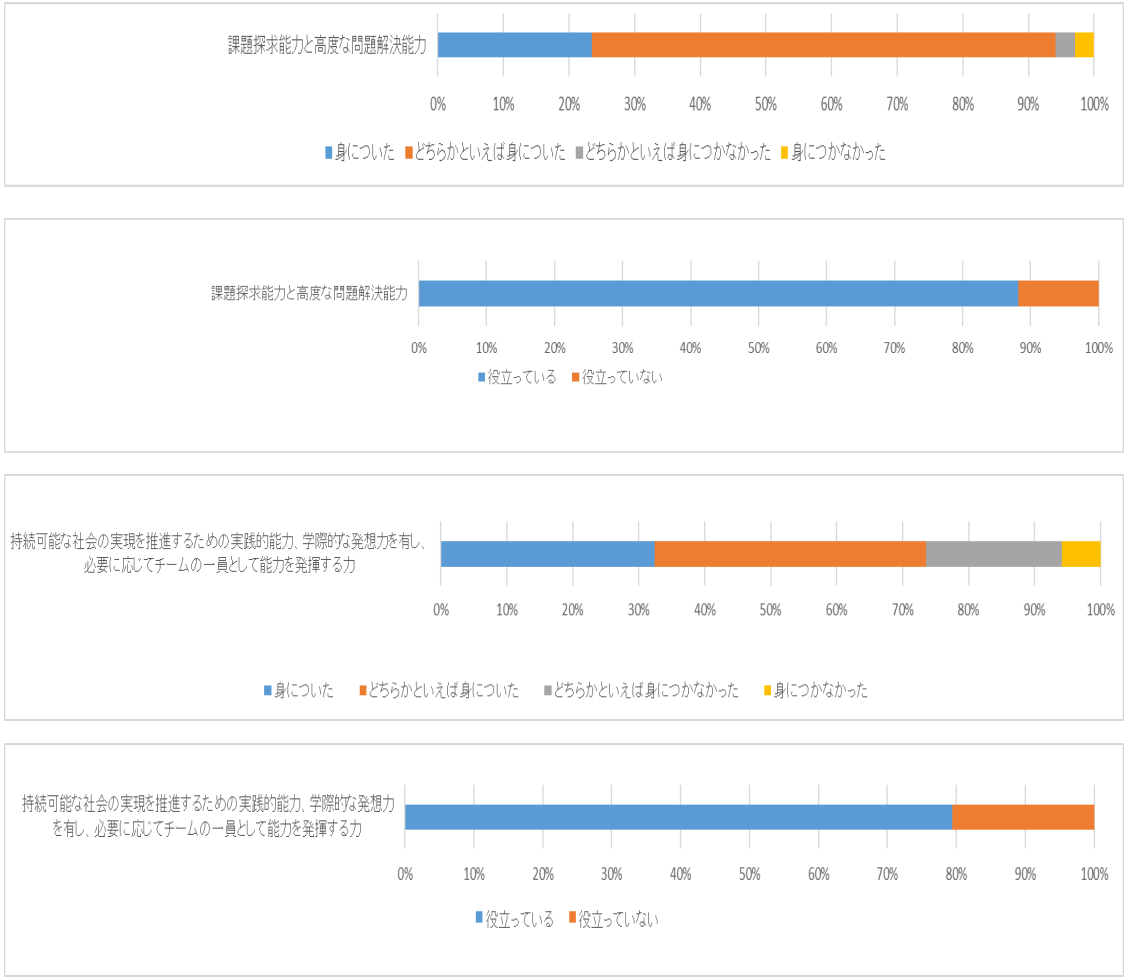


図 5　倫理観・社会的責任（大学院教育）:「学んだ分野において求められる倫理観や社会的責任」

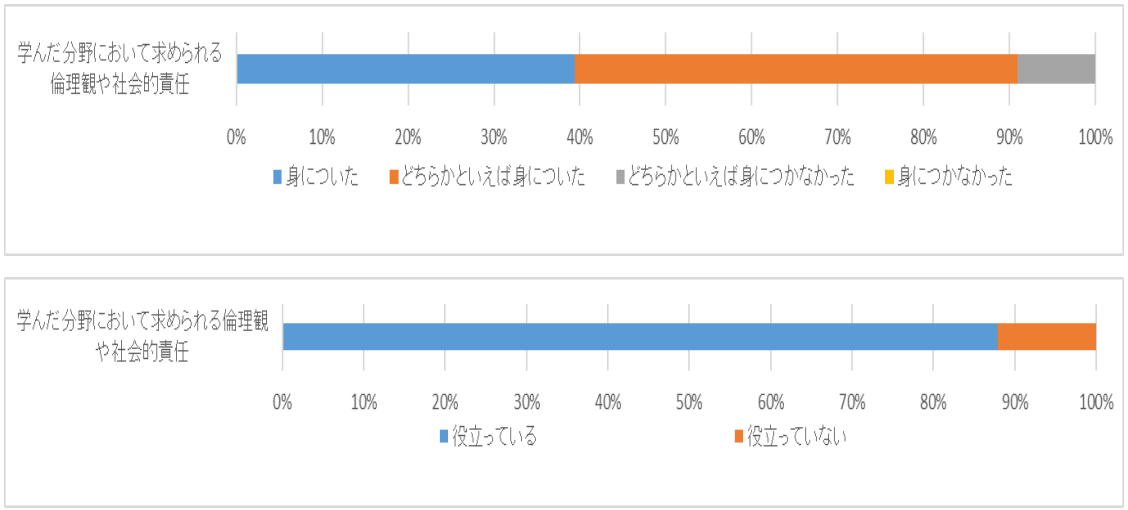


図 6　倫理観・社会的責任（工学研究科の専門教育）:「社会や科学技術の発展に貢献するために、技術者としての広汎な知識と普遍的倫理観」

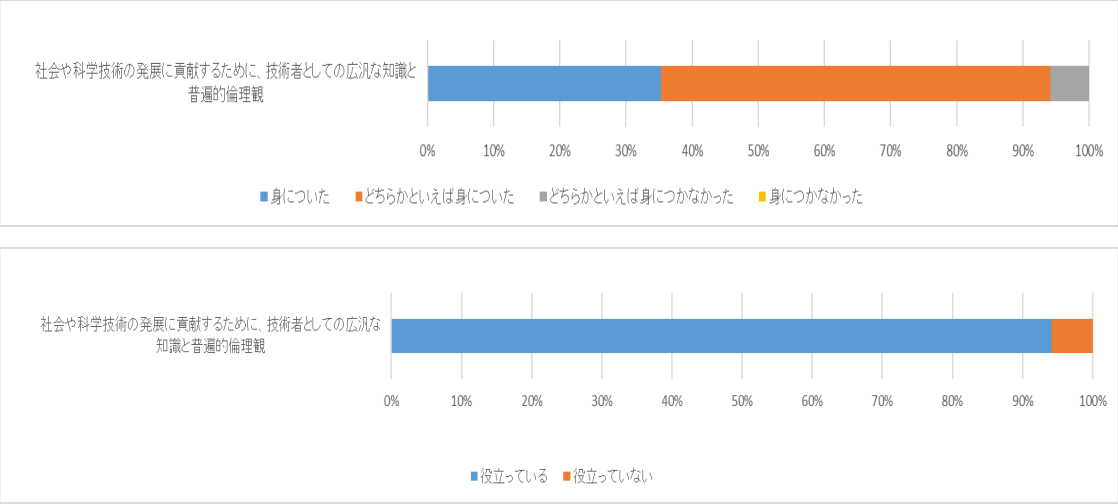


図 7　グローバルマインド（大学院教育）:「学んだ分野において求められる国際的視野」

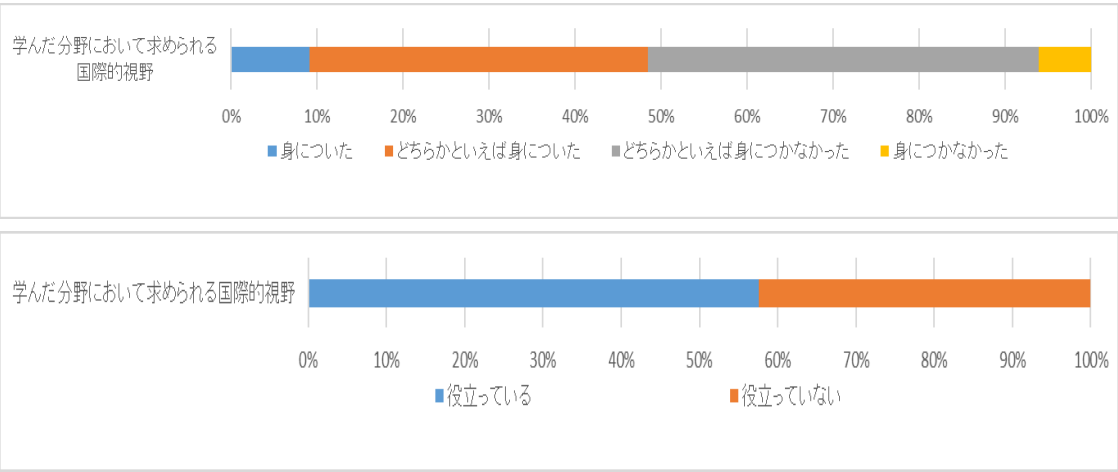
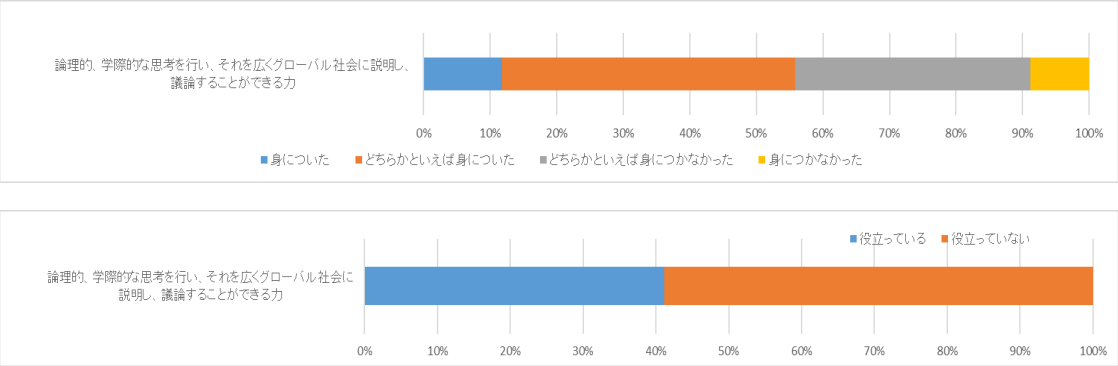


図 8　グローバルマインド（工学研究科の専門教育）:「論理的、学際的な思考を行い、それを広くグローバル社会に説明し、議論することができる力」



医学系研究科

（１）分析結果

令和 3 年度から令和 4 年度の修了者を対象にアンケート調査を実施し、対象者 97 名のうち 18 名から回答を得た（回答率 18．5%）。回答者の内訳は、医学専攻（機能構築医学専攻[1]を含む）8 名（対象者 58 名中）、看護学専攻 8 名（対象者 24 名中）、臨床心理学専攻 2 名（対象者 15 名中）であった。

全体質問では、「大いにそう思う」と「ややそう思う」の合計を肯定的回答として集計した結果、入学目的の達成度については 83%、他者への進学推奨の意向については 72%が肯定的な回答であり、修了生の多くが本研究科に対して高い評価を示していることが確認された。一方で、就労への配慮については肯定的回答が 59%に留まり、過半数は超えたものの他項目に比べ低水準となった。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

専攻別質問において、修了後の有用性を肯定する回答は、医学専攻で 76%、看護学専攻で 88%、臨床心理学専攻では 100%に達した。いずれの専攻においても、肯定的な回答が約 8 割から 10 割に達しており、学位プログラムが社会や現場で求められる高度な専門性の習得に大きく寄与していることがうかがえる。修了生が修得した専門知識や研究遂行能力は、医学・看護・臨床心理の各分野における実務や研究活動において有効に活用されているものと考えられる。また、他者への進学推奨に関しても 7 割以上が肯定的に回答しており、本研究科での学修経験に対する満足度の高さがうかがえる。

【改善を要する点】

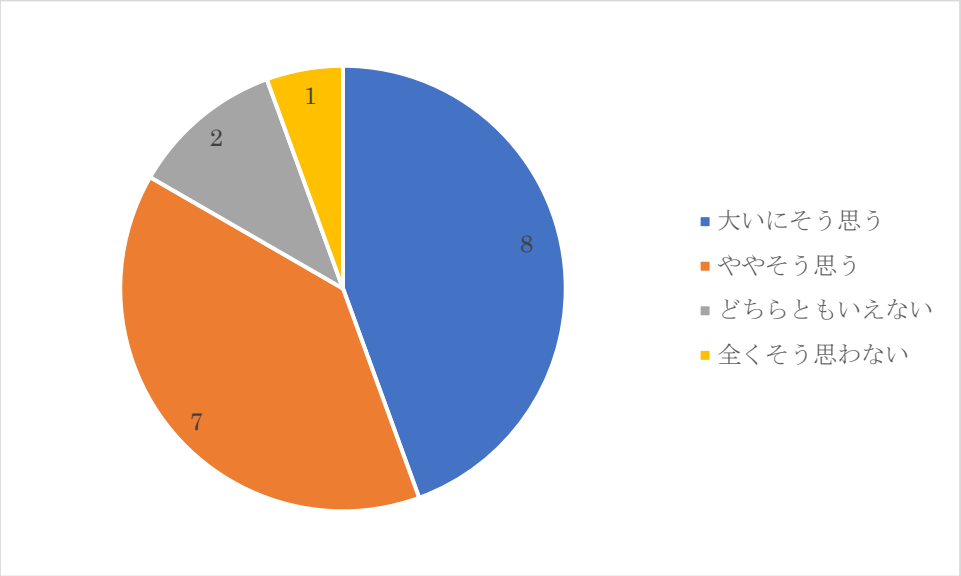
「就労への配慮」に対する肯定的回答は 59%に留まり、他の設問と比較して低い水準であった。本研究科には社会人学生が多く在籍しており、勤務と学業の両立を図りながら学習・研究活動に取り組んでいることから、勤務形態や生活環境に応じた柔軟な教育環境の整備について、一定の課題があることがうかがえた。授業や研究指導の実施方法、履修支援体制、相談支援体制などについて、社会人学生のニーズを踏まえたさらなる改善が求められる。

今後は組織として仕事と学業の両立をバックアップする体制の充実を図り、教育満足度の向上に繋げていきたい。

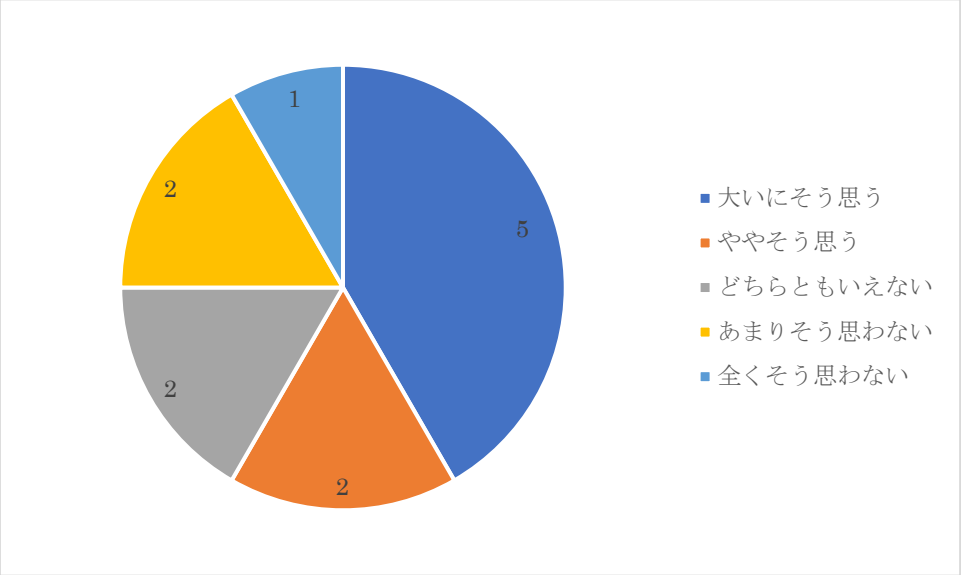
[1] 機能構築医学専攻は、平成 28 年 4 月入学者から学生募集停止

【参考資料】

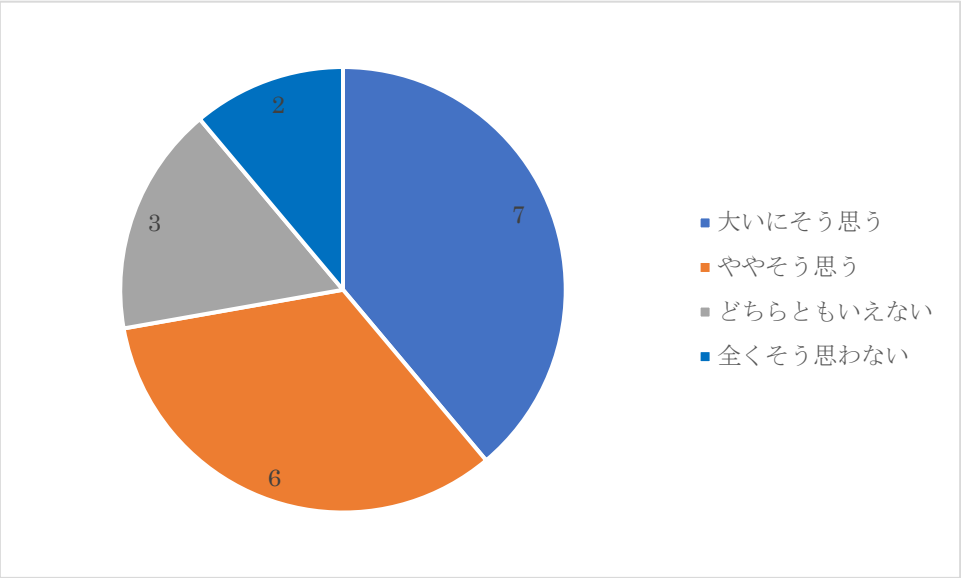
全体として、大学院入学の目的は達成できましたか。



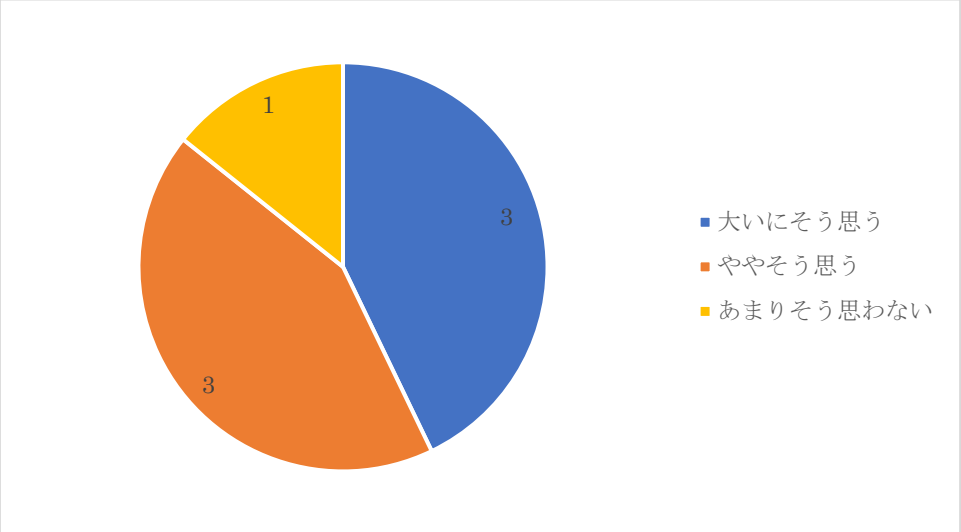
大学院での教育・研究において、就労への配慮は十分でしたか。



大学院への進学について意見を求められた時、積極的に勧めたいですか。

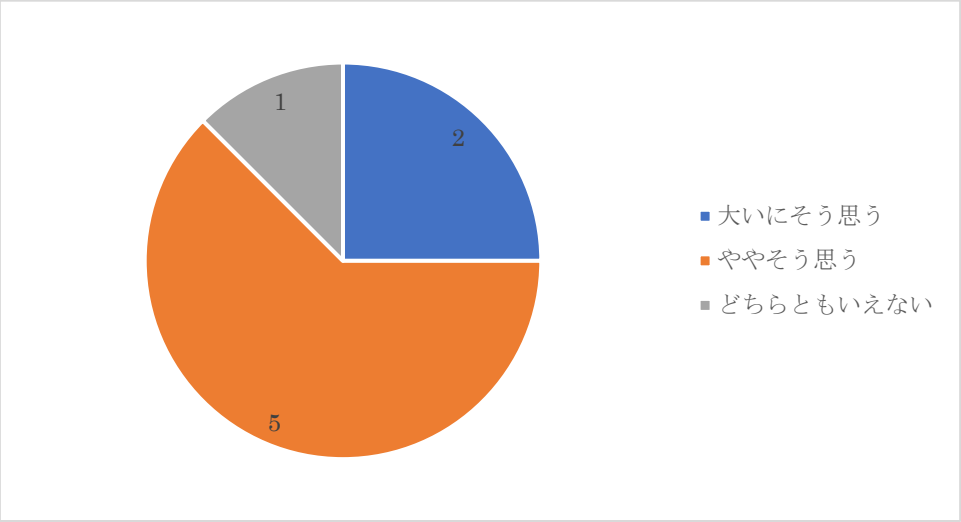


【医学専攻・機能構築医学専攻】
大学院研究で身につけた考え方・知識・手技が今後の診療で有用ですか。



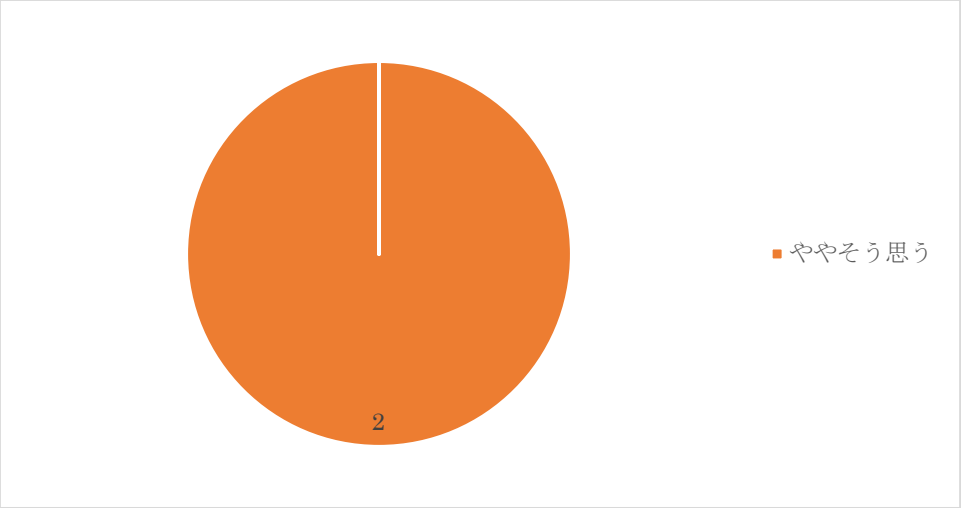
【看護学専攻】

大学院（修士課程）で身につけた考え方・知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。



【臨床心理学専攻】

大学院（修士課程）で身につけた考え方・知識が、今後の研究活動、実践に有用ですか。



農学研究科

（１）分析結果

1）教育・研究による能力の取得状況（問 8、図 1）

教育・研究を通じた「解析能力」および「日本語によるプレゼンテーション能力」は 100%、「課題の全容を論理的に取りまとめる能力」も 95.3%と極めて高い評価を得た。一方で、「英語によるコミュニケーション能力」と「英語によるプレゼンテーション能力」はどちらも 40%程度に留まり、否定的な評価も 20%を超えている。

2）専門教育の充実度（問 9、図 2）

「研究科目（修士研究 I～IV、修士論文)」において 100%の修了生から肯定的な評価が得られた。「専門科目（専攻セミナーI～III)」も 90.5%が充実していると回答した。一方で、「研究科目（国際研究 A・B)」の肯定的回答は 42.8%に留まった。ただし、対象外の学生による回答が含まれている可能性もある。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

1）〈高度な研究解析能力と論理的構成力の修得〉実験や調査の結果を解析し、論理的に取りまとめる能力が確実に身についており、専門教育の実効性が高い。

2）〈研究指導および専門セミナーの充実〉修士論文作成に関わる科目への満足度が極めて高く、指導体制が有効に機能している。

3）〈日本語による発信能力の養成〉日本語でのコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力の取得実感が非常に高く、専門知識を外部へ伝える基礎能力が十分に養われている。

【改善を要する点】

1）〈国際的な発信・コミュニケーション能力の強化〉英語による発信力や「グローバルマインドの習得」に関する評価が低い。国際的に活躍できる人材育成のため、教育プログラムの再検討や学修動機の強化が望まれる。

2）〈英語教育の充実と実効性の向上〉英語関連能力の取得実感が低いことから、国際研究コミュニケーション関連科目の内容や指導方法について、学生のニーズや実情に即したものか精査する必要がある。

【参考資料】

図 1

図 2

教育学研究科

（１）分析結果

修了生 16 名（令和 3 年度修了生 5 名、令和 4 年度修了生 11 名）から回答があった。

まず、総合的な満足度を問う質問（問 11）について、「1.満足している」、「2.ある程度満足している」の回答率は、それぞれ 87.5%、12.5%と高い満足度を示しており、全員が肯定的な回答をしている。また、教育学研究科の研究・学習全般について自由記述で問う質問（問 12）の回答からは、意義ある学びとなったなどの回答があり、修了生は総じて大学での教育内容について満足し、現在の職場においても大学での学びを生かすことができていることがうかがえる。

大学での教育研究が、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益かを問う質問（問 9-1）において、肯定的な回答率（「1.大いにそう思う」＋「2.ややそう思う」）は、100.0%、職業に関することとは別に、社会生活において有益かを問う質問（問 10-1）における肯定的な回答率（「1.大いにそう思う」＋「2.ややそう思う」）は、93.8%といずれも高い回答率であった。

特に、職業生活において有益かを問う質問（問 9-1）における、「1.大いにそう思う」の回答率が 81.3%と高い結果となった。具体的にどのような点でそう思うかという自由記述（問 9-2）の回答には、「理論に基づいて、根拠をもって説明したり、評価を返したりすることの重要性、有益性を学び、それを生かして職務に当たることができている。」など、大学における学びが有意義で、それが今の職業生活に役立っているといった記述が多く見られた。

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

〇総合的にみて、教育学研究科で学んだことや研究・学習全般についての修了生の満足度は高く、他大学との交流（単位認定、発表会参加）についても評価が高い。

〇特に、修了生の職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益だという回答率が高く、それが今の職業生活に役立っていることがうかがえる。

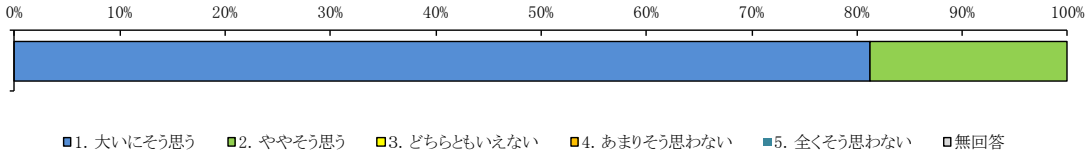
【改善を要する点】

〇実践的な内容の充実を求める声とともに、実習の在り方について、やや目的が不明確であったという意見があった。引き続き、カリキュラム内容の検討、授業改善が求められる。

【参考資料】

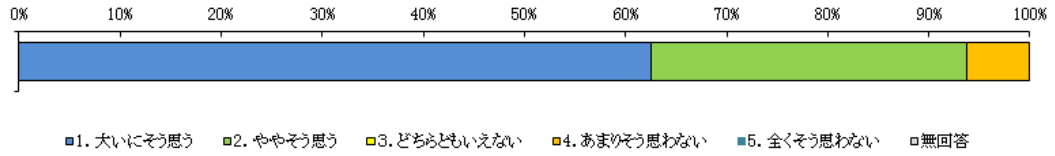
問9－1．教育学研究科での教育・研究は、職業生活において求められる知識や能力を得る上で有益でしたか。

1. 大いにそう思う		2. ややそう思う		3. どちらともいえない		4. あまりそう思わない		5. 全くそう思わない		無回答		総計	
13	81.3%	3	18.8%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	100.0%



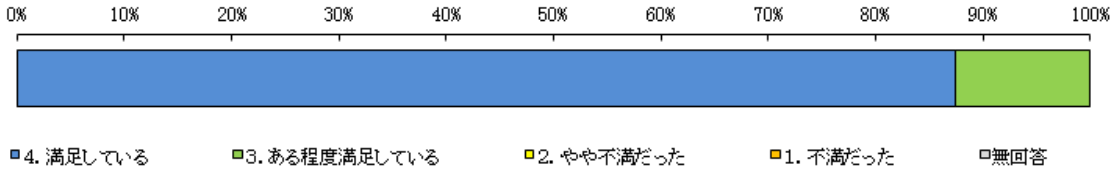
問10－1．教育学研究科での教育・研究は、（職業に関することは別に）社会生活において有益でしたか。

1. 大いにそう思う		2. ややそう思う		3. どちらともいえない		4. あまりそう思わない		5. 全くそう思わない		無回答		総計	
10	62.5%	5	31.3%	0	0.0%	1	6.3%	0	0.0%	0	0.0%	16	100.0%



問11．総合的にみて、教育学研究科で学んだことについての満足度はどうですか。

4. 満足している		3. ある程度満足している		2. やや不満だった		1. 不満だった		無回答		総計	
14	87.5%	2	12.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	16	100.0%



地域マネジメント研究科

（１）分析結果

概ね、前回の令和 5 年分の結果と同様の傾向が見られる。

今回のアンケート対象者は、令和 3 年度修了の 34 名と令和 4 年度修了の 36 名であり、大半を占める 17 期生（令和 2 年度入学)、18 期生（令和 3 年度入学）ともに、ほぼコロナ禍で 2 年間を過ごした。

総回答者数は 21 名であったが、特筆すべきは、半数強が離転職を経験しており、同時に、現在の職業への満足度という点で、ほぼ全員が「満足」「ある程度満足」と回答し、自身のキャリアプランを踏まえ、良い方向にキャリアを積み重ねていることが示唆される。

「人材育成目標に対してカリキュラムが十分であるか」という点について、1 名否定的な回答があったが、当該回答者も「主指導者の指導」「副指導者の指導」については、「大いに十分」と回答している。「主指導者の指導」「副指導者の指導」については、全員が肯定的に回答しており、研究科のカリキュラムや、教育・研究を巡る指導体制については、満足度が高いと判断できる。一方で「身についた」が「役にたっていない」とする回答が数件散見される質問項目があり（「課題の特定や解決」「リスクの評価や対応」)、実践性を高めるという点での工夫が必要である可能性は否定できない。

自由記述では、記述内容は概ね肯定的なものとなっており、プロジェクト研究の取組みの継続や、教員を含む研究科関係者（同級生等）とのつながりでの取組みの継続も、それぞれ 40%程度にのぼる。第 4 期中期目標中期計画で注力しているアントレプレナーシップ育成関連では、新規創業 2 名、新規事業創出 3 名の実績があり、修了後の関係性の維持の中で成果に結実しており、継続して、後続の第 5 期計画への反映、実行に尽力する必要がある。

（２）優れた点及び改善を要する点

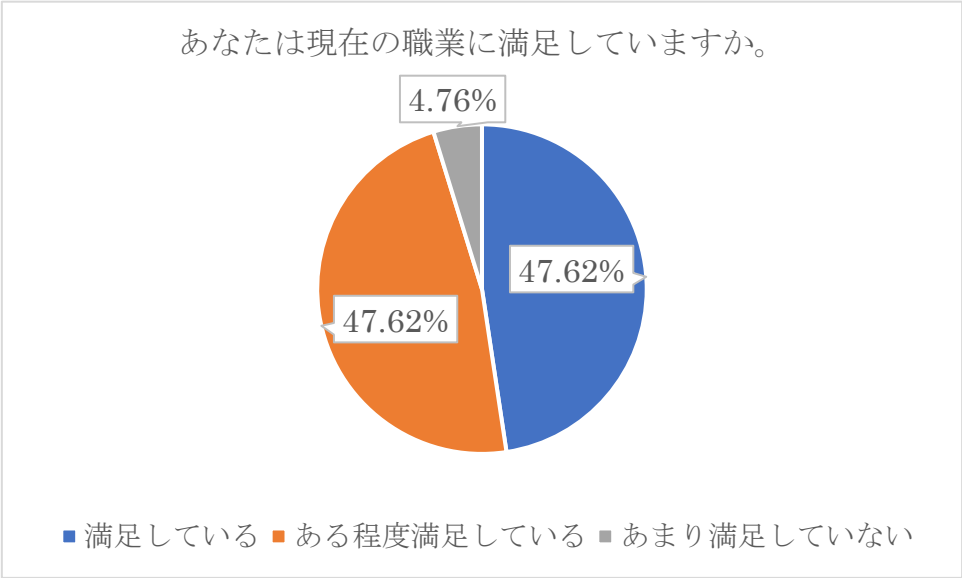
【優れた点】

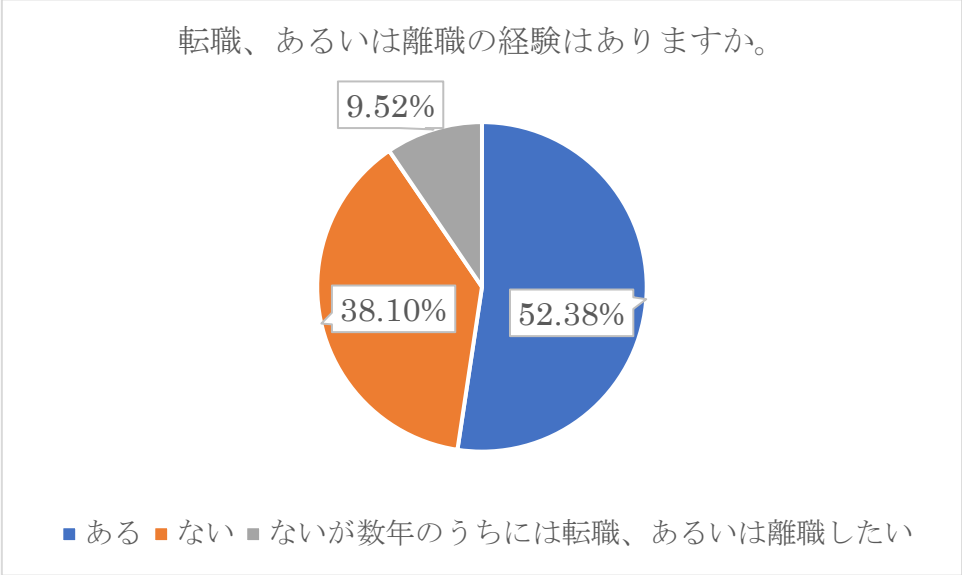
在学時の取組みのポスト MBA 等での継続、教員や同級生との共同での取り組み、新規創業や新規事業創出など、教育や研究を含めた在学時の経験や、在学時に培った人的ネットワークを活用した取組みに注力する修了生が一定数おり、関係性の維持と成果創出という点で評価できる。

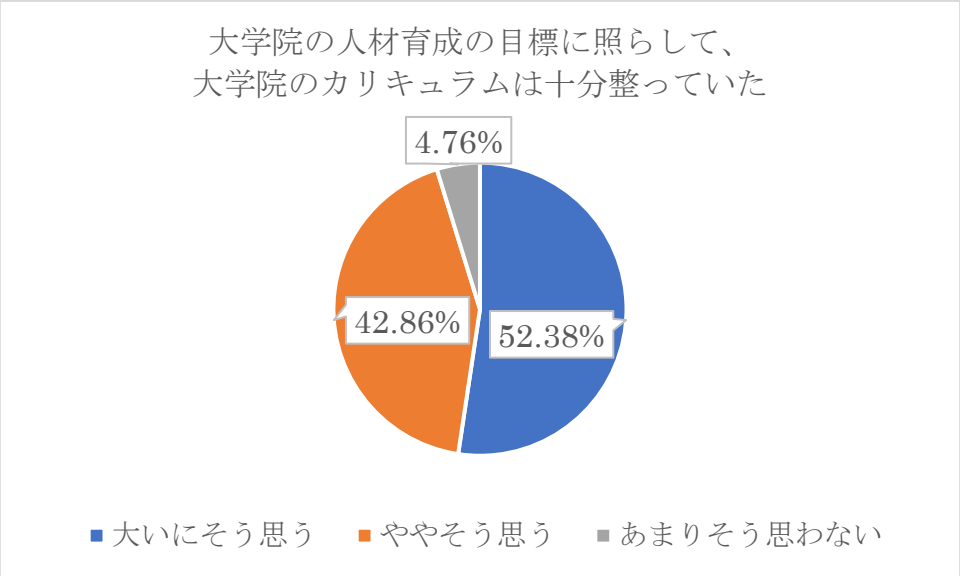
【改善を要する点】

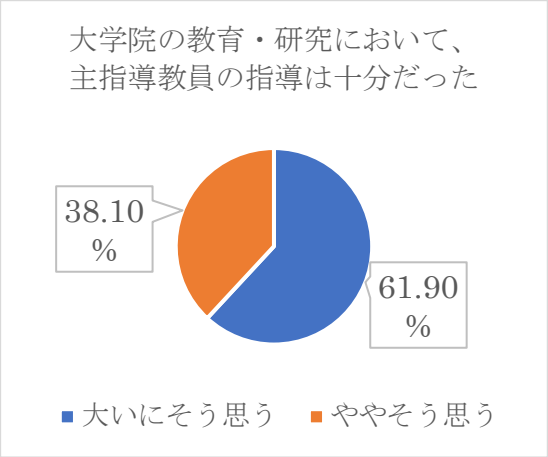
人材育成目標としての「専門知識・理解」「研究能力・応用力」「倫理観・社会的責任」「グローバル・マインド」について、「グローバル・マインド」以外の項目については、身についたかどうかでは肯定的な回答がほぼ 100%であったが、役立っているかどうかでは 80%に留まった。「グローバル・マインド」については、身についたかどうかについて肯定的な回答が 70%、役立っているかどうかでは 60%の肯定的な回答に留まり、カリキュラムに関する改善を含め、検討が必要である。（本件については、令和 5 年分調査でも同様）

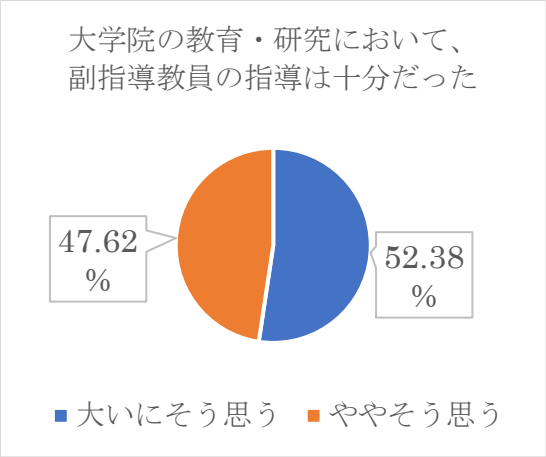
【参考資料】


あなたは現在の職業に満足していますか。
4.76%
47.62%
47.62%
満足している
ある程度満足している
あまり満足していない


転職、あるいは離職の経験はありますか。
9.52%
38.10%
52.38%
ある
ない
ないが数年のうちには転職、あるいは離職したい


大学院の人材育成の目標に照らして、
大学院のカリキュラムは十分整っていた
4.76%
42.86%
52.38%
大いにそう思う
ややそう思う
あまりそう思わない


大学院の教育・研究において、
主指導教員の指導は十分だった
38.10
%
61.90
%
大いにそう思う
ややそう思う


大学院の教育・研究において、
副指導教員の指導は十分だった
47.62
%
52.38
%
大いにそう思う
ややそう思う

＜企業等アンケート調査＞

１．全学的な視点からの分析

（１）分析結果

①卒業生・修了生に対する満足度（問 4）・・・図 1 参照

令和 3、5 年度調査に引き続き、令和 7 年度調査でも肯定的回答（「満足」と「ある程度満足」の合計）は 90%以上である。

②職務遂行上での卒業生・修了生の能力に対する評価（問 5）・・・図 2 参照

肯定的評価（「身につけている」と「どちらかといえば身につけている」の合計）が 90%以上の項目：「1. 論述作文能力・コミュニケーション能力（日本語)」、「3. 情報リテラシー・数量的スキル」、「4. 知識・理解」、「5. 問題解決・課題探求能力」、「6. 倫理観・社会的責任」、「7. 地域理解・国際理解」、「8. 自己教育の態度」

肯定的評価が 60%以下の項目：「2. 論述作文能力・コミュニケーション能力(外国語)」

（２）優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

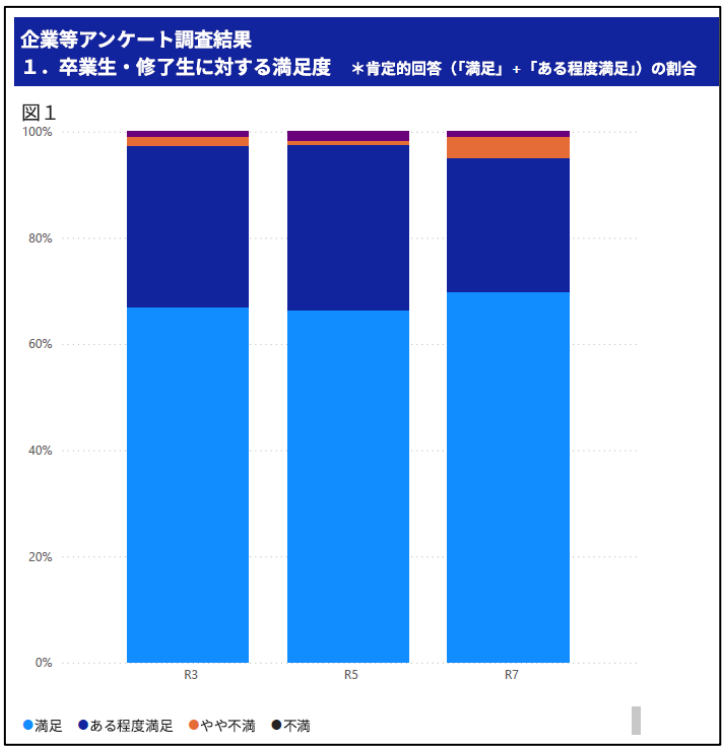
・企業等の卒業生・修了生に対する満足度は、過去 3 回の調査を通して、継続して高い値を示している。

・職務遂行上での卒業生・修了生の能力に対する評価については、大多数の企業等が、論述作文能力・コミュニケーション能力（日本語)、情報リテラシー・数量的スキル、知識・理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任、地域理解・国際理解、自己教育の態度、に関して肯定的な評価をしていた。これらのうち、論述作文能力・コミュニケーション能力（日本語)、知識・理解、問題解決・課題探求能力、倫理観・社会的責任、地域理解・国際理解は、学士課程のディプロマ・ポリシーに該当しており、企業等から本学の教育成果が認められていることがうかがえる。

【改善を要する点】

・職務遂行上での卒業生・修了生の能力に対する評価のうち、論述作文能力・コミュニケーション能力（外国語）の肯定的評価は相対的に低くなっていた。この傾向は、過去 3 回の調査を通して継続的に表れている。本学は、これまでも、全学共通教育における既習外国語、初修外国語の学習はもちろんのこと、グローバル人材育成プログラムを通した留学支援、グローバルカフェでの交流等の学習支援を通して、論述作文能力・コミュニケーション能力（外国語）を育成してきた。加えて、外国語での学会発表、論文投稿をはじめとした顕著な業績を挙げた大学院生に対しては表彰を行ってきた。これらの学習支援や表彰については継続しつつも、さらなる能力獲得に向けて支援体制を構築することが求められている。

【参考資料】


企業等アンケート調査結果
１．卒業生・修了生に対する満足度　＊肯定的回答（「満足」＋「ある程度満足」）の割合
図１
100%
80%
60%
40%
20%
0%
R3
R5
R7
満足
ある程度満足
やや不満
不満

2．職務遂行上での卒業生・修了生の能力に対する評価

＊肯定的回答（「身につけている」＋「どちらかといえば身につけている」）の割合。それぞれの能力に対して「必要とされない」と回答した企業を除く。

図2

